

津市地域公共交通 現況整理資料

令和7年2月

目 次

1. 津市の人口.....	1
(1) 人口の概要.....	1
(2) 人口分布.....	3
(3) 地域別の高齢化	4
(4) 人口の将来推計	6
(5) 通勤・通学の動向	7
2. 津市の施設立地状況.....	11
(1) 医療機関.....	11
(2) 高等学校・大学	13
(3) 商業施設.....	15
3. 津市の交通.....	17
(1) 道路網	17
(2) 鉄道.....	18
(3) 乗合バス.....	27
(4) タクシー	49
(5) 航路(津エアポートライン).....	51
(6) 福祉有償運送登録法人.....	52
(7) その他の移動サービス	53
(8) 運転免許自主返納件数.....	54
4. 観光客入込客数.....	55
5. アンケート結果.....	57
(1) 津市総合計画のための市民意識調査.....	57
(2) 市政アンケート.....	61

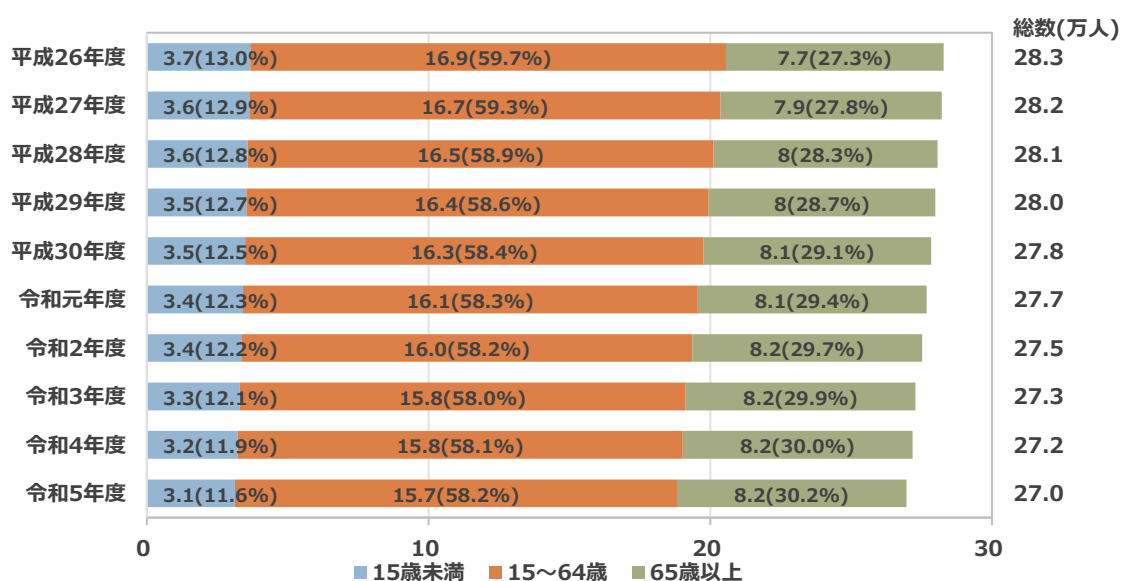
資料編

1. 津市の人口

(1) 人口の概要

津市の総人口は、平成 18(2006)年 1 月の合併以降減少していますが、令和 5(2023)年度末で約 27 万人となっており、三重県の市町では四日市市に次いで多くなっています。

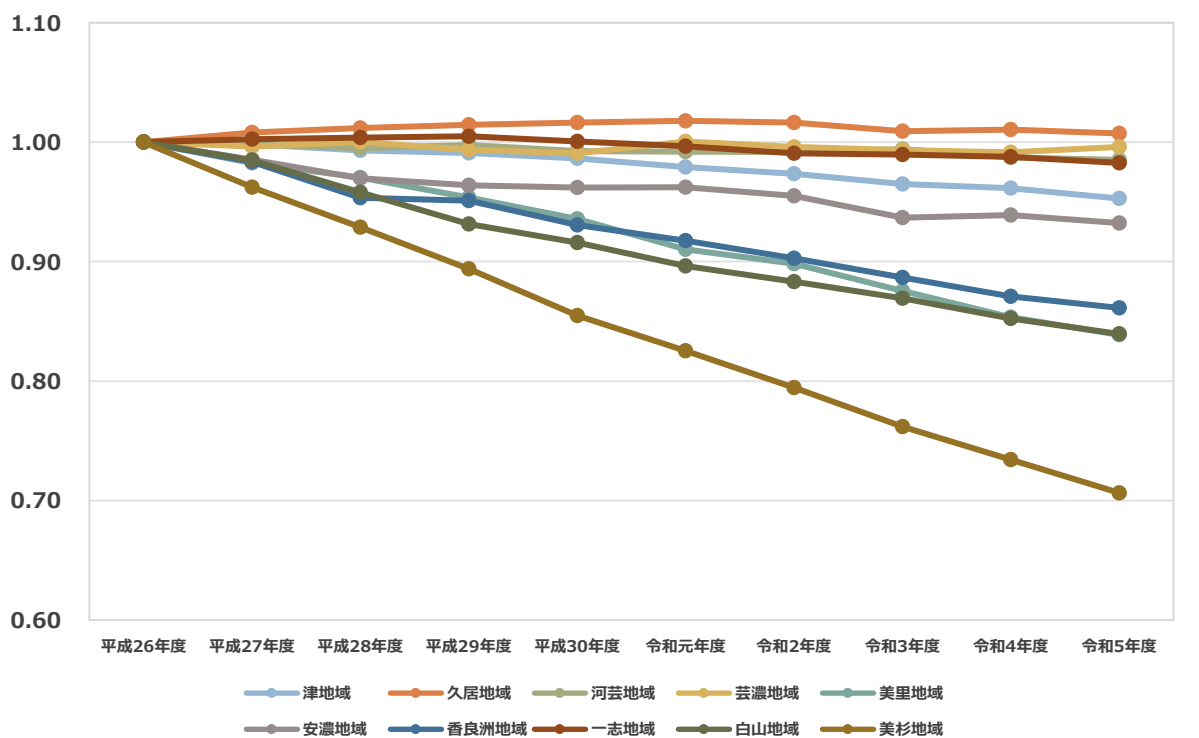
生産年齢人口(15～64 歳)、年少人口(15 歳未満)共に減少しており、生産年齢人口は、平成 26(2014)年度には約 16.9 万人であったものが、令和 5(2023)年度には約 15.7 万人に減少しています。



※各年度末(3月31日)の人口(外国人を含む)
(出典：住民基本台帳)

図 1 津市の年齢 3 区分別人口の推移

人口の推移を地域別に見ると、平成 26(2014)年度末の人口を 1.00 としたとき、令和 5(2023)年度末では久居地域の 1.01 が 1.00 を上回って、芸濃地域でも 1.0 とほぼ横ばいで推移していますが、その他の地域は 1.00 を下回っており、特に美里地域・香良洲地域・白山地域・美杉地域は 0.90 を下回っており、人口減少が著しくなっています。



※各年度末(3月31日)の人口(外国人を含む)
(出典：住民基本台帳)

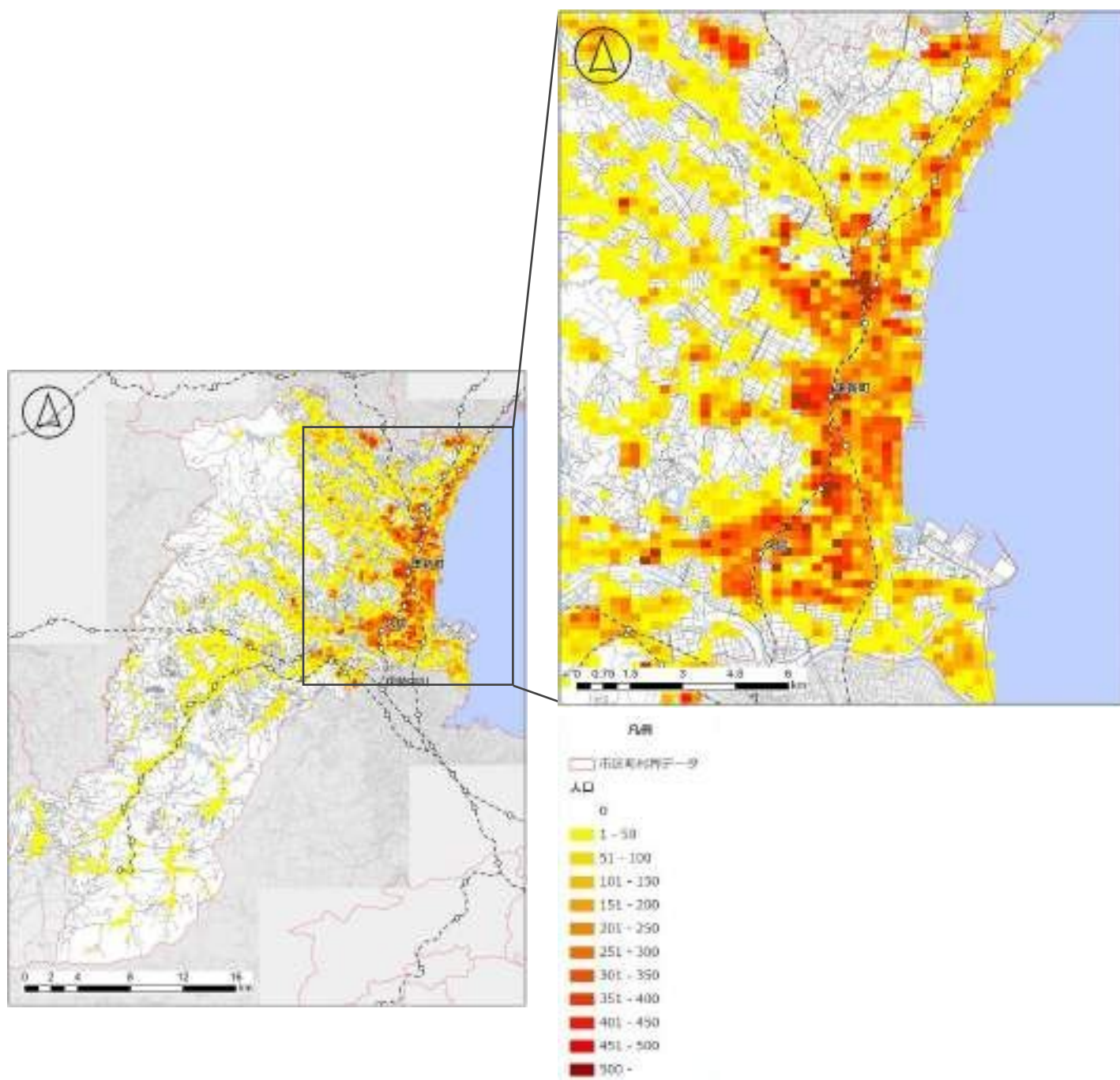
図 2 地域別人口推移

表 1 地域別人口推移

地域	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
津	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	0.98	0.97	0.96	0.96	0.95
久居	1.00	1.01	1.01	1.01	1.02	1.02	1.02	1.01	1.01	1.01
河芸	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99
芸濃	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	1.00	1.00	0.99	0.99	1.00
美里	1.00	0.98	0.97	0.95	0.94	0.91	0.90	0.88	0.85	0.84
安濃	1.00	0.99	0.97	0.96	0.96	0.96	0.96	0.94	0.94	0.93
香良洲	1.00	0.98	0.95	0.95	0.93	0.92	0.90	0.89	0.87	0.86
一志	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	0.98
白山	1.00	0.98	0.96	0.93	0.92	0.90	0.88	0.87	0.85	0.84
美杉	1.00	0.96	0.93	0.89	0.85	0.83	0.79	0.76	0.73	0.71

(2) 人口分布

津市内の人口は、東部の伊勢湾岸沿いの市街地に集中しており、西部の平野部や山間部では低密度に分散しています。

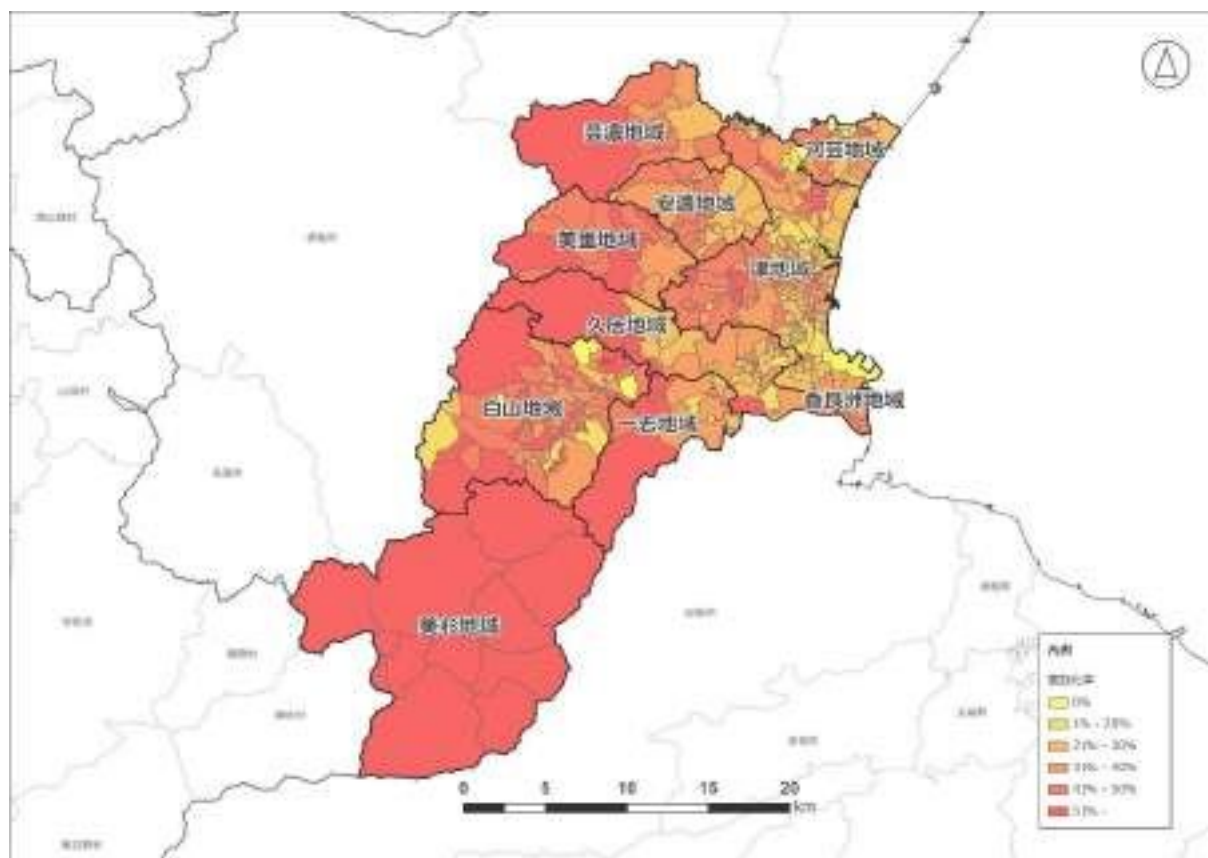


(出典：令和2年 国勢調査 250mメッシュデータ)

図 3 津市内の人口分布

(3) 地域別の高齢化

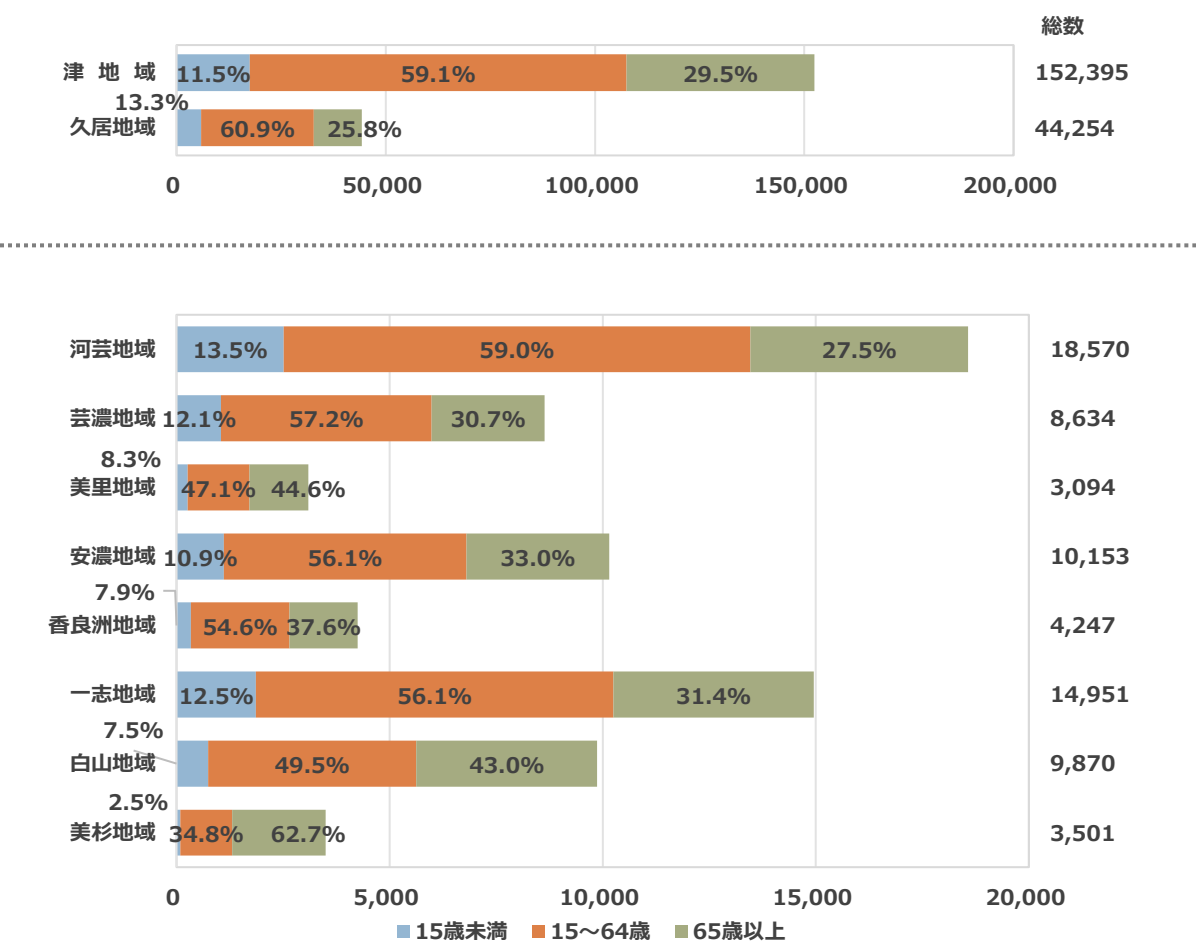
地域別(旧市町村)毎の高齢化では、地域差はあるものの各地域に高齢化率 40%を超えている地域があります。特に美杉地域では、全域で 50%を超えており、芸濃地域、美里地域、白山地域、一志地域の多くでは、40%を超えています。



(出典：令和 2 年 国勢調査)

図 4 地域別の高齢化率

高齢化率(65 歳以上の人口の割合)を地域別に見てみると、令和 5 度末で最も低いのは久居地域の 25.8%です。河芸地域及び津地域も 30%を下回っていますが、その他の地域は 30%を超えており、中でも美杉地域(62.7%)は他の地域と比べ大幅に高くなっています。

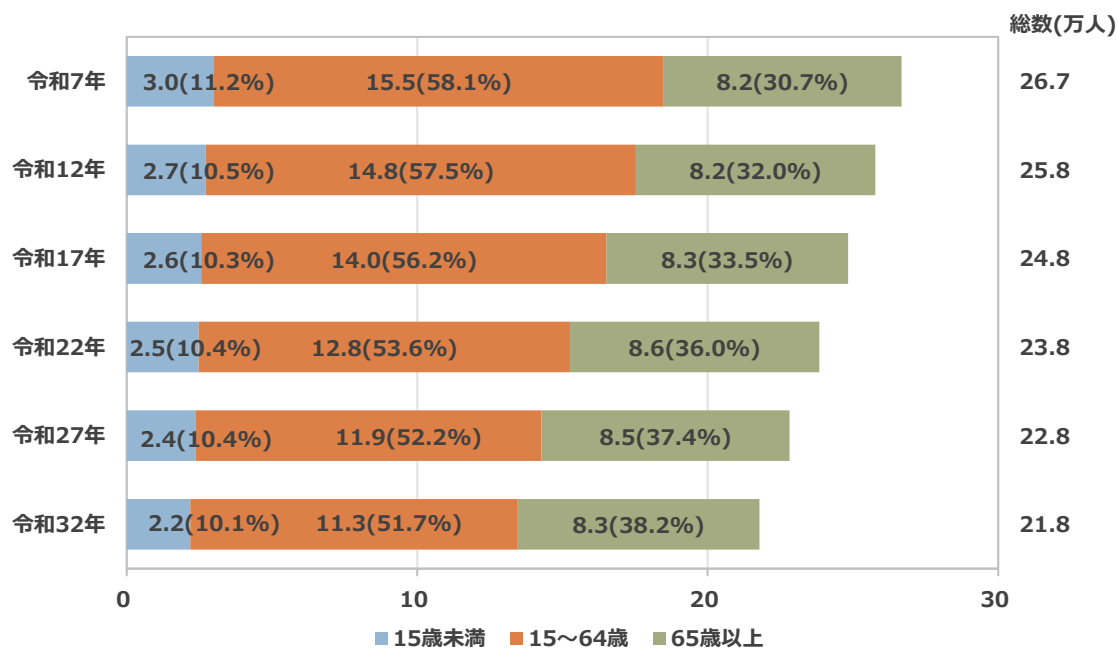


※令和 6 年 3 月 31 日の人口(外国人を含む)
(出典：住民基本台帳)

図 5 各地域の年齢 3 区分別人口

(4) 人口の将来推計

将来においても、津市の人口は減少傾向であり、令和 17(2035)年には、25 万人を下回る可能性があります。年齢別にみると、65 歳以上の人口は年々増加すると予測されていますが、令和 27(2045)年に減少に転じ、15 歳未満、15 歳以上～65 歳未満の人口減少が著しいと予測されるため、全体として人口は減少し、令和 32(2050)年には全体の人口は約 22 万人と推定されます。



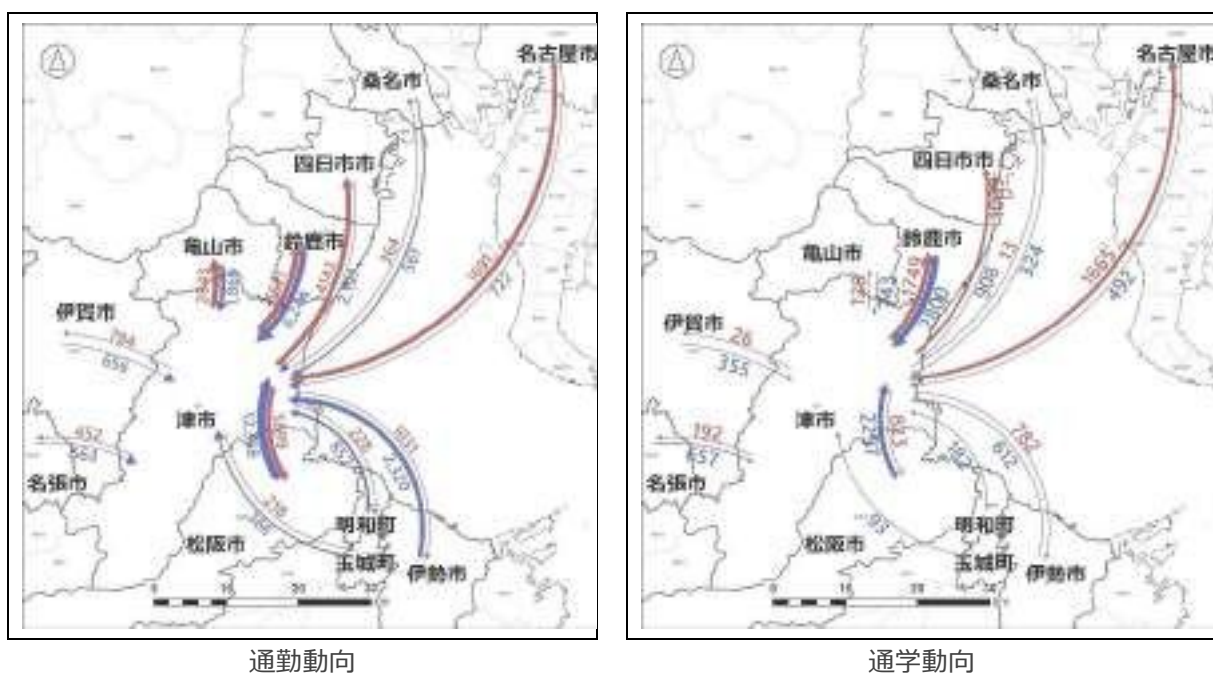
※令和 5 年度推計
(出典：国立社会保障・人口問題研究所)

図 6 人口の将来推計

(5) 通勤・通学の動向

津市の通勤・通学における流動総数を見ると、津市内での動きが主となっており、通勤・通学共に8割近くを占めています。一方、市域を越えた流出入は、通勤・通学共に、松阪市、鈴鹿市、四日市市、伊勢市などの近隣市町村に多い状況です。

また、通勤では流出・流入共に鈴鹿市及び松阪市が多く、通学では流出は鈴鹿市及び名古屋市、流入は松阪市及び鈴鹿市が多くなっているなど、隣接自治体とのつながりが強くなっています。



(出典：令和2年国勢調査)

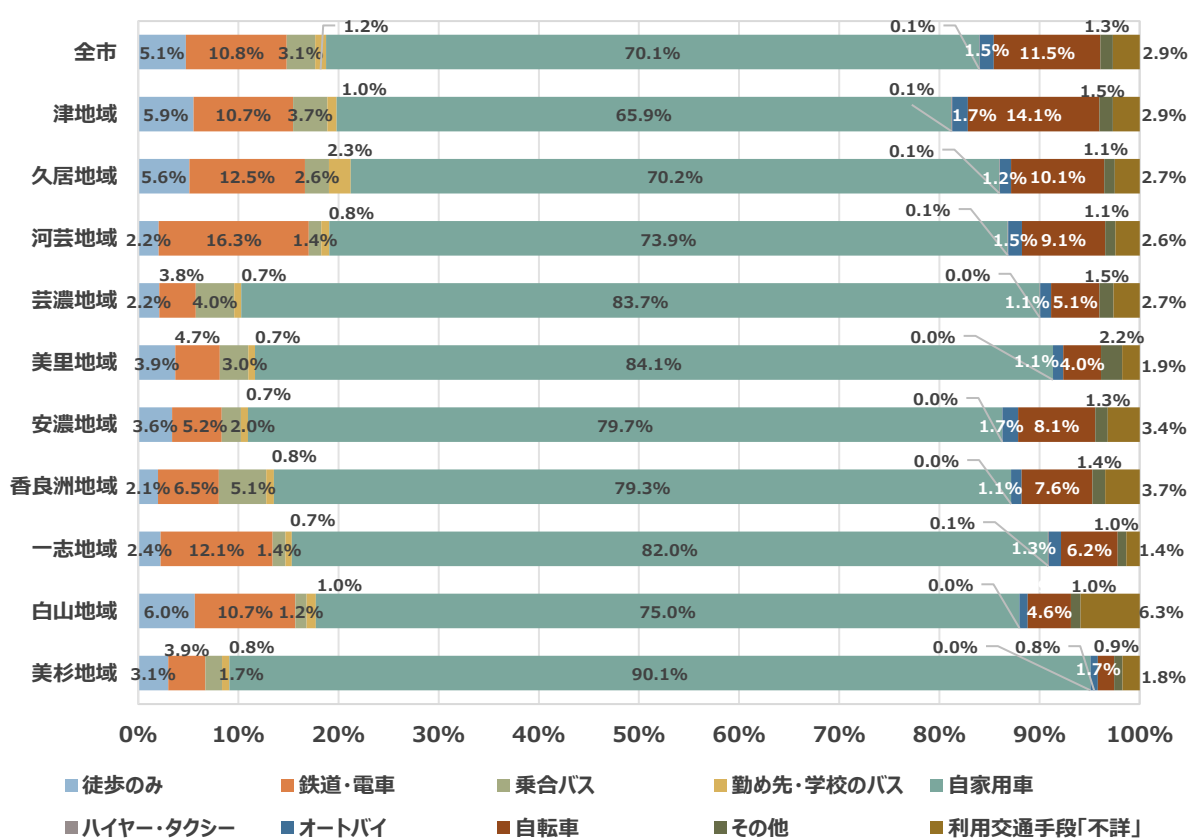
図7 通勤・通学動向

通勤・通学時の移動手段を見ると、全地域において自家用車の利用が最も多くなっています。津地域では、自動車の利用率が70%を下回っており、自転車の利用が14.1%と他の地域と比べ利用率が高いです。一方、津以外の地域では、自家用車の利用が70%以上です。

通勤・通学の区別で見ると、地域別の通勤の交通手段では、自家用車の利用がどの地域においても、70%以上であり、鉄道・電車及び乗合バスの利用は、津地域・河芸地域以外では、10%以下と低い利用率となっています。

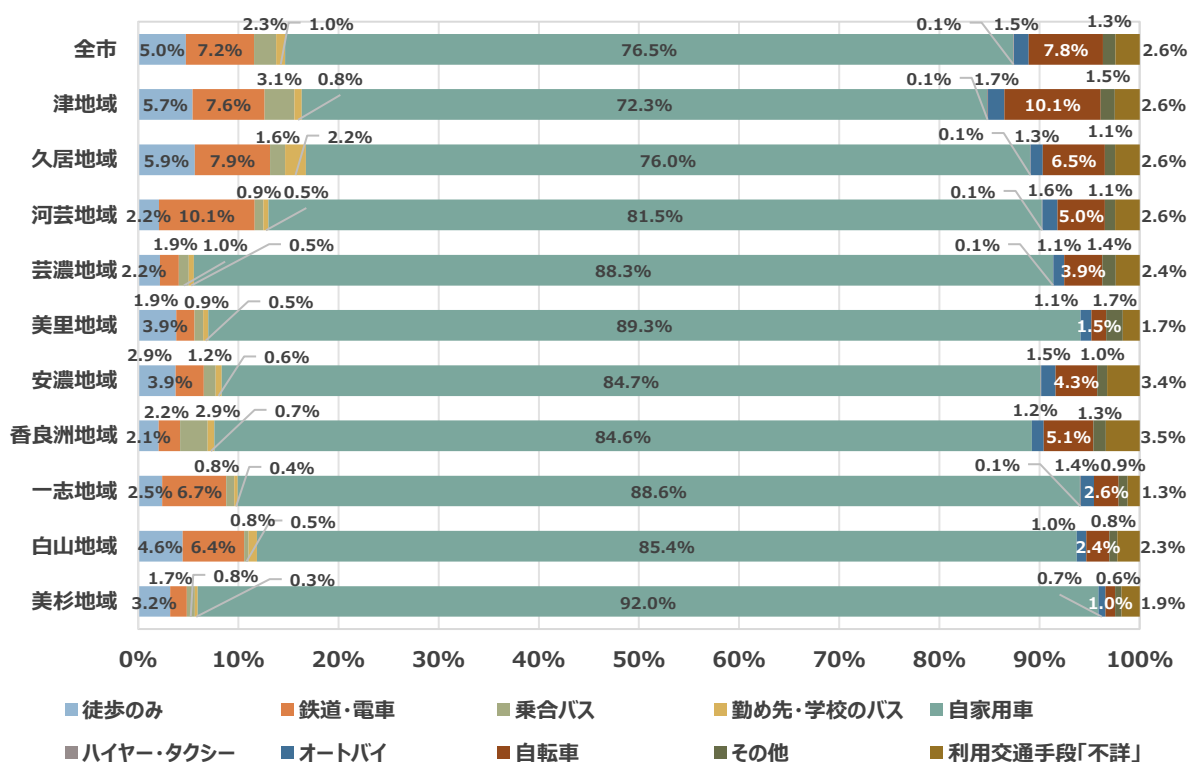
地域別の通学の交通手段では、どの地域においても自転車、鉄道・電車の利用率が高くなっています。また、芸濃地域では、乗合バ

スの利用率が40%以上で、美里地域、香良洲地域、美杉地域でも20%以上の利用率となっています。また、美杉地域では、自家用車の利用率が40%を超えており、他の地域より高いことが分かります。



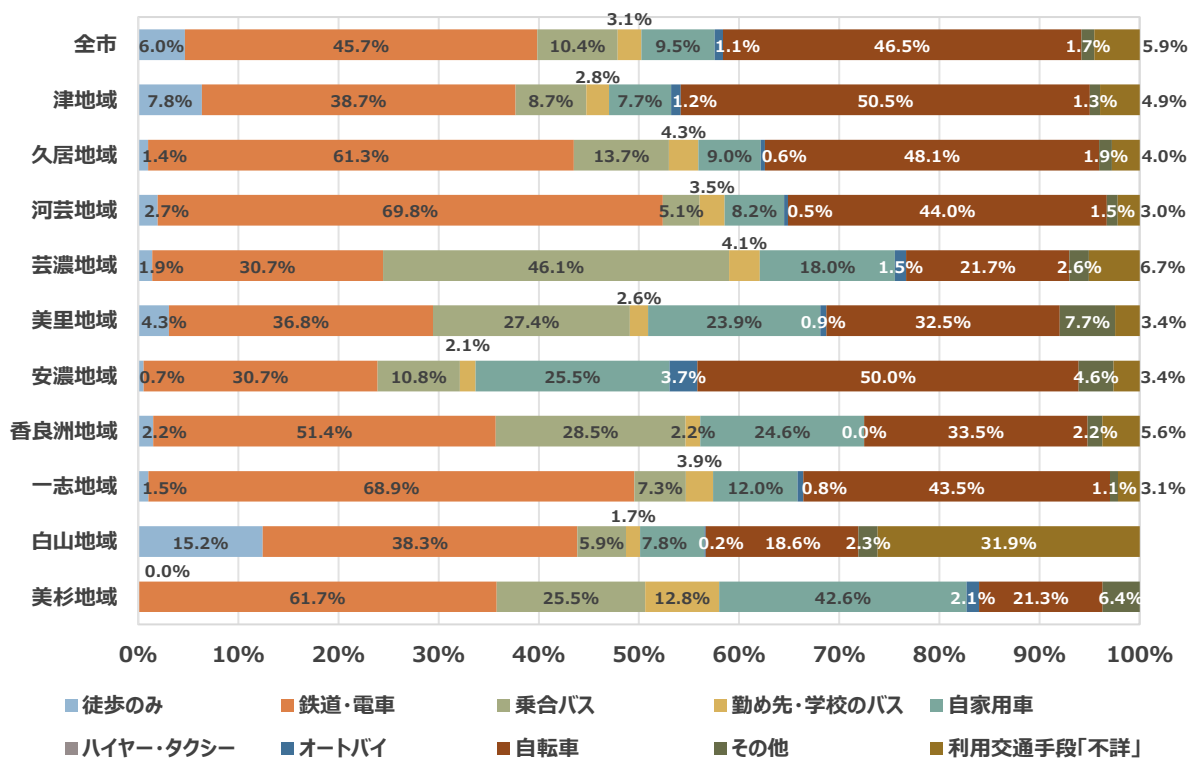
(出典：令和2年国勢調査)

図8 地域別の通勤・通学の交通手段



(出典：令和 2 年国勢調査)

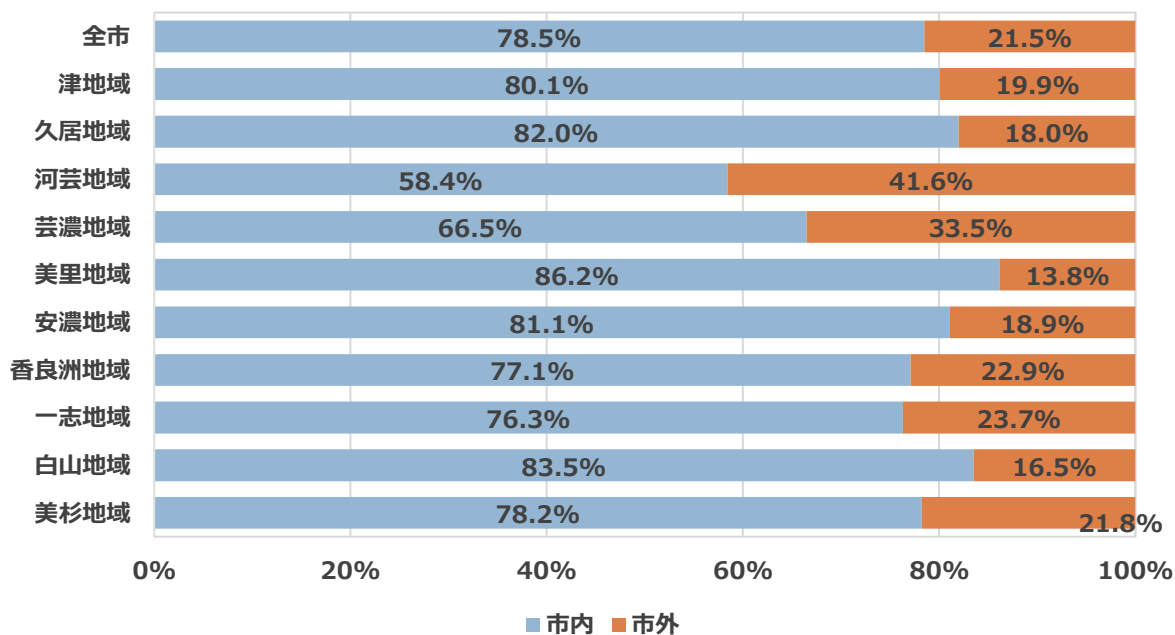
図 9 地域別の通勤の交通手段



(出典：令和 2 年国勢調査)

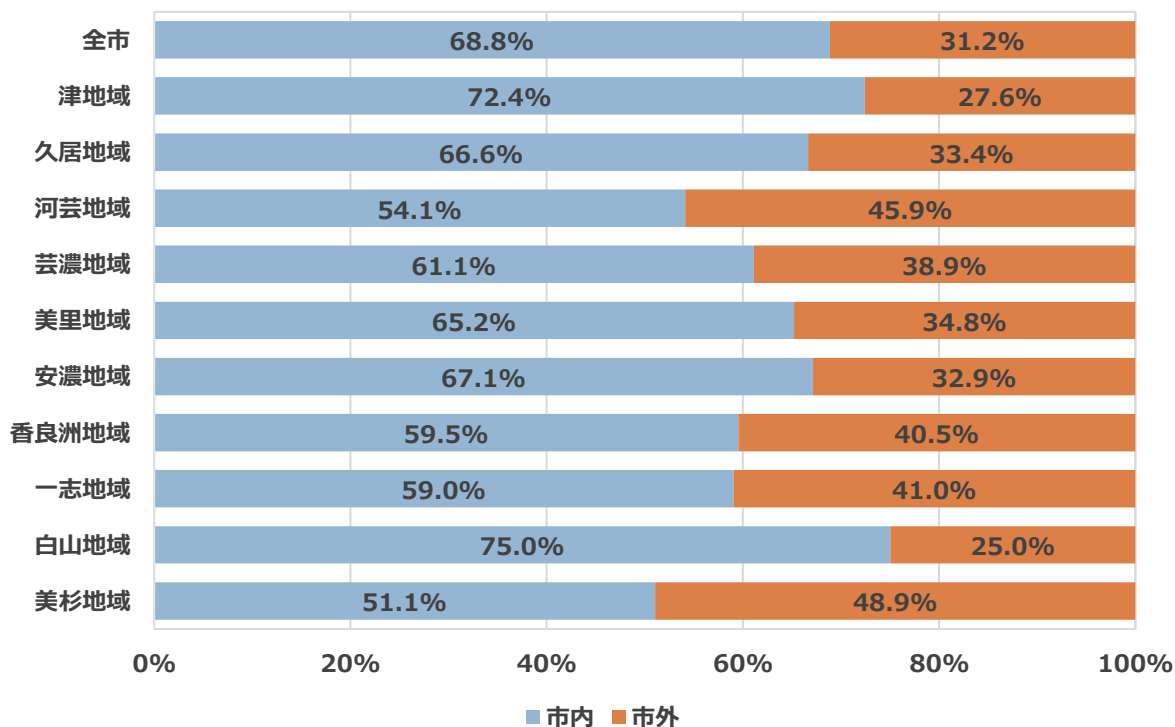
図 10 地域別の通学の交通手段

従業地・通学地の津市内外を地域別に見ると、従業地では河芸地域及び芸濃地域で市外が多くなっており、通学地では河芸地域、芸濃地域、香良洲地域、一志地域及び美杉地域で市外が多くなっています。



(出典：令和2年国勢調査(不詳を除く))

図 11 地域別従業地



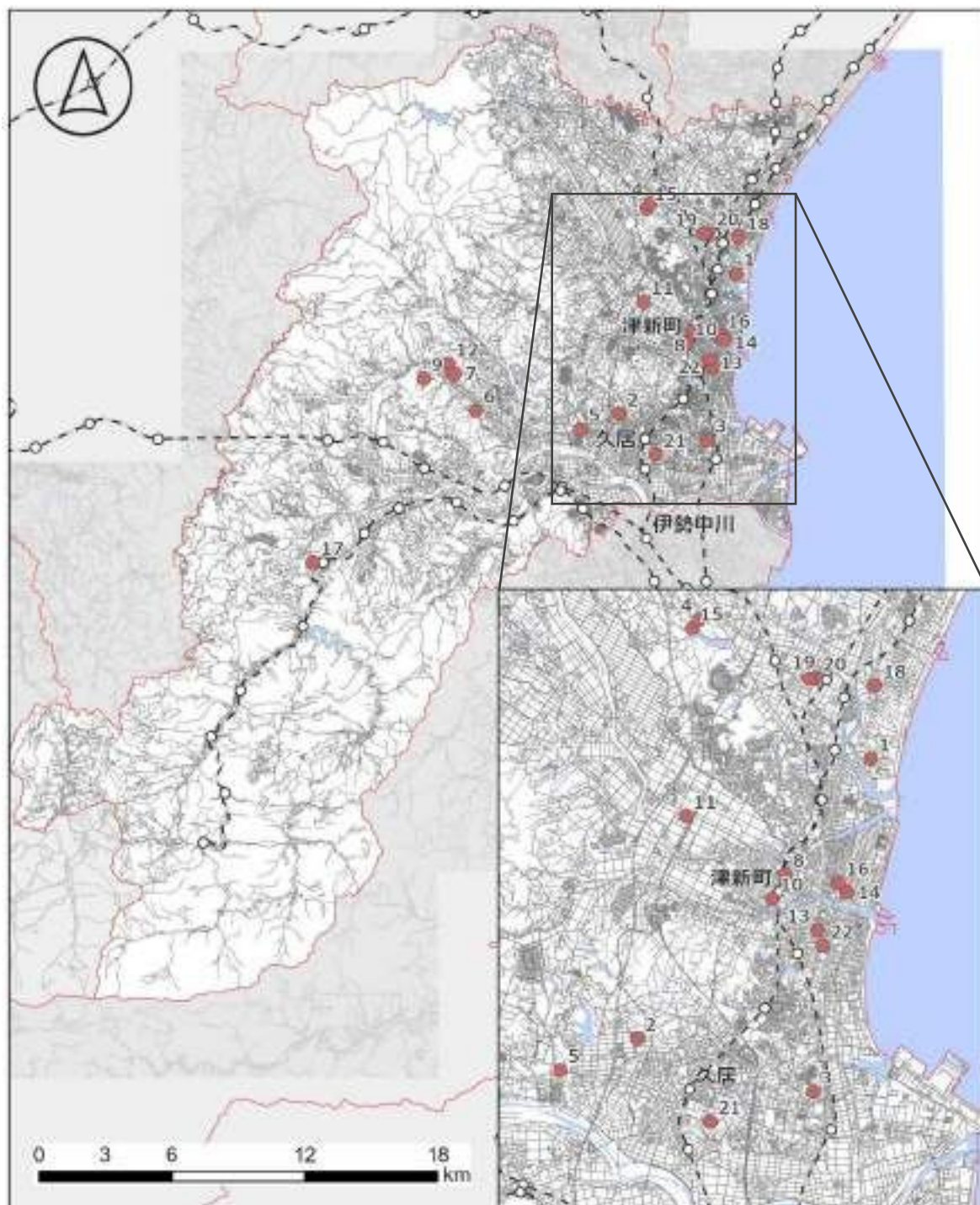
(出典：令和2年国勢調査(※不詳を除く))

図 12 地域別通学地

2. 津市の施設立地状況

(1) 医療機関

令和 6(2024)年 10 月において、津市内の病院（医療施設のうち、20 床以上の病床を有するもの）は、22 箇所あります。



(出典：地域医療情報システムより、中勢伊賀二次医療圏のうち津市内にある該当する病院を抽出)

図 13 津市内の医療機関

表 2 医療施設一覧

番号	施設名称	所在地	診療科目	総病床数
1	三重大学医学部附属病院	江戸橋	精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科 ほか 33 科	685
2	三重中央医療センター	久居明神町	精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科 ほか 28 科	486
3	三重県立こころの医療センター	城山	精神科、神経内科、歯科、脳神経内科、	348
4	三重病院	大里窪田町	精神科、神経内科、小児科、整形外科、小児外科 ほか 10 科	260
5	久居病院	戸木町	心療内科、精神科	225
6	藤田医科大学七栗記念病院	大鳥町	外科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、緩和ケア外科 ほか 1 科	218
7	榑原白鳳病院	榑原町	神経内科、循環器科、外科、整形外科、リウマチ科 ほか 5 科	199
8	永井病院	西丸之内	神経内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科 ほか 14 科	199
9	榑原温泉病院	榑原町	神経内科、泌尿器科、脳神経内科	199
10	武内病院	一色町	神経内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科 ほか 8 科	180
11	遠山病院	南新町	呼吸器科、消化器科、循環器科、外科、肛門科 ほか 14 科	180
12	榑原病院	榑原町	精神科、小児科	175
13	若葉病院	南中央	外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、リハビリテーション科 ほか 1 科	130
14	津生協病院	寿町	神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科 ほか 17 科	120
15	三重県立子ども心身発達医療センター	大里窪田町	整形外科、リハビリテーション科、児童精神科、小児整形外科	110
16	大門病院	大門	外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、麻酔科 ほか 1 科	106
17	三重県立一志病院	白山町	小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科 ほか 3 科	82
18	吉田クリニック	栗真中山町	神経内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、小児科 ほか 9 科	80
19	第二岩崎病院	一身田町	精神科、心療内科、リハビリテーション科	64
20	岩崎病院	一身田町	神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、外科 ほか 8 科	52
21	井上内科病院	久居井戸山町	精神科、呼吸器科、心療内科、呼吸器内科	32
22	倉本内科病院	下弁財町	呼吸器科、消化器科、循環器科、呼吸器内科、消化器内科 ほか 2 科	23

※水色は、旧津市外

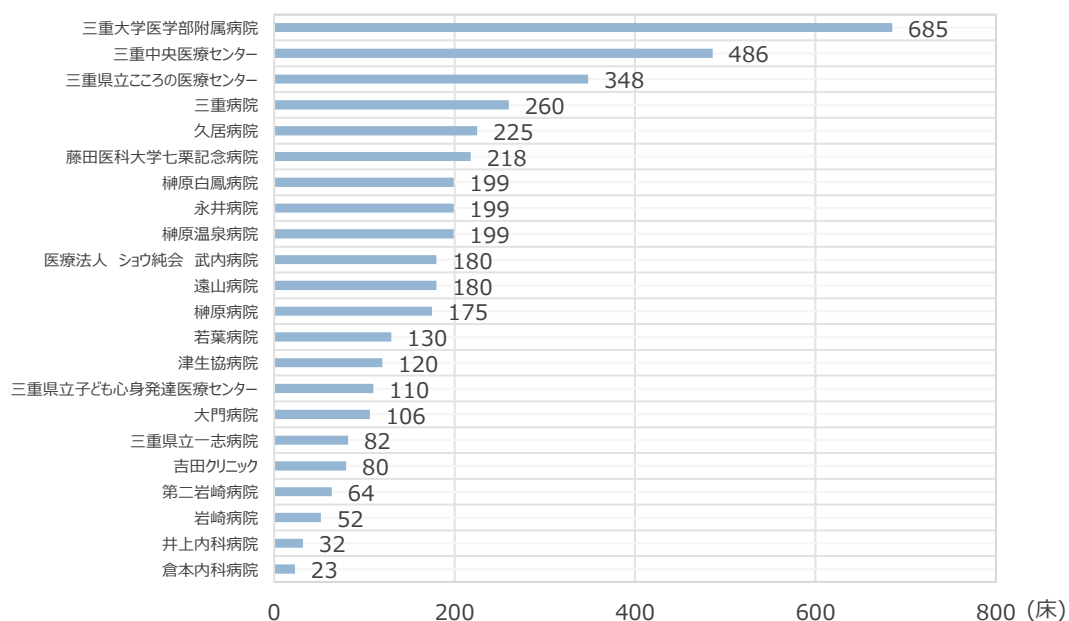
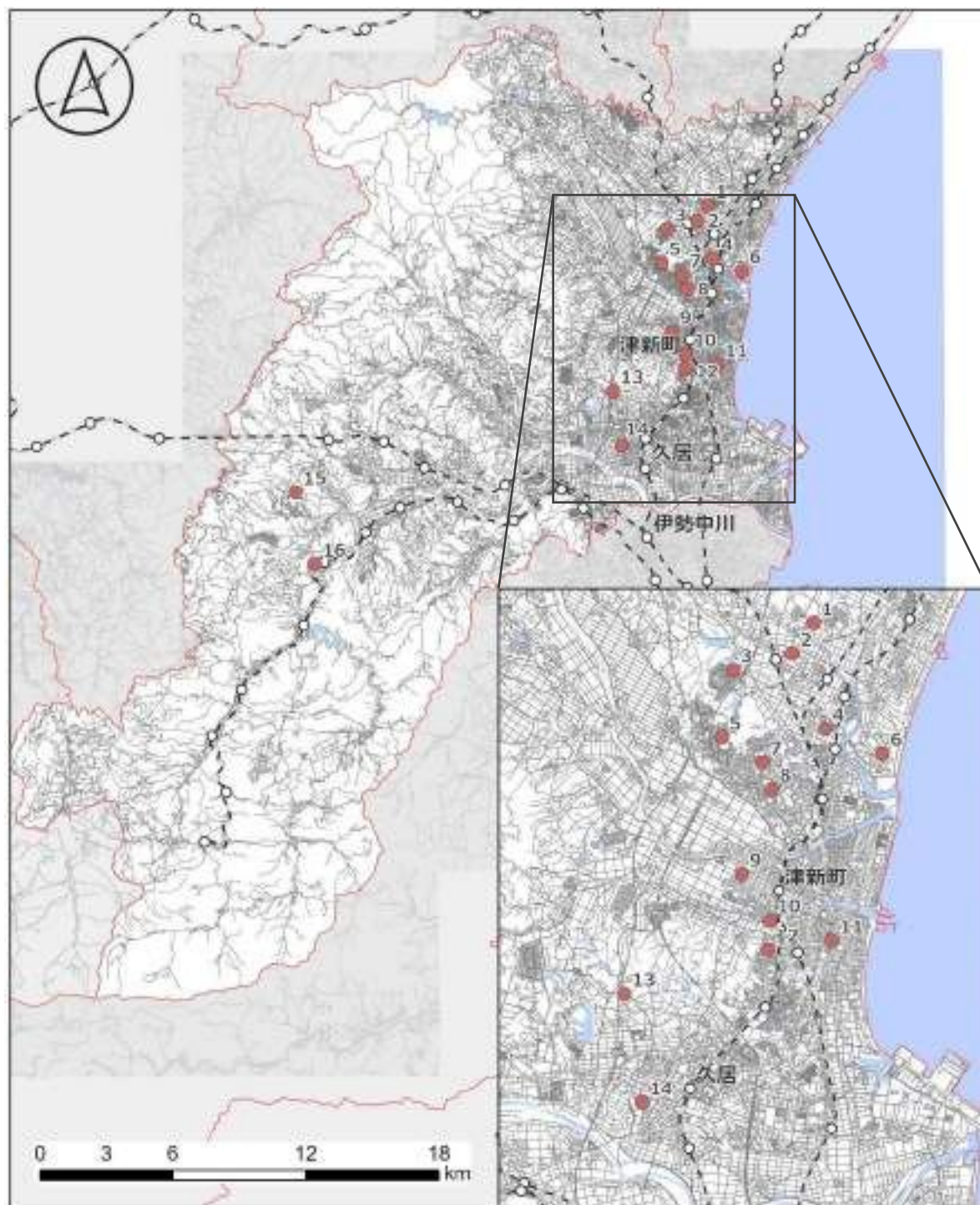


図 14 医療機関の病床数

(2) 高等学校・大学

令和 6(2024)年 5 月時点において、津市内に高校、短期大学、大学は、16 箇所あります。



(出典：三重県ホームページ)

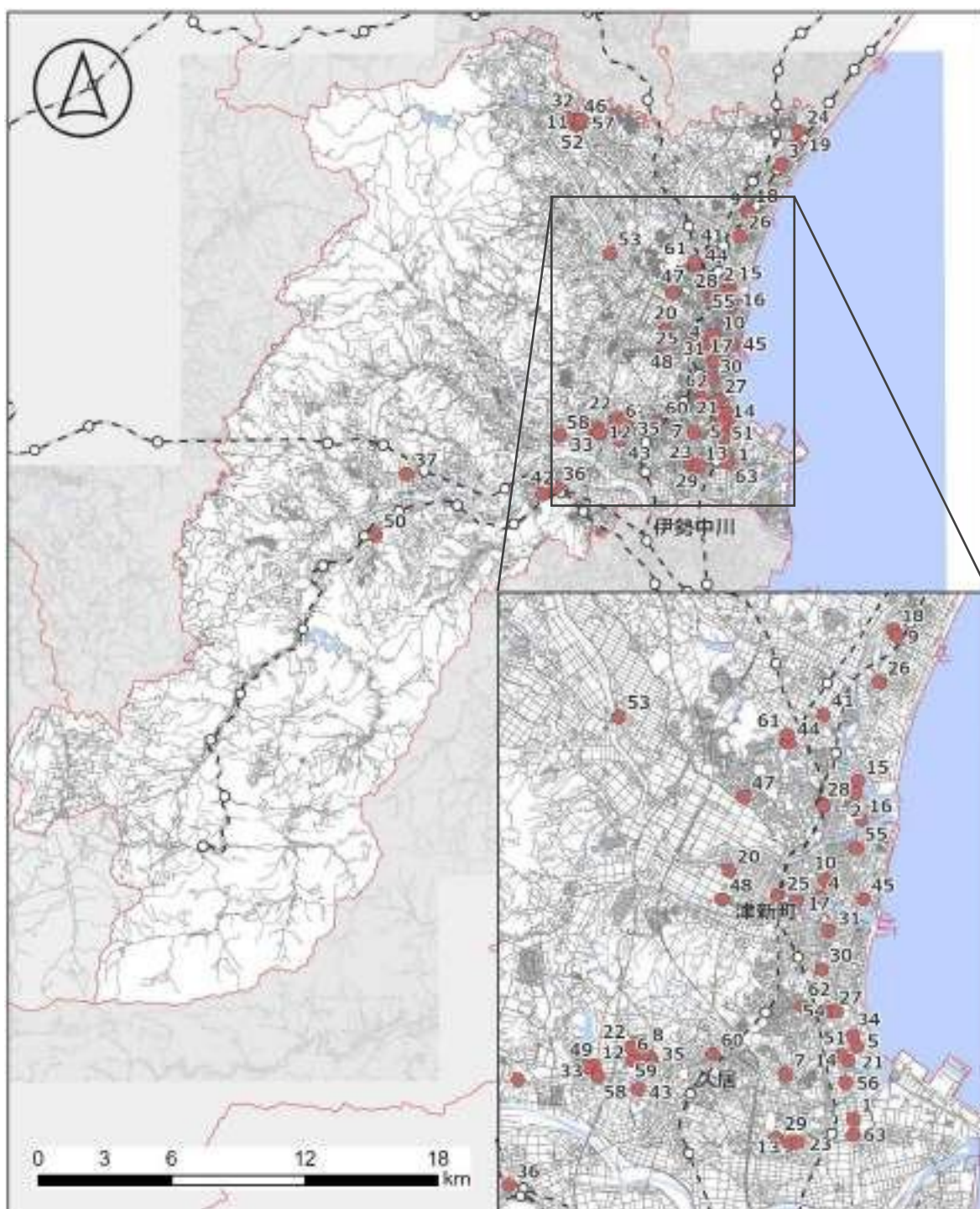
図 15 津市内の高校、短期大学、大学

表 3 津市内の高校、短期大学、大学一覧

番号	学校名	所在地
1	高田短期大学	一身田豊野
2	高田高等学校	一身田町
3	三重県立看護大学	夢が丘一丁目
4	三重短期大学	一身田中野
5	津西高等学校	河辺町
6	三重大学	栗真町屋町
7	津東高等学校	一身田上津部田
8	津商業高等学校	渋見町
9	津高等学校	新町
10	津工業高等学校	半田
11	みえ夢学園	柳山津興
12	セントヨゼフ女子学園	半田
13	久居高等学校	戸木町
14	久居農林高等学校	久居東鷹跡町
15	青山高等学校	白山町
16	白山高等学校	白山町南家城

(3) 商業施設

令和5年12月時点において、津市内に商業施設(商業面積が1,500㎡以上かつ、業態が食品スーパー、総合スーパー、ショッピングセンター、百貨店、寄合百貨店)は、35箇所あります。



(出典：全国大型小売店総覧 2023 年版)

図 16 津市内の商業施設

表 4 商業施設一覧

番号	施設名称	所在地	店舗面積(m ²)
1	イオンモール津南	高茶屋小森町	40,000
2	イオン津ショッピングセンター（イオン津店） ※令和6年2月から休業中	桜橋	25,347
3	イオンタウン津河芸（ザ・ビッグエストラ津河芸店）	河芸町	16,088
4	津松菱	東丸之内	15,450
5	イオン久居店	久居明神町	13,885
6	イオンタウン津城山	久居小野辺町	12,836
7	津センターパレスビル(マルヤマパレス店)	大門	9,614
8	イオンタウン芸濃（ザ・ビッグ芸濃店）	芸濃町	9,219
9	F1 マート津南店	高茶屋小森町	8,460
10	スーパーセンタートライアル津藤方店	藤方	7,714
11	桜橋 SC ノバ（MEGAドン・キホーテ津桜橋店）	桜橋	7,576
12	SENOPARK 津・Bゾーン（マックスバリュ津東店）	白塚町	6,896
13	ヤマナカアルテ津新町店、DCM カーマ津新町店	博多町	6,700
14	ベイスクエア津(ザ・ビッグ津藤方店、トイザらス津店)	藤方	6,296
15	津高茶屋ショッピングセンター(ラ・ムー津南店)	高茶屋小森町	5,133
16	スーパーサンシ河芸店	河芸町	5,133
17	津新町近鉄ビル(ぎゅーとら TRY mart.津新町店)	新町	4,895
18	津ステーションビル・チャム	羽所町	4,090
19	オークワ津高茶屋店	高茶屋小森町	3,951
20	マックスバリュ垂水店・ココカラファイン垂水店	津興	3,971
21	久居パワーセンター(コスモス久居インター店)	戸木町字北興	3,107
22	津北ショッピングセンター（マックスバリュ津北店）	一身田上津部田字口ノ坪	2,998
23	マックスバリュ一志店	一志町田尻	2,722
24	白山ショッピングセンター（マックスバリュ白山店）	白山町二本木	2,704
25	オークワ久居庄田店	庄田町	2,282
26	コスモス一身田店	一身田中野	2,274
27	ぎゅーとらラプリー一志店	一志町田尻	2,245
28	ぎゅーとらラプリー久居店	久居西鷹跡	2,220
29	マックスバリュ港町店	港町	2,115
30	ぎゅーとらラプリー芸濃店	芸濃町椋本	2,088
31	ぎゅーとらラプリー渋見店、ココカラファイン渋見店、ブリクストン	渋見町	2,018
32	ぎゅーとらラプリー津神戸店	神戸横田	1,963
33	マックスバリュ川口店	白山町	1,897
34	マルヤスメルビィ芸濃店	芸濃町	1,777
35	ぜにや安濃店	安濃町	1,756

3. 津市の交通

(1) 道路網

津市の道路網は、海岸沿いを南北に貫く国道 23 号、津市の中心部から美里地域を横断し、伊賀市へ抜ける国道 163 号、国道 23 号雲出本郷町交差点から久居地域及び白山地域を横断し、伊賀市へ抜ける国道 165 号の 3 つの国道が骨格となっています。また、国道 23 号の渋滞解消、交通安全の確保と地域経済の発展を支援するため、鈴鹿市を起点として、津市を経由し松阪市に至る国道 23 号中勢バイパスが令和 5 年 11 月 19 日に全線開通しました。

また、芸濃地域と津市の中心部とを結ぶ津関線、一志地域、白山地域、美杉地域と久居地域とを結ぶ久居美杉線等の主要地方道が国道を補完し、地域内のネットワークを形成しています。

さらに、自動車専用道路として伊勢自動車道が市域東部を南北に貫き、芸濃 IC、津 IC、久居 IC が設けられています。市域外となりますが、一志嬉野 IC も市境界に接して位置しています。

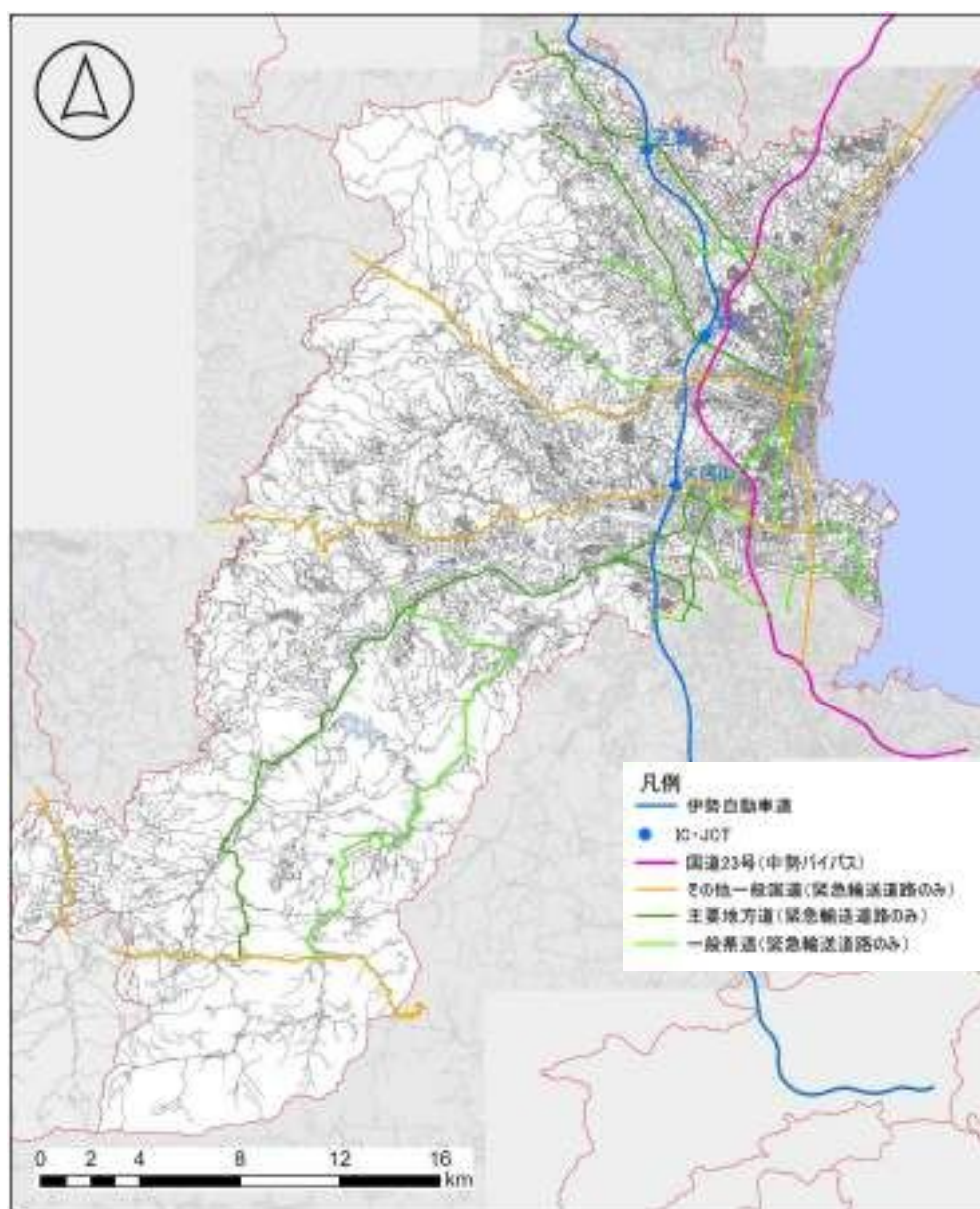
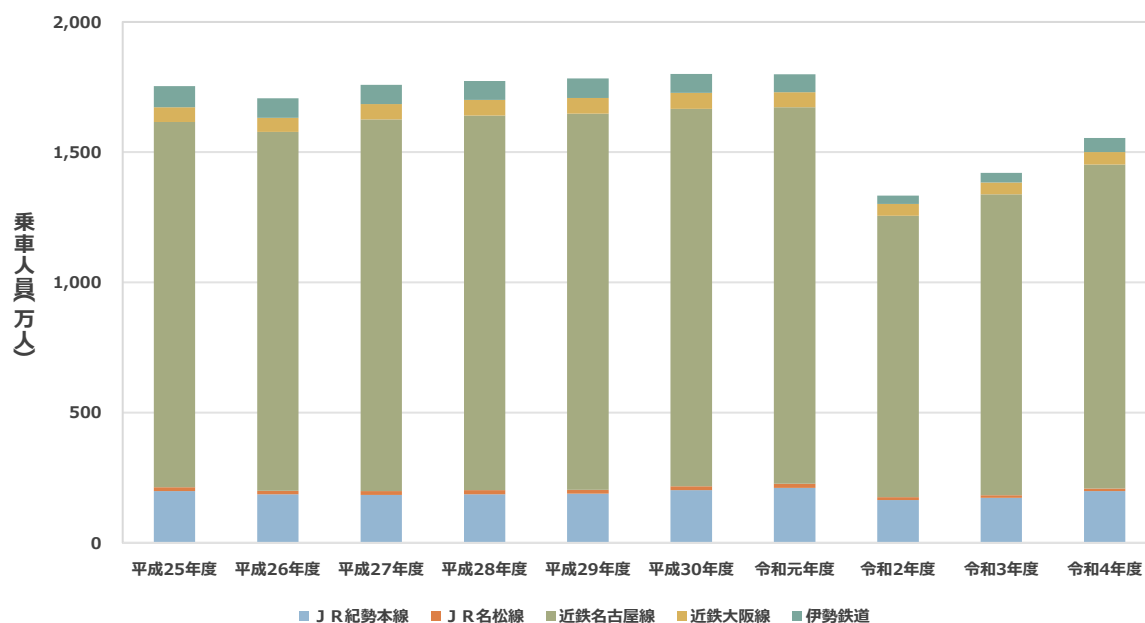


図 17 津市の道路網

津市内の鉄道駅における乗車人員は、平成 30 年度は約 1,800 万人/年でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、令和 2 年度で約 1,334 万人/年に落ち込みました。その後増加傾向にありますが、令和 4 年度は約 1,555 万人/年で、平成 30 年度の水準には戻っていません。

なお、近鉄名古屋線の乗車人員が約 8 割を占めています。



(出典：三重県統計書)

図 19 津市内における路線別乗車人員

表 5 津市内における路線別乗車人員

【単位：人】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
J R 紀勢本線	1,990,660	1,865,377	1,846,503	1,870,295	1,889,020	2,022,742	2,113,823	1,638,213	1,731,234	1,989,508
J R 名松線	143,978	132,147	147,253	152,806	145,981	148,749	163,043	116,267	103,153	98,336
近鉄名古屋線	14,043,471	13,776,641	14,264,304	14,380,114	14,449,903	14,497,543	14,453,313	10,804,792	11,542,667	12,440,016
近鉄大阪線	570,415	540,003	586,923	599,251	601,808	604,520	571,459	449,065	454,464	478,967
伊勢鉄道	810,367	757,055	738,590	735,576	741,759	731,045	694,898	329,216	379,936	541,437
合計	17,558,891	17,071,223	17,583,573	17,738,042	17,828,471	18,004,599	17,996,536	13,337,553	14,211,454	15,548,264

(出典：三重県統計書)

津駅の乗車人員は、令和 2 年度には約 557 万人/年にまで落ち込みましたが、令和 4 年度には 663 万人/年にまで回復しました。ただし、平成 30 年度と比べると 100 万人以上減少しています。

津駅の乗車人員は、近鉄名古屋線の利用が最も多く、次に JR 紀勢本線が続いています。

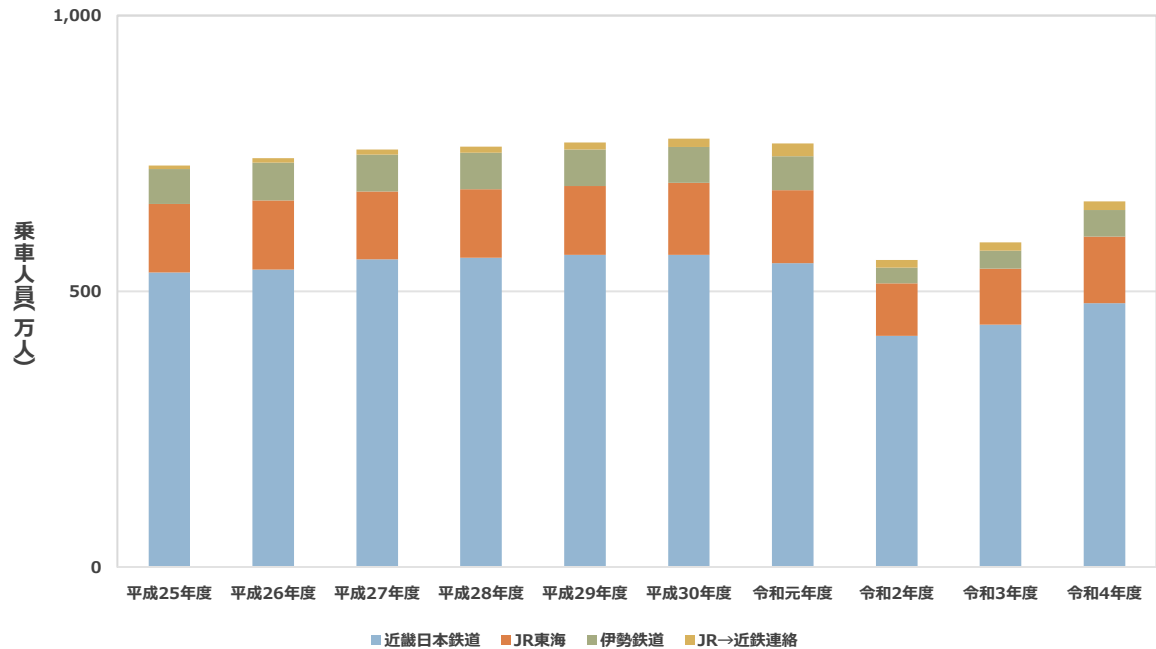


図 20 津駅乗車人員推移(鉄道事業者別)

表 6 津駅乗車人員推移(鉄道事業者別)

【単位：人】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
近畿 名古屋線	5,343,142	5,392,298	5,579,125	5,606,624	5,661,059	5,658,839	5,509,764	4,191,168	4,393,734	4,785,051
JR 紀勢本線	1,240,370	1,253,662	1,232,976	1,244,958	1,245,120	1,307,150	1,320,803	953,548	1,016,911	1,207,778
伊勢鉄道	631,200	684,985	666,879	662,533	663,983	652,683	618,987	282,565	325,689	481,470
JR→ 近鉄連絡※	62,870	81,198	93,865	111,045	128,195	149,265	232,374	139,815	149,411	156,546
合計	7,277,582	7,412,143	7,572,845	7,625,160	7,698,357	7,767,937	7,681,928	5,567,096	5,885,745	6,630,845

※)JR 津駅経由からの近鉄利用者数
(出典：三重県統計書)

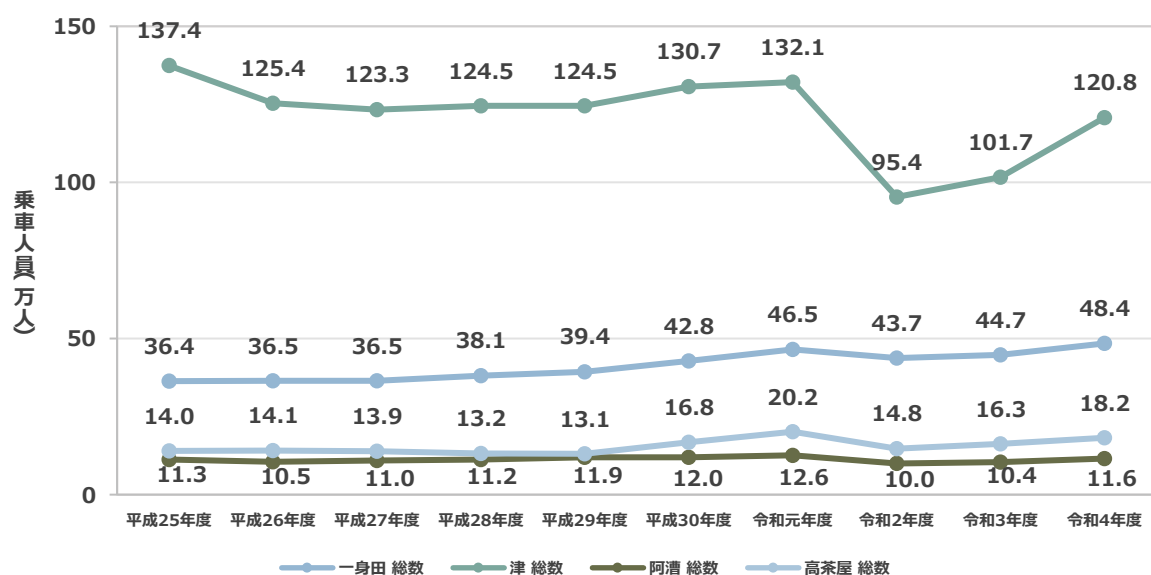
1) JR 紀勢本線

津市内には、JR 紀勢本線の駅が4駅(一身田、津、阿漕、高茶屋)設けられています。

JR 紀勢本線の駅で乗車人員が最も多いのは、近鉄名古屋線や伊勢鉄道と接続している津駅で、優等列車(特急、快速)が停車し、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた令和2年度、令和3年度を除いて毎年120万人/年を超えて推移しています。

次いで多いのは一身田駅で、高田本山や高田中・高・短大の最寄り駅でもあり、令和4年度は約48万人/年で、近年は増加傾向にあります。

高茶屋駅や阿漕駅は、近年は若干の増加傾向にあります。



(出典：三重県統計書)

図 21 JR 紀勢本線駅別乗車人員

表 7 JR 紀勢本線駅別乗車人員

【単位：人】

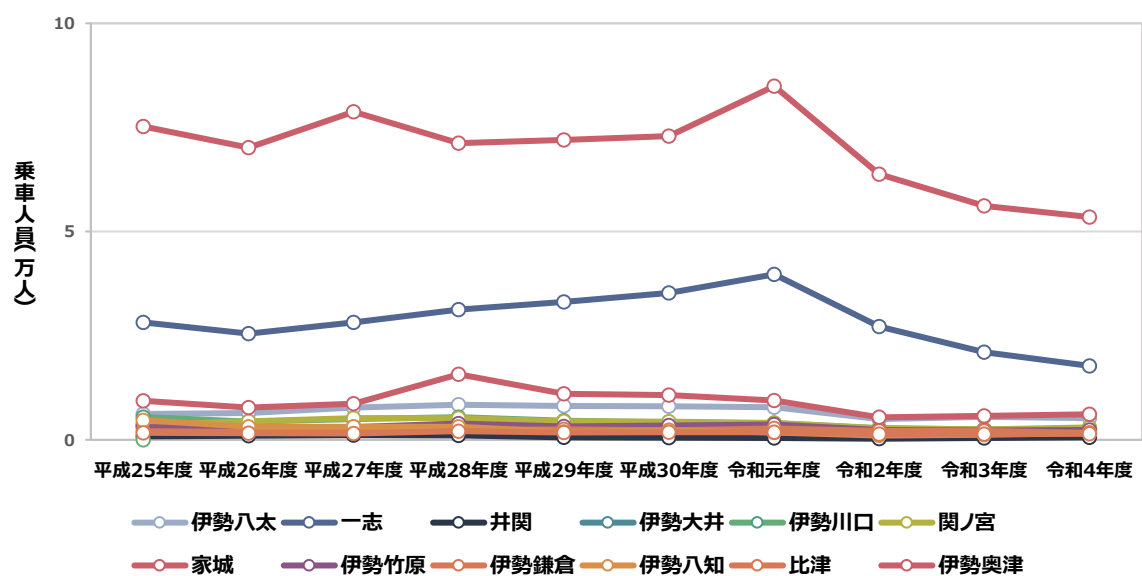
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
一身田	363,608	365,011	364,907	381,092	393,765	428,139	465,392	437,332	447,225	484,311
津	1,374,220	1,253,662	1,232,976	1,244,958	1,245,120	1,307,150	1,320,803	953,548	1,016,911	1,207,778
阿漕	112,526	105,303	109,590	111,963	119,232	119,702	126,066	99,769	104,390	115,733
高茶屋	140,306	141,401	139,030	132,282	130,903	167,751	201,562	147,564	162,708	181,686
合計	1,990,660	1,865,377	1,846,503	1,870,295	1,889,020	2,022,742	2,113,823	1,638,213	1,731,234	1,989,508

(出典：三重県統計書)

2) JR 名松線

津市内には、J R 名松線の駅が 12 駅(伊勢八太、一志、井関、伊勢大井、伊勢川口、関ノ宮、家城、伊勢竹原、伊勢鎌倉、伊勢八知、比津、伊勢奥津)設けられています。

J R 名松線の駅で乗車人員が最も多いのは家城駅で、令和元年度までは約 7 ～8 万人/年で推移していたものの、その後減少傾向に転じ、令和 4 年度は約 5 万人/年となっています。次いで多いのは、近鉄大阪線の川合高岡駅に程近い一志駅で、平成 26 年度以降増加傾向にありましたが、近年は減少傾向に転じ令和 4 年度は約 1.7 万人/年となっており、新型コロナウイルス感染拡大や沿線にある白山高等学校の生徒数の減少等の影響が考えられます。



(出典：三重県統計書)

図 22 JR 名松線駅別乗車人員

表 8 JR 名松線駅別乗車人員

【単位：人】

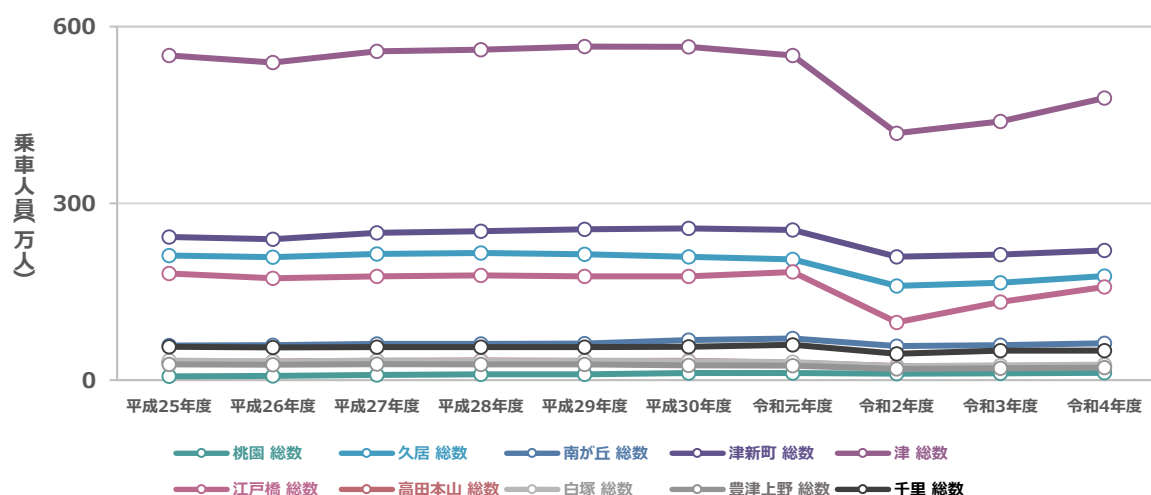
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
伊勢八太	6,245	6,421	7,767	8,418	8,136	8,081	7,787	4,976	5,550	5,214
一志	28,155	25,475	28,165	31,299	33,099	35,278	39,732	27,162	21,004	17,758
井関	828	960	1,120	1,057	563	496	413	265	419	578
伊勢大井	3,607	2,979	2,725	2,911	2,717	2,802	2,797	2,165	2,336	2,772
伊勢川口	5,477	4,393	4,973	5,449	4,630	4,199	4,001	2,782	2,491	2,283
関ノ宮	3,591	4,427	5,176	5,188	4,430	4,347	4,062	2,833	2,496	2,977
家城	75,208	70,177	78,755	71,214	72,036	72,934	84,913	63,777	56,152	53,487
伊勢竹原	3,056	2,885	3,077	3,911	3,221	3,454	3,633	2,348	2,230	2,384
伊勢鎌倉	2,090	1,931	2,191	2,376	2,506	2,286	2,719	2,131	2,115	1,653
伊勢八知	4,703	3,156	3,112	3,162	1,883	2,283	1,730	1,029	1,203	1,605
比津	1,694	1,597	1,541	2,082	1,739	1,865	1,799	1,397	1,378	1,467
伊勢奥津	9,324	7,746	8,651	15,739	11,021	10,724	9,457	5,402	5,779	6,158
合計	143,978	132,147	147,253	152,806	145,981	148,749	163,043	116,267	103,153	98,336

(出典：三重県統計書)

3) 近鉄名古屋線

津市内には、近鉄名古屋線の駅が10駅(千里、豊津上野、白塚、高田本山、江戸橋、津、津新町、南が丘、久居、桃園)設けられています。

近鉄名古屋線の駅で乗車人員が最も多いのは、全ての列車(一部特急列車を除く)が停車し、ＪＲ紀勢本線や伊勢鉄道と接続している津駅で、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたものの、近年は増加傾向にあり、令和４年度は約479万人/年(JR 経由を含まない)となっています。その他では津新町駅約220万人/年、久居駅約177万人/年、江戸橋駅約158万人/年が多くなっています。



(出典：三重県統計書)

図 23 近鉄名古屋線駅別乗車人員

表 9 近鉄名古屋線駅別乗車人員

【単位：人】

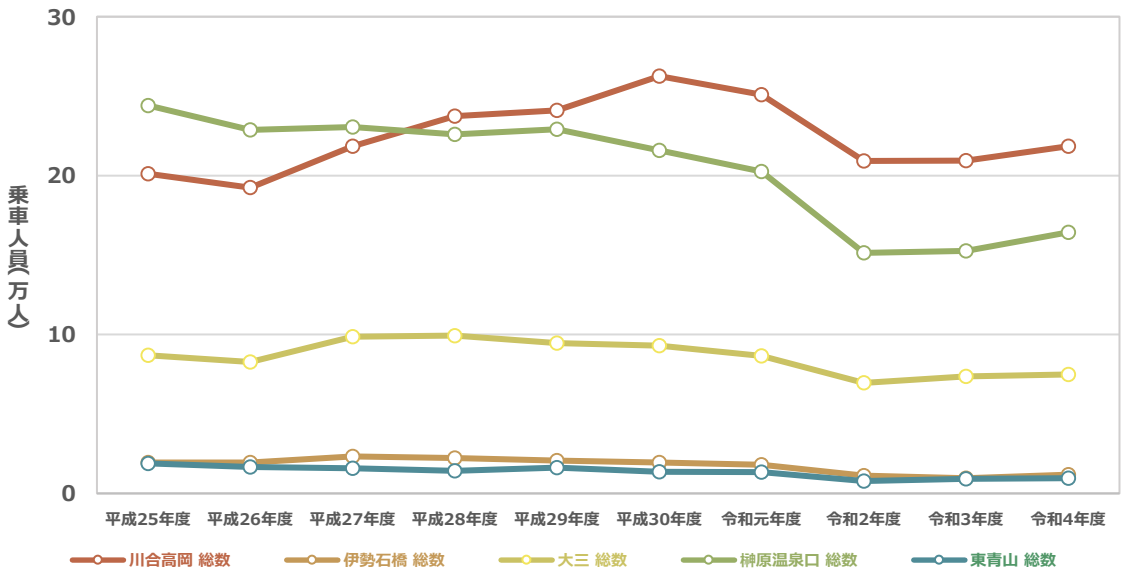
駅名	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
桃園	63,688	68,743	87,222	96,751	100,871	119,403	122,032	107,339	115,717	124,153
久居	2,112,103	2,084,665	2,140,202	2,158,067	2,135,410	2,090,534	2,048,736	1,600,248	1,654,177	1,766,346
南が丘	588,139	590,770	612,793	613,855	622,095	681,475	706,693	578,140	593,512	626,768
津新町	2,427,673	2,388,921	2,499,762	2,528,526	2,558,041	2,574,889	2,549,648	2,094,611	2,133,026	2,202,756
津	5,511,173	5,392,298	5,579,125	5,606,624	5,661,059	5,658,839	5,509,764	4,191,168	4,393,734	4,785,051
江戸橋	1,810,029	1,727,204	1,762,049	1,776,565	1,761,076	1,759,200	1,834,790	981,202	1,325,254	1,579,479
高田本山	305,877	315,198	327,622	332,637	328,542	324,661	296,598	237,876	224,526	223,546
白塚	331,604	315,531	331,682	327,089	326,880	318,992	307,197	236,440	251,229	263,743
豊津上野	264,456	259,636	270,129	267,632	267,896	252,814	245,824	190,200	203,399	211,242
千里	565,859	552,477	559,853	561,323	559,838	567,471	599,657	447,753	498,682	500,386
合計	13,980,601	13,695,443	14,170,439	14,269,069	14,321,708	14,348,278	14,220,939	10,664,977	11,393,256	12,283,470

(出典：三重県統計書)

4) 近鉄大阪線

津市内には、近鉄大阪線の駅が5駅(川合高岡、伊勢石橋、大三、榊原温泉口、東青山)設けられています。

近鉄大阪線の駅で平成25年度に乗車人員が最も多かったのは榊原温泉口駅で、約24万人/年でしたが、年々減少し、平成28年度には年々増加している川合高岡駅が最も多くなり、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたものの、令和4年度には川合高岡駅の乗車人員が21万人/年を超えました。



(出典：三重県統計書)

図 24 近鉄大阪線駅別乗車人員

図 25 近鉄大阪線駅別乗車人員

【単位：人】

駅名	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
川合高岡	201,079	192,415	218,423	237,425	241,126	262,596	250,933	209,231	209,357	218,500
伊勢石橋	19,374	19,475	23,287	22,338	20,764	19,546	17,954	11,099	9,576	11,708
大三	86,898	82,800	98,688	99,328	94,567	92,959	86,583	69,559	73,677	74,824
榊原温泉口	244,160	228,770	230,664	225,937	229,166	215,843	202,669	151,373	152,676	164,299
東青山	18,904	16,543	15,861	14,223	16,185	13,576	13,320	7,803	9,178	9,636
合計	570,415	540,003	586,923	599,251	601,808	604,520	571,459	449,065	454,464	478,967

(出典：三重県統計書)

5) 伊勢鉄道

津市内には伊勢鉄道伊勢線の駅が4駅（伊勢上野、河芸、東一身田、津）設けられています。

乗車人員が最も多いのはJRや近鉄と接続する津駅で、平成25年度は70万人/年以上の利用がありましたが、平成26年度以降は減少傾向にあります。特に令和2年度では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により約28万人/年まで落ち込みましたが、その後増加傾向に転じ令和4年度には約48万人/年となりました。

平成25年度では、次いで河芸駅、伊勢上野駅、東一身田駅の順でしたが、伊勢上野駅は増加傾向、河芸駅は減少傾向にあり、令和4年度では伊勢上野駅、東一身田駅、河芸駅の順となっています。

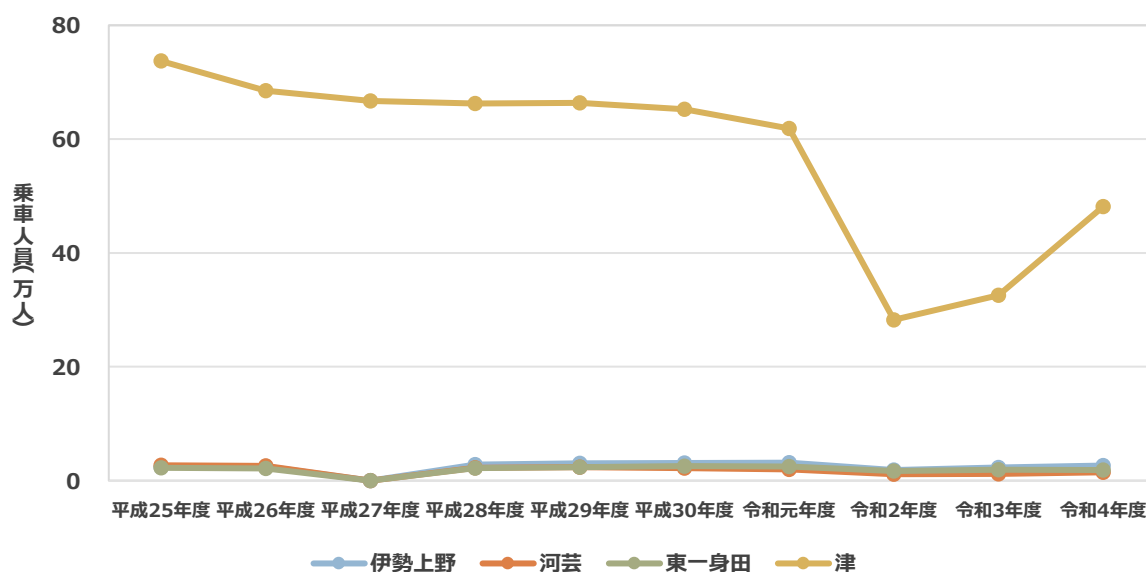


図 26 伊勢鉄道駅別乗車人員

表 10 伊勢鉄道駅別乗車人員

【単位: 人】

年度	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
伊勢上野	23,535	24,675	23,846	28,270	30,370	30,875	31,552	18,388	22,849	26,456
河芸	26,962	25,980	24,895	22,572	23,570	21,890	19,773	11,220	12,133	14,817
東一身田	22,690	21,415	22,970	22,201	23,836	25,597	24,586	17,043	19,265	18,694
津	737,180	684,985	666,879	662,533	663,983	652,683	618,987	282,565	325,689	481,470
合計	810,367	757,055	738,590	735,576	741,759	731,045	694,898	329,216	379,936	541,437

(出典: 三重県統計書)

(3) 乗合バス

津市のバス交通には、民間事業者が運行する「高速路線バス」及び「一般路線バス」、津市が運営する「自主運行バス(廃止代替バス)」及び「津市コミュニティバス」、NPO 法人が運営する「ぐるっと・つーバス」並びに地域住民が主体となり運行する「地域住民運営主体型コミュニティ交通」があります。

なお、本計画では一般路線バスと自主運行バス(廃止代替バス)を「一般路線バス」、津市コミュニティバスとぐるっと・つーバスを「コミュニティバス等」として整理しています。

過去 10 年間の利用実態は以下のとおりです。一般路線バスの利用者数は、令和 2 年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響でいったん減少しましたが、令和 3 年度以降は増加に転じており、平成 30 年度の利用者数にほぼ戻っています。コミュニティバス等の利用者は、平成 30 年度の約 11.3 万人/年に対し、令和 5 年度は約 8.7 万人/年と減少しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響があると考えられます。

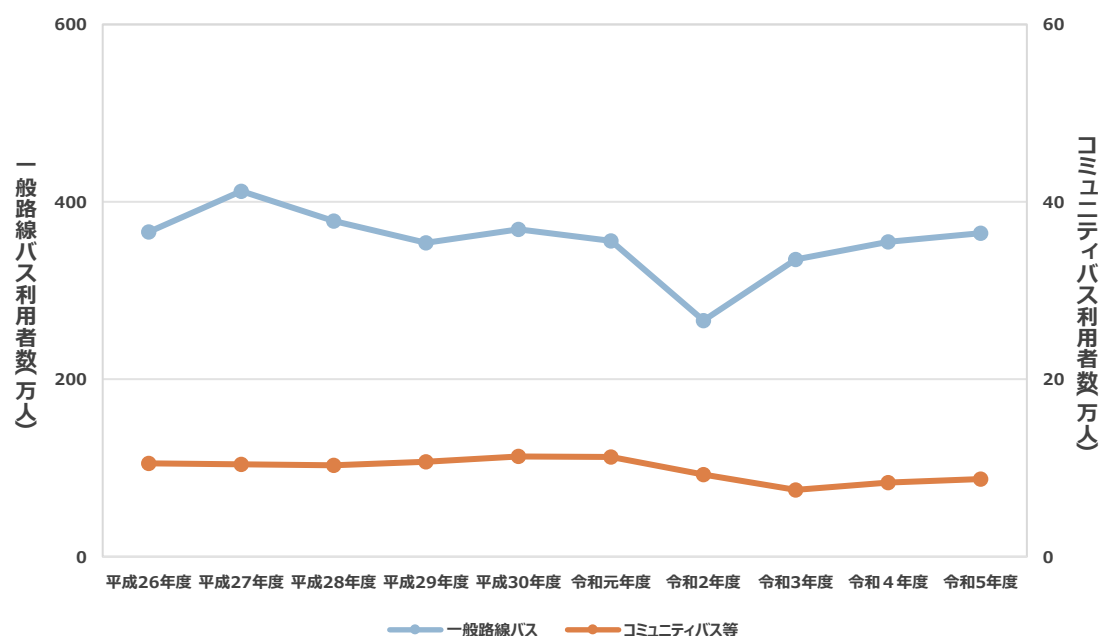


図 27 津市内の乗合バスの利用者数

表 11 津市内の乗合バスの利用者数

【単位：人】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般路線バス	3,660,198	4,120,916	3,782,795	3,539,073	3,690,639
コミュニティバス等	105,221	104,126	103,100	106,958	112,951

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般路線バス	3,561,767	2,662,285	3,352,015	3,550,291	3,645,336
コミュニティバス等	112,384	92,672	75,307	83,655	87,448

※)一般路線バスの全部及びコミュニティバス等の一部は推計値
(出典：三重交通提供の乗降者数及び津市コミュニティバス乗降調査)

1) 高速路線バス

令和6年9月末現在、津市を発着又は経由する高速路線バスは以下のとおりです。

表 12 高速路線バス一覧

都市	昼夜別	民間事業者
仙台市	夜行	青木バス
さいたま市(大宮)、 東京 23 区(池袋、新宿)、 立川市	夜行	三重交通
		三交伊勢志摩交通
		西武観光バス
東京 23 区(新宿)、横浜市	夜行	WILLER EXPRESS
東京 23 区(東京駅)、横浜市	夜行	青木バス
東京 23 区(大手町)、横浜市、 船橋市	夜行	JAMJAM ライナー
金沢市、高岡市、富山市	夜行	青木バス
山梨県	夜行	青木バス
京都市	昼行	三重交通
		京阪バス

2) 一般路線バス

令和6年10月現在、津市内を運行する一般路線バスは以下のとおりです。

表 13 一般路線バス一覧

路線名称	系統 番号	路線の 位置付け	運行区間	経由拠点	
				都市 拠点	地域 拠点
神戸白塚線	06	幹線	片田団地～津駅・白塚駅	津	白塚・栗真・神 戸・片田
波瀬線	11	幹線	三重中央医療センター・久居駅～室の口	久居	一志
高野団地線(自主運行)			久居駅～とことめの里		
榊原線	15	幹線	津駅～下村～榊原車庫前	津・久居	栗葉・榊原
	16		津駅～上稲葉～榊原車庫前		
久居高茶屋線	21	幹線	久居駅東口～香良洲公園	久居	雲出・ 香良洲
国立病院線	22	市内線	久居駅～三重中央医療センター・久居高校	久居	
津三雲線	31	幹線	津駅～天白【松阪市】	津	雲出
香良洲線	32	幹線	津駅～香良洲公園	津	雲出・香良洲
城山線	34	幹線	津駅～警察学校	津	藤水・高茶屋
津なぎさまち線	35	市内線	津駅～空港アクセス港	津	
津太陽の街線	40	準幹線	千里駅～太陽の街【鈴鹿市】		—
一身田大里線 (自主運行)	51	幹線	サオリーナ前～三重病院	津	栗真・一身田
棕本線	52	幹線	イオンモール津南・米津・津駅 ～サイエンスシティ・豊が丘・棕本	津	栗真・一身田 ・高尾野・芸濃
豊野団地線(自主運行)	53	幹線	津駅～三行	津	栗真・一身田
亀山棕本線(自主運行)	55	準幹線	棕本～亀山駅前【亀山市】		芸濃
安濃線	65	幹線	津駅～市場	津	安東・安濃
津駅西団地循環線	71・ 81	市内線	津駅西口～西団地～津駅西口	津	
津西ハイタウン線	84・ 85	市内線	津駅西口～津西ハイタウン		
	86	市内線	津新町駅・津駅西口～津西ハイタウン		
看護大学夢が丘線	89	市内線	津駅西口～総合文化センター・夢が丘団地		
長野線	91	幹線	津駅～平木	津	片田・美里
泉ヶ丘片田団地線	93	幹線	津駅・津新町駅～片田団地	津	片田
穴倉線	95	幹線	津駅・津新町駅～殿舟団地～穴倉	津	楡形
奥津線	31 (伊賀)	準幹線	敷津～名張駅前【名張市】		—

※)平日1日1往復以下の区間は記載の対象外
(出典：三重交通提供資料)

① 運行状況

令和 6 年 9 月末現在の運行状況は、以下のとおりです。

幹線の一部路線及び準幹線路線は、国及び三重県からの補助を受けて運行しています。

高野団地線、一身田大里線及び豊野団地線は津市が、亀山棕本線は津市及び亀山市が自主運行バス（廃止代替バス）として三重交通に委託して運行しています。

平日・土曜日・休日とも 26 本(13 往復、概ね 1 時間に 1 本以上)の路線は、幹線で榊原線、城山線、棕本線、市内線で津西ハイタウン線、看護大学夢が丘線です。

表 14 一般路線バス路線別運行状況

路線名称	系統 番号	路線の 位置付け	平日 運行本数	土曜日 運行本数	休日 運行本数	補助の 活用	備考
神戸白塚線	06	幹線	31	23	23		
波瀬線	11	幹線	26	26	26	幹線補助	
高野団地線							津市自主運行
榊原線	15	幹線	28	27	27	幹線補助	
	16		12	11	11	幹線補助	
久居高茶屋線	21	幹線	20	22	22	幹線補助	
国立病院線	22	市内線	7	3	3		
津三雲線	31	幹線	21	21	21	幹線補助	
香良洲線	32	幹線	30	22	22	幹線補助	
城山線	34	幹線	48	32	32		
津なぎさまち線	35	市内線	10	10	10		
津太陽の街線	40	準幹線	13	13	13	幹線補助	
一身田大里線	51	幹線	16	17	17		一部津市 自主運行
棕本線	52	幹線	86	58	58	幹線補助	
豊野団地線	53	幹線	8	7	7		津市自主運行
亀山棕本線	55	準幹線	19	19	18	亀山市廃止代替 幹線補助	津市 自主運行
安濃線	65	幹線	21	19	19	幹線補助	
津駅西団地循環線	71・81	市内線	25	18	18		
津西ハイタウン線	84・85	市内線	36	27	27		
	86	市内線	8	16	16		
看護大学夢が丘線	89	市内線	33	41	41		
長野線	91	幹線	26	20	20	幹線補助	
泉ヶ丘片田団地線	93	幹線	5	9	9		
穴倉線	95	幹線	14	12	12	幹線補助	
奥津線	31 (伊賀)	準幹線	12	10	10	幹線補助	

※)平日 1 日 1 往復以下の路線は記載の対象外
(出典：三重交通オープンデータより加工)

経路毎の運行本数を、以下の図に示します。

特に国道 23 号の白塚口(栗真中山町)～津駅～岩田町の区間及び津駅西口～大谷町の区間は、複数の路線が集約され、高頻度の運行を確保しています。また、国道 23 号沿いに立地する市内で最も店舗面積が広い商業施設であるイオンモール津南付近の区間（御殿場口～イオンモール津南）についても、高頻度の運行となっています。

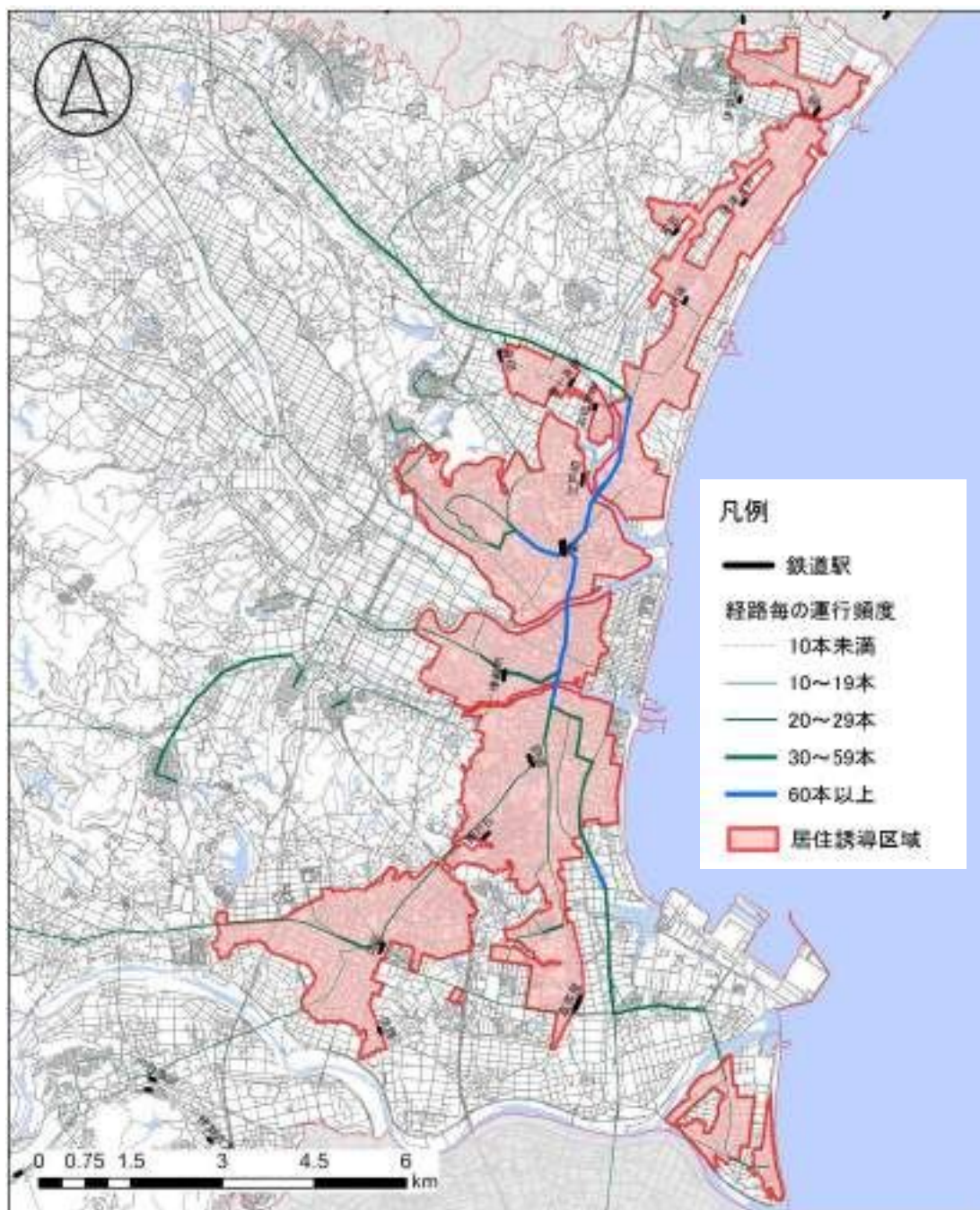


図 28 経路ごとの運行本数

津市の公共交通利便地域(鉄道駅から1km以内もしくは1時間に1往復以上停車するバス停から500m以内)のうち、居住誘導区域内の面積は約31.19km²です。これは居住誘導区域約33.82km²のうち約92%です。概ね居住誘導区域内は公共交通の利便性が確保されています。

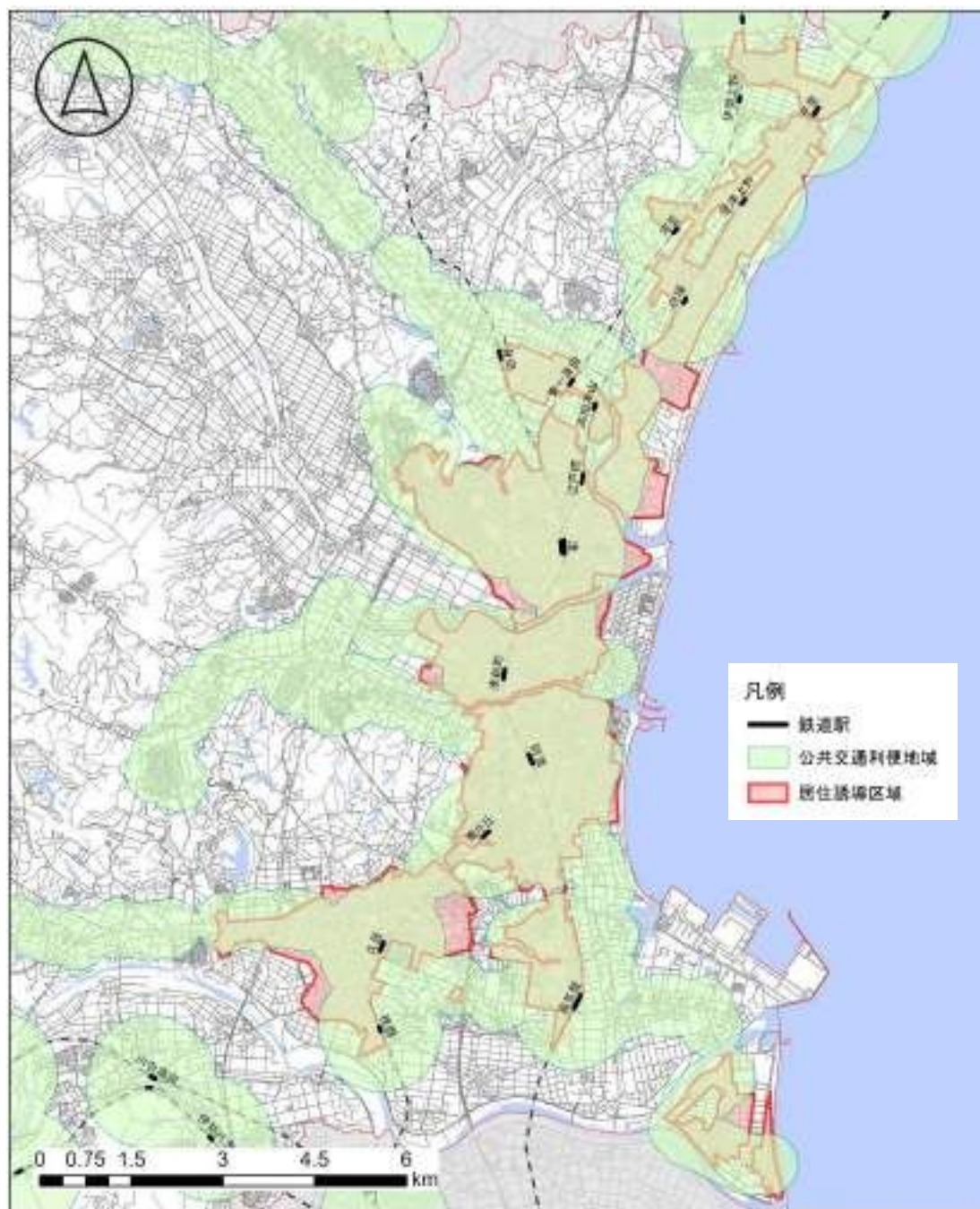


図 29 公共交通利便地域

一般路線バスの幹線の役割の路線について、サービス水準を整理しました。

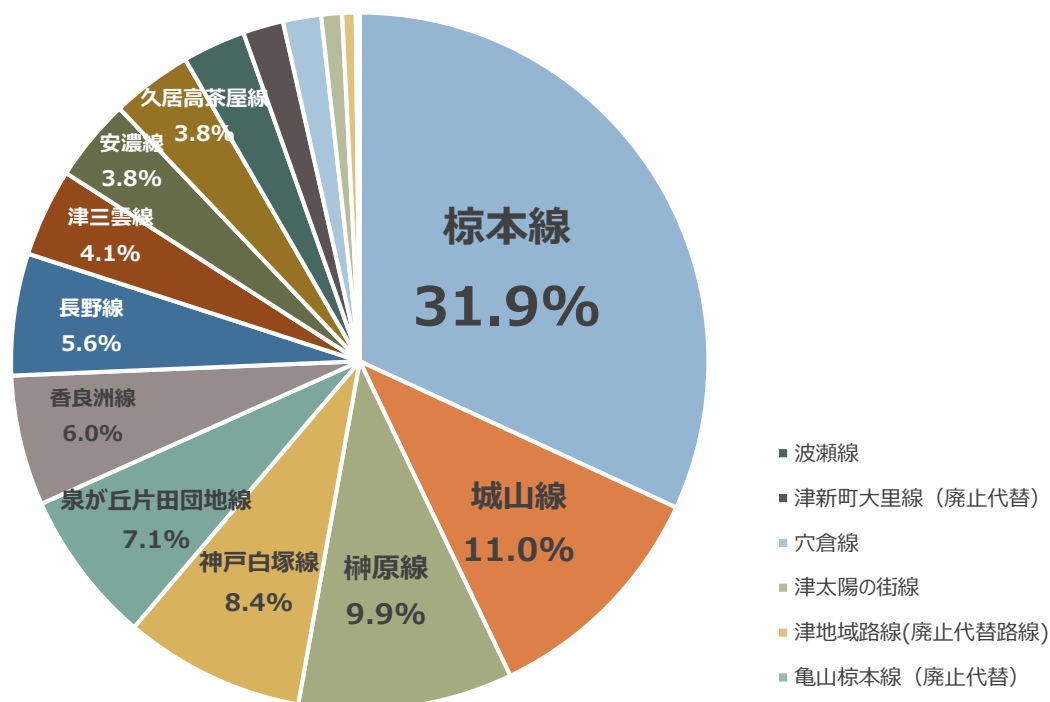
計画開始当初の令和 2 年時点では、概ね 1 時間に 1 本以上のサービス水準を確保していましたが、近年のバス運転手不足に起因する減便により、サービス水準の確保が困難な地域拠点が発生しました。特に、津市中心部から南西部方面でその傾向が目立ちます。

表 15 一般路線バスの幹線路線のサービス水準

都市拠点～地域拠点	経路	ダイヤ	評価
津中心部～河芸総合支所付近	(伊勢鉄道、近鉄名古屋線)		○
津中心部～芸濃総合支所付近	棕本線	1 本/時間程度	○
津中心部～安濃総合支所付近	安濃線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～美里総合支所付近	長野線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～香良洲総合支所付近	香良洲線	1 本/時間程度	○
久居中心部～香良洲総合支所付近	久居高茶屋線	1 本/時間程度	○
久居中心部～一志総合支所付近	波瀬線	1 本/時間程度	○
松阪市～白山総合支所付近	(JR 名松線)		○
松阪市～美杉総合支所付近	(JR 名松線)		○
津中心部～高尾野出張所付近	棕本線	2 本/時間程度	○
津中心部～大里出張所付近	棕本線	2 本/時間程度	○
津中心部～一身田出張所付近	棕本線等	2.5 本/時間程度	○
津中心部～白塚出張所付近	神戸白塚線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～栗真出張所付近	棕本線等	3 本/時間程度	○
津中心部～安東出張所付近	安濃線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～櫛形出張所付近	穴倉線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～神戸出張所付近	神戸白塚線	0.5 本/時間程度	×
津中心部～片田出張所付近	長野線、 神戸白塚線等	1 本/時間程度	○
津中心部～藤水出張所付近	城山線	1 本/時間程度	○
津中心部～高茶屋出張所付近	(JR 紀勢本線)		○
津中心部～雲出出張所付近	雲出線、 香良洲線	1.5 本/時間程度	○
久居中心部～栗葉出張所	榊原線	1.5 本/時間程度	○
久居中心部～榊原出張所	榊原線	1 本/時間程度	○
久居中心部～雲出出張所付近	久居高茶屋線	1 本/時間程度	○

② 利用状況

一般路線バス(幹線)の利用割合は、棕本線が 31.9%で最も利用者数が多く、続いて城山線が 11%、榊原線が 9.9%と続いています。



(出典：三重交通提供資料)

図 30 令和 5 年度 一般路線バス(幹線)の利用割合

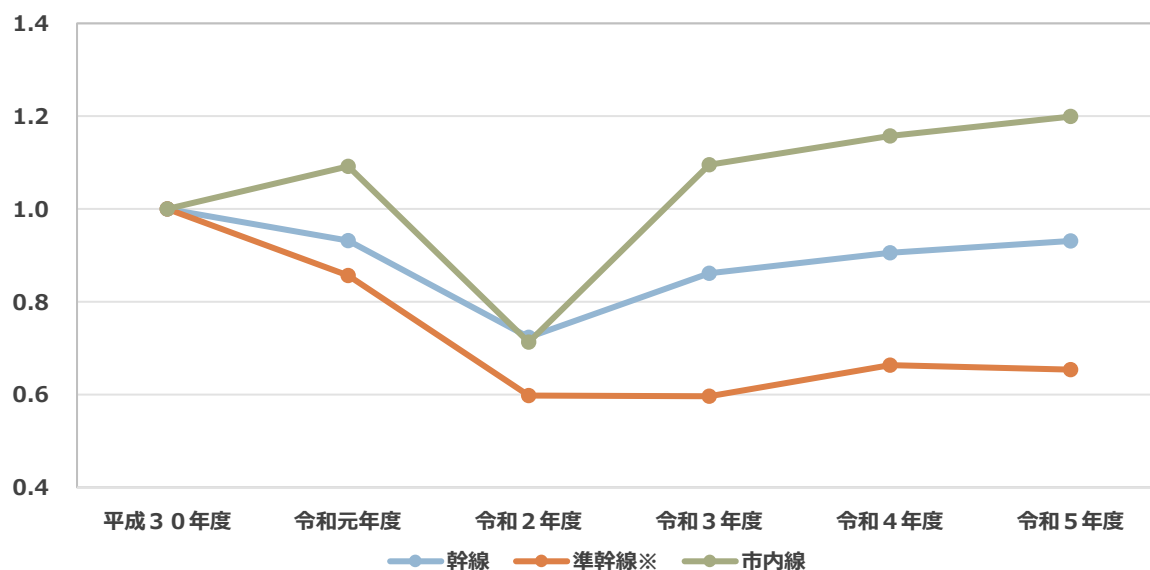
一般路線バスの利用者数については、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により利用が減少しました。その後、令和 3 年度以降は、市内線は平成 30 年度の 1.1 倍以上の水準で推移しています。一方、幹線は平成 30 年度の水準を下回っています。

幹線について地域別にみると、北部～南東部方面路線(棕本線、城山線等)が平成 30 年度の 0.9 倍以上で推移している一方、その他の地域の路線は平成 30 年度の 0.9 倍以下にとどまっています。路線別では、棕本線、城山線といった利用者の多い路線の増加が目立つ一方、穴倉線は、令和 4 年度以降は平成 30 年度の約半数にとどまっています。名張奥津線を除く準幹線では、令和 2 年度に平成 30 年度の約 0.6 倍となり、その後は横ばいを推移しています。

市内線をみると、新型コロナウイルス感染拡大の影響による津エアポートラインの減便の影響で、合わせて津なぎさまち線も減便しており、令和 5 年度に津エアポートラインが増便した後も、一部時間帯で接続する便がない状況にあり、令和 4 年度以降は平成 30 年度の 0.3 倍程度にとどまっています。

表 16 幹線の路線毎の地域区分

地域区分	路線名
北部～南東部方面路線	津三雲線、香良洲線、城山線、棕本線
北部～南西部方面路線	神戸白塚線、長野線、泉ヶ丘片田団地、安濃線、穴倉線
久居地域路線	波瀬線(高野団地線含む)、榊原線、久居高茶屋線
廃止代替路線	津新町大里線、豊野団地線



※)準幹線に名張奥津線は含みません。

図 31 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
路線種別の利用者数推移

表 17 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
地域路線別の利用者数推移

利用者数		(単位：人)				
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
津地域路線 (北部～南東部方面)	1,426,993	1,396,107	1,060,390	1,343,200	1,417,700	1,439,400
津地域路線 (北部～南西部方面)	872,953	740,198	567,459	648,700	700,900	714,500
津地域路線 (廃止代替路線)	76,531	76,570	60,068	48,968	53,895	63,147
久居地域路線	503,672	482,887	406,018	420,620	431,576	451,052
準幹線	47,493	40,689	28,383	28,327	31,520	31,037
合計	2,927,642	2,736,451	2,122,318	2,489,815	2,635,591	2,699,136

割合						
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
津地域路線 (北部～南東部方面)	1.00	0.98	0.74	0.94	0.99	1.01
津地域路線 (北部～南西部方面)	1.00	0.85	0.65	0.74	0.80	0.82
津地域路線 (廃止代替路線)	1.00	1.00	0.78	0.64	0.70	0.83
久居地域路線	1.00	0.96	0.81	0.84	0.86	0.90
準幹線	1.00	0.86	0.60	0.60	0.66	0.65
	1.00	0.93	0.72	0.85	0.90	0.92

(出典：三重交通提供資料)

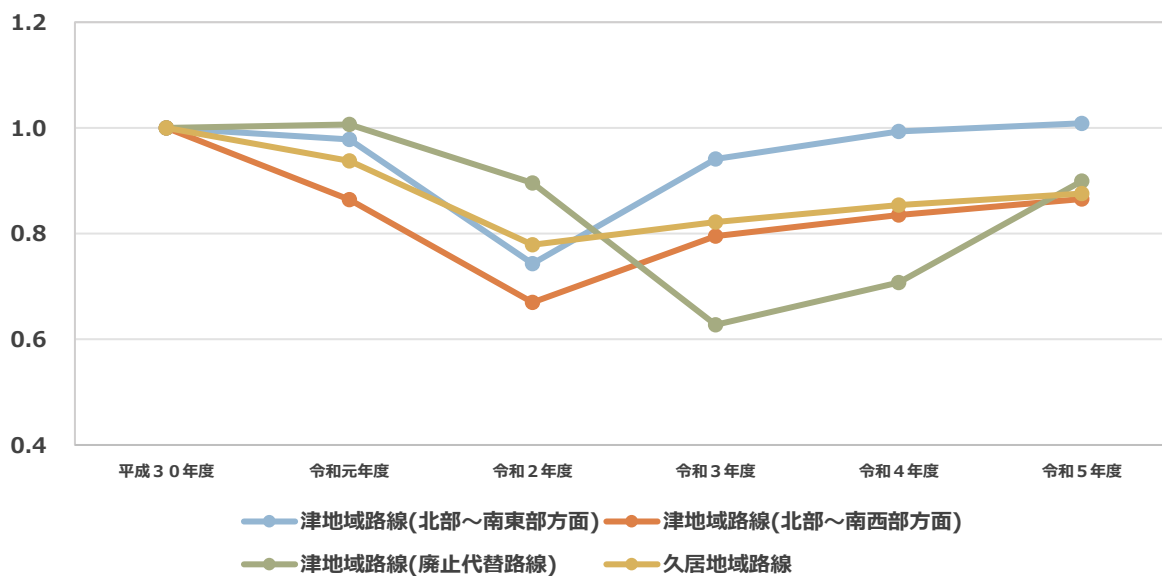


図 32 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
地域路線別の利用者数推移

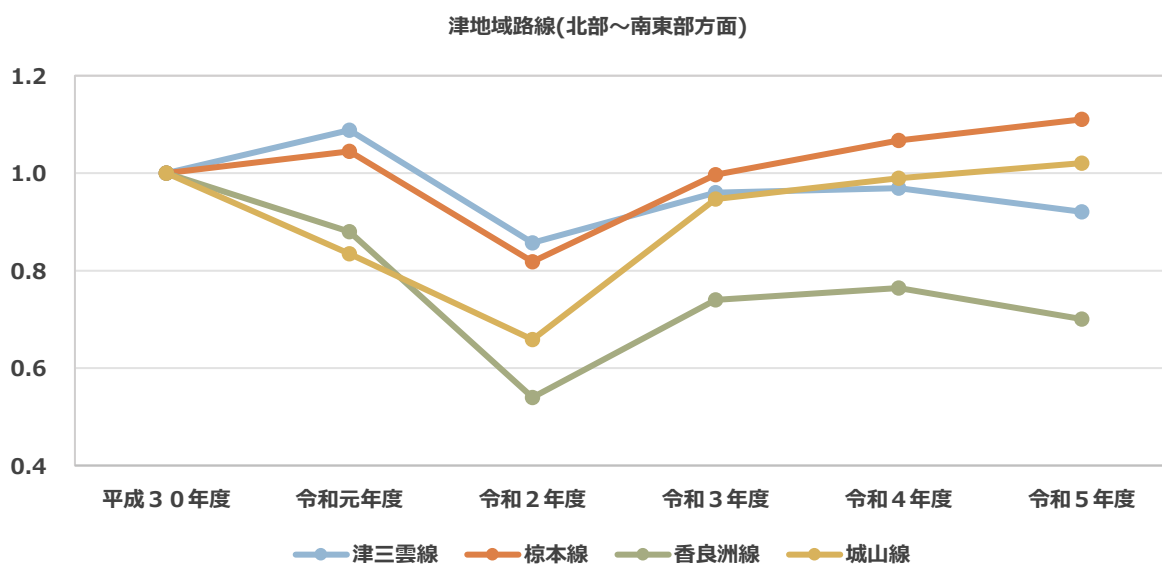


図 33 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線(北部～南東部方面)の利用者数推移

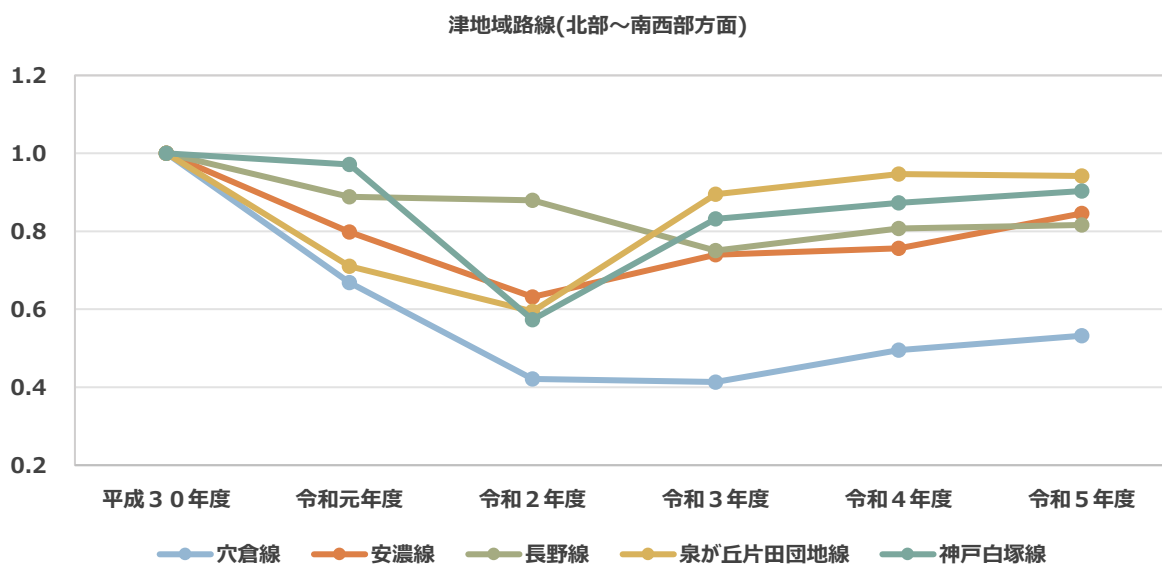


図 34 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線(北部～南西部方面) の利用者数推移

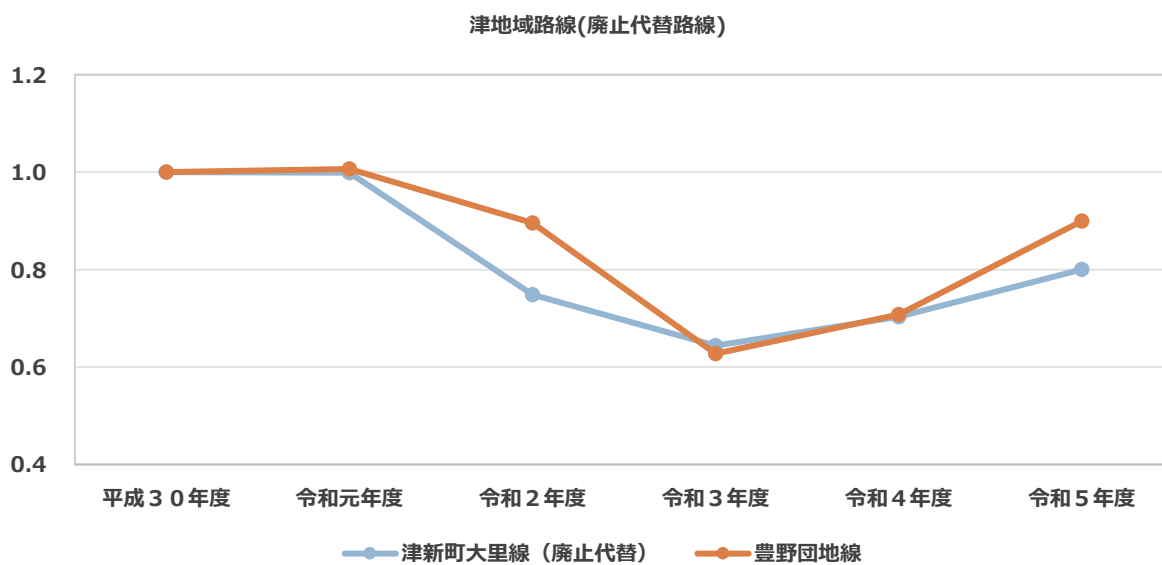
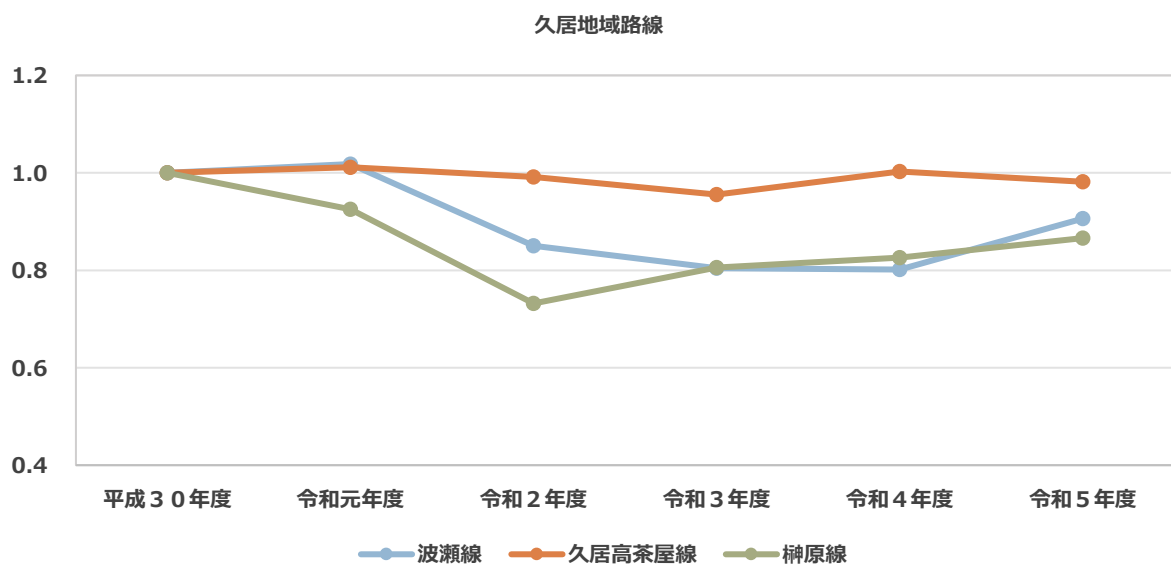


図 35 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線(廃止代替路線)の利用者数推移



「高野団地線」⇒「波瀬線」に組み入れ

図 36 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
久居地域路線の利用者数推移

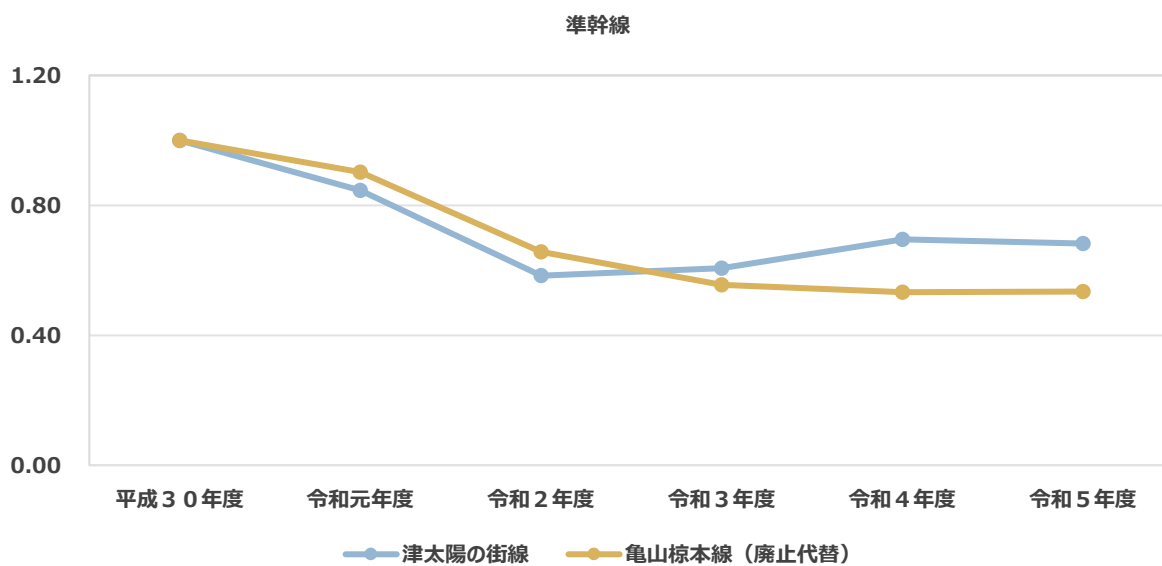
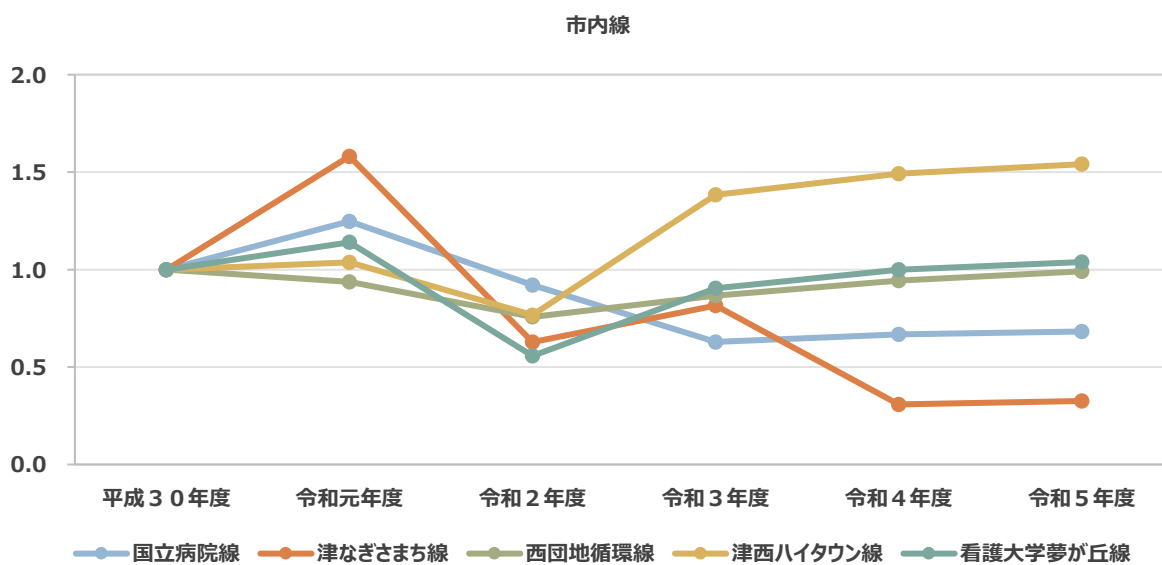


図 37 平成30年度の利用者数を
1としたときの準幹線の利用者数推移



※)「津駅西団地循環線」「津西ハイタウン線」「看護大学夢が丘線」⇒合計して「津駅西口発着路線」

図 38 平成30年度の利用者数を
1としたときの市内線の利用者数推移

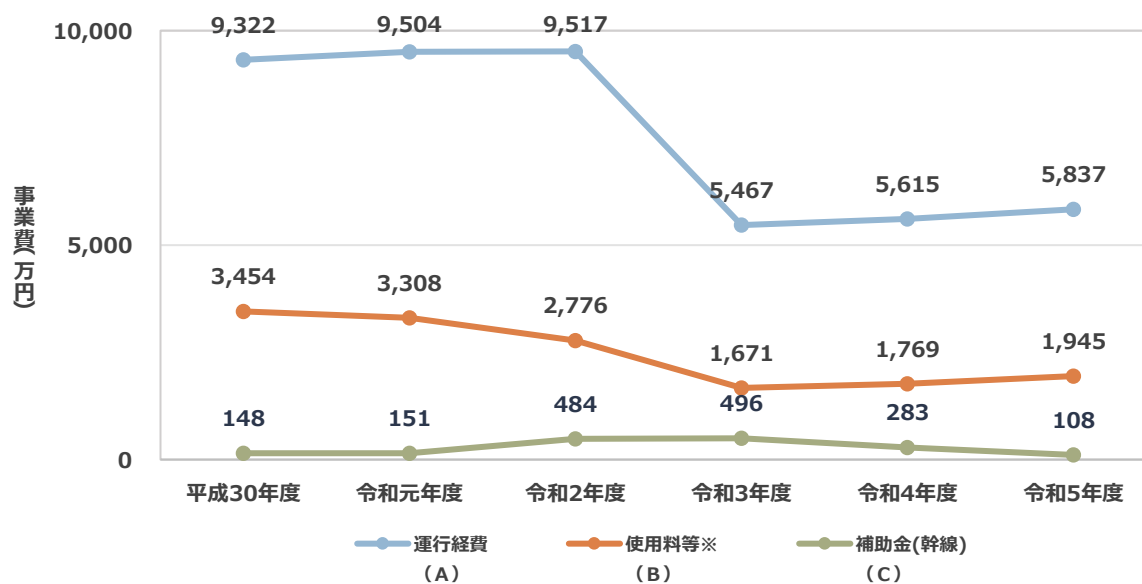
表 18 市内線の利用者数推移と
平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの市内線の利用者数推移

利用者数		(単位：人)				
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
国立病院線	48,971	61,116	45,085	30,800	32,700	33,400
津なぎさまち線	41,188	65,128	25,846	33,600	12,700	13,400
津駅西口発着路線	659,698	692,489	463,594	757,100	822,500	852,400
	749,857	818,733	534,525	821,500	867,900	899,200

割合						
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
国立病院線	1.00	1.25	0.92	0.63	0.67	0.68
津なぎさまち線	1.00	1.58	0.63	0.82	0.31	0.33
津駅西口発着路線	1.00	1.05	0.70	1.15	1.25	1.29

(出典：三重交通提供資料)

自主運行バスによる運行経費は、路線再編の影響により令和 3 年度の運行経費は、約 4,000 万減少しました。



※)「名張奥津線」の三重交通(株)負担金を含む

図 39 自主運行(廃止代替)バスの事業費内訳

3) 津市コミュニティバス

令和 6 年 9 月末現在の津市コミュニティバスは、以下のとおりです。

一部のルートを除き、月曜日～土曜日のうち 3 日の運行となっています。白山地域については、通学需要があることから、週 5 日以上での運行となっています。

利用状況について地域別にみると、久居地域、河芸地域及び安濃地域で、令和 3 年度以降利用が増加傾向にあります。一方で、美杉地域は、令和 3 年度以降減少傾向です。再編で平日毎日運行から曜日限定運行となり、1 日の運行便数も減少した美里地域については、平成 30 年度を基準とすると、令和 3 年度以降の利用は半分以下です。

ルート別にみると、久居地域の久居北・片田・高茶屋ルート、久居西循環ルート、河芸地域の河芸循環ルートで 1 便あたり利用者数が 4 人を超えています。一方で、美里地域の長野・榑原ルート、美杉地域の美杉南ルート、美杉循環ルートでは、1 便あたりの利用者数が 1 人を下回っています。

表 19 津市コミュニティバスルート一覧

地域	ルート名称	運転状況	運行形態	補助の活用
河芸	河芸循環ルート	週 3 日 3 往復半	79 条空白地	フィーダー補助
	河芸南・一身田・白塚循環ルート	週 3 日 4 往復	79 条空白地	フィーダー補助
久居	久居北・片田・高茶屋ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	久居南・雲出ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	久居西循環ルート	週 1 日 2 往復	79 条空白地	フィーダー補助
芸濃	芸濃北ルート	週 3 日 3 往復半	79 条空白地	フィーダー補助
	芸濃南ルート	週 3 日 3 往復半	79 条空白地	フィーダー補助
安濃	清水ヶ丘団地・戸島・椋本ルート	週 3 日 3 往復	79 条空白地	フィーダー補助
	妙法寺・野口・椋本ルート	週 3 日 3 往復	79 条空白地	フィーダー補助
美里	穴倉・辰水・忠盛塚ルート	週 3 日 3 往半	4 条乗合	フィーダー補助
	長野・榑原ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	
一志	一志東・伊勢中川駅ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	一志西循環ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
白山	八対野・大三ルート	週 7 日 7 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	福田山・川口・三ヶ野ルート (曜日で経路が異なる)	週 5 日 4～5 往復	4 条乗合	
美杉	美杉東ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	美杉西ルート	週 3 日 4 往復	4 条乗合	フィーダー補助
	美杉南ルート	週 1 日 8 本	4 条乗合	
	美杉循環ルート	週 2 日 15 本	4 条乗合	

表 20 令和 5 年度の 1 便あたり利用者数一覧表

各地域	ルート	曜日	利用者数 (人)	総運行便数 (便)	1 便あたり 利用者数一覧表 (人/便)
河芸地域	河芸循環(月・水・土)ルート	月・水・土	4,788	1,078	4.44
	河芸南・一身田・白塚循環ルート	火・木・金	3,517	1,232	2.85
久居地域	久居北・片田・高茶屋ルート	火・木・金	6,400	1,232	5.19
	久居南・雲出ルート	月・水・土	2,471	1,232	2.01
	久居西循環ルート	火	1,013	204	4.97
芸濃地域	芸濃北ルート	火・木・金	2,973	1,156	2.57
	芸濃南ルート	月・水・土	2,835	1,157	2.45
安濃地域	清水ヶ丘団地・戸島・棕本ルート	火・木・金	3,143	1,080	2.91
	妙法寺・野口・棕本ルート	月・水・土	1,909	1,082	1.76
美里地域	穴倉・辰水・忠盛塚ルート	月・水・土	1,424	1,078	1.32
	長野・榊原ルート	火・木・金	933	1,232	0.76
一志地域	一志東・伊勢中川駅ルート	月・水・土	3,779	1,232	3.07
	一志西循環ルート	火・木・金	2,225	1,232	1.81
白山地域	八対野・大三ルート	毎日	19,379	5,040	3.85
	福田山・川口・三ヶ野(月・水・金)ルート	月・水・金	2,039	1,530	1.33
	福田山・川口・三ヶ野(火・木)ルート	火・木	1,686	1,030	1.64
美杉地域	美杉東ルート	月・水・金	3,382	1,224	2.76
	美杉西ルート	月・水・金	4,822	1,224	3.94
	美杉南ルート	水	288	408	0.71
	美杉循環ルート	火・木	820	1,545	0.53

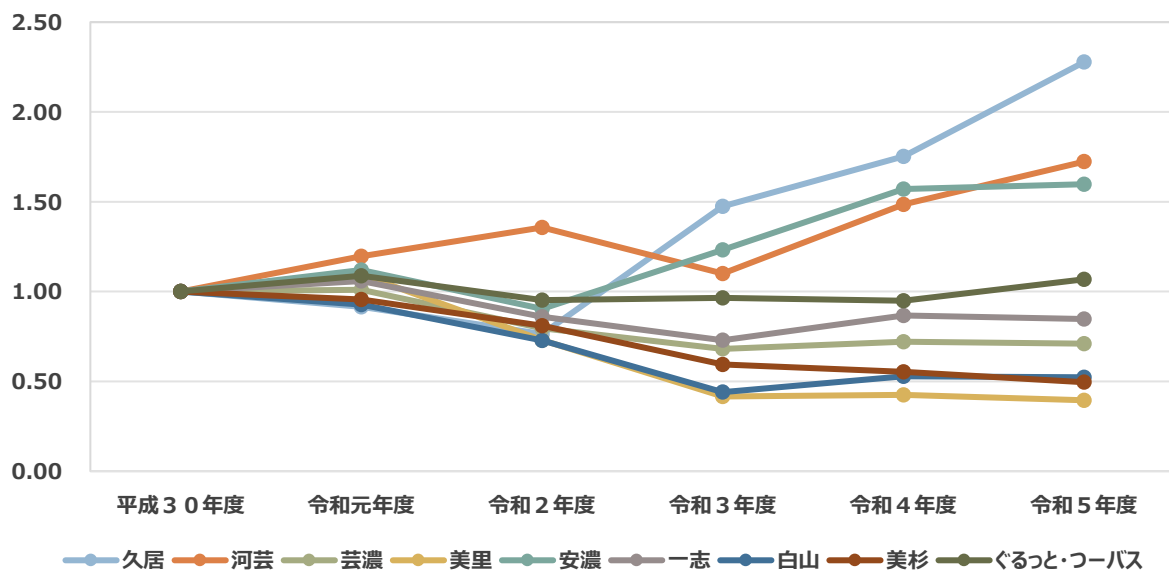


図 40 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
コミュニティバス等の利用者数推移

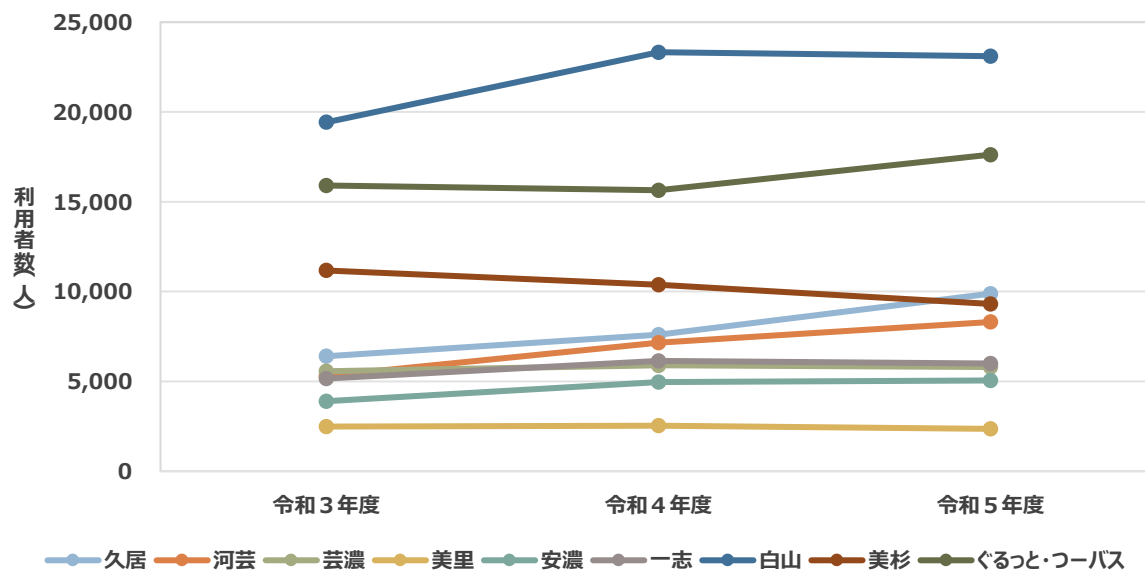


図 41 地域毎の利用者数推移

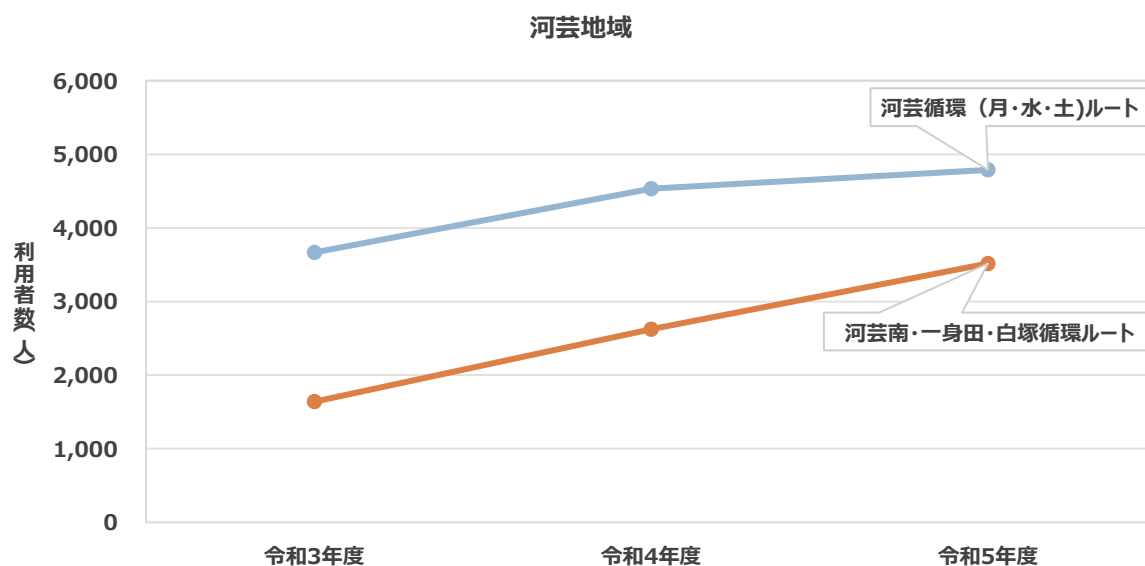


図 42 ルート毎の利用者数推移(河芸地域)

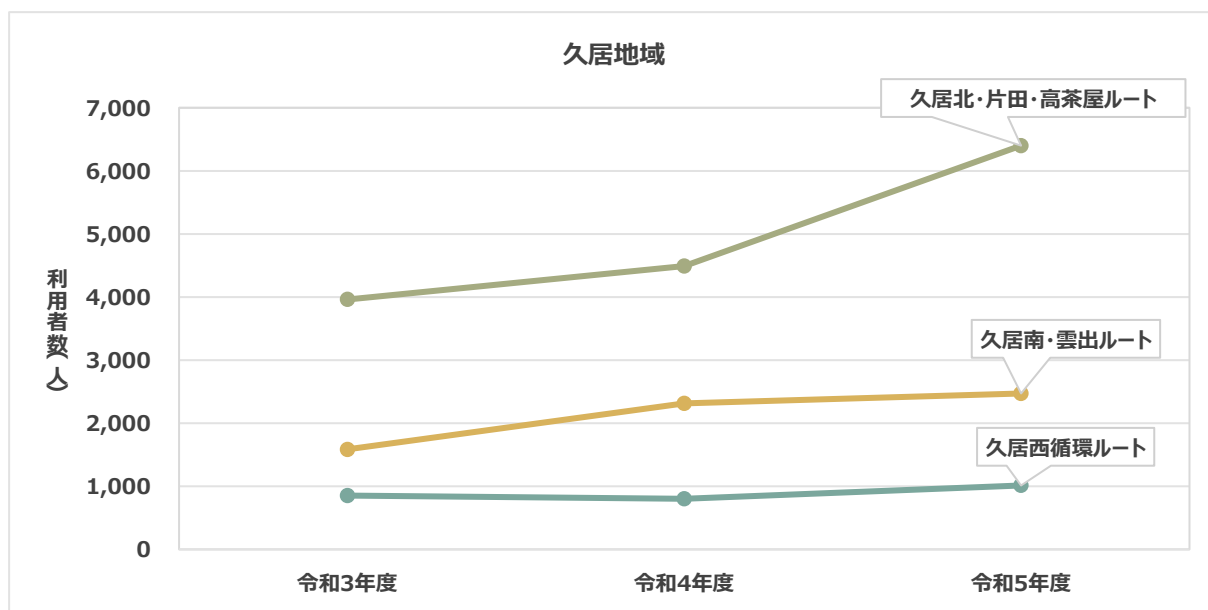


図 43 ルート毎の利用者数推移(久居地域)

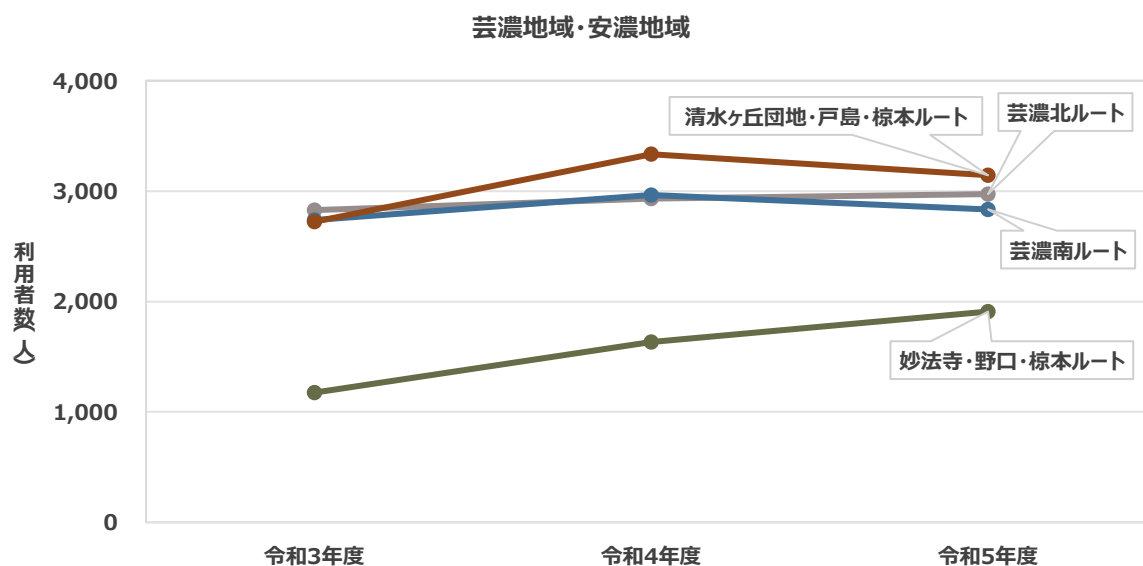


図 44 ルート毎の利用者数推移(芸濃地域・安濃地域)

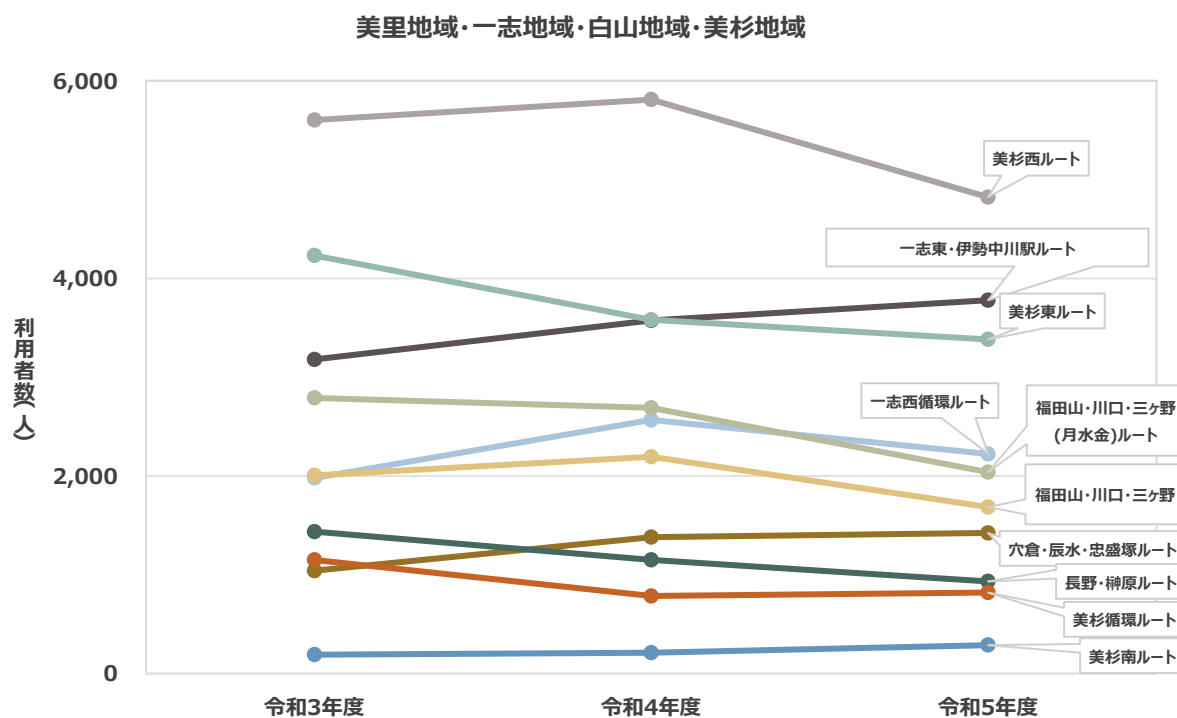


図 45 ルート毎の利用者数推移(美里地域・一志地域・白山地域・美杉地域、八対野・大三ルートを除く)

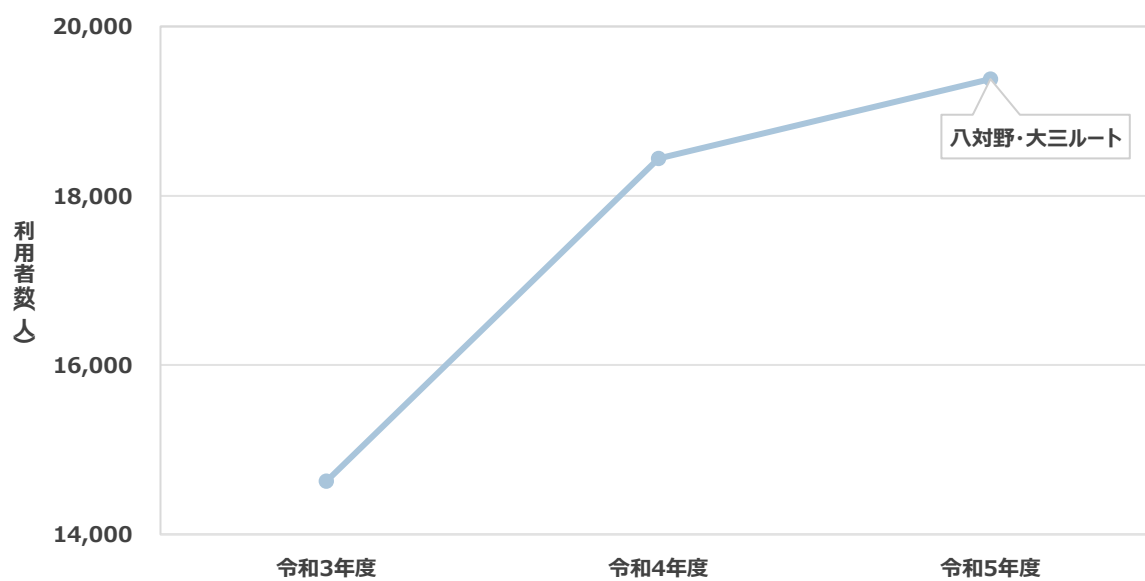


図 46 (白山地域)八対野・大三ルートの利用者推移

コミュニティバスの収入は、補助金収入が半数以上を占めています。令和元年度使用料収入が約 500 万円でしたが、その後は減少傾向で、400 万円を下回っています。運行経費は令和 3 年度以降、上昇傾向です。

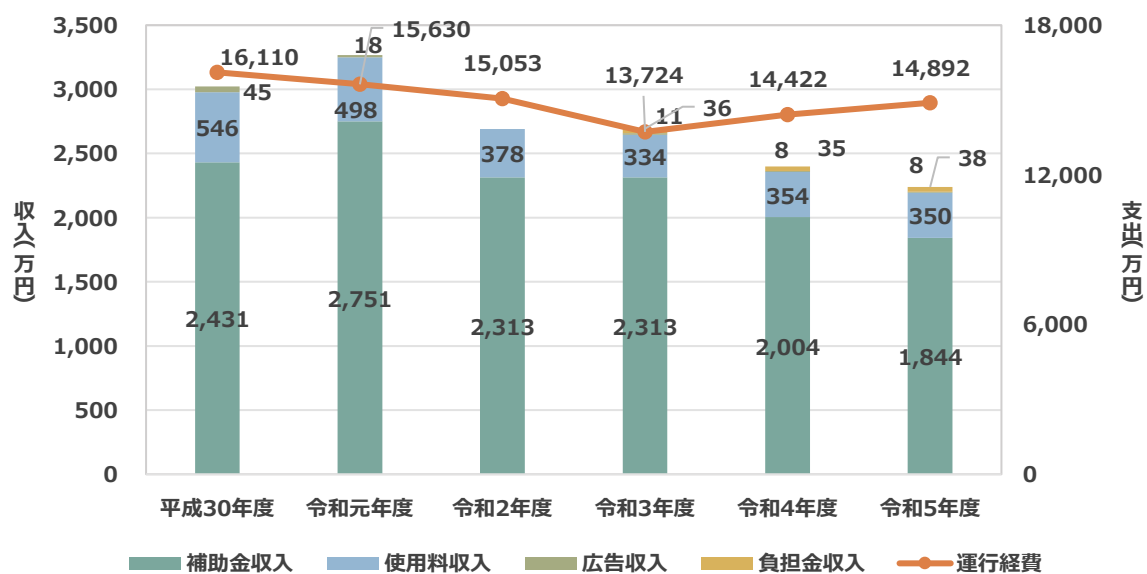


図 47 コミュニティバスの運行収支

4) 地域住民運営主体型コミュニティ交通

令和6年7月1日現在、津市内で地域住民が主体となって運行しているコミュニティ交通は、以下のとおりです。

表 21 住民主導型コミュニティ交通の概要

運行地区	運行内容	経緯
高松山団地 (津地域)	乗合ワゴン	平成25年1月から3月まで実証運行、平成25年4月から本格運行開始
二俣地区 (白山地域)	乗合タクシー	平成27年12月から平成28年2月まで実証運行、平成28年3月から本格運行開始。令和6年10月末廃止
上佐田地区 (白山地域)	乗合タクシー	平成27年12月から平成28年2月まで実証運行、平成28年3月から本格運行開始。令和6年10月末廃止

毎年の利用者数にばらつきがあるため、運賃収入もばらついています。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け減少したものの、令和3年度には、高松山団地、上佐田地区の運賃収入は増加しています。しかしその後の運賃収入は、令和3年度まで達していません。二俣地区は、令和5年度まで利用者がいないため、運賃収入がありません。

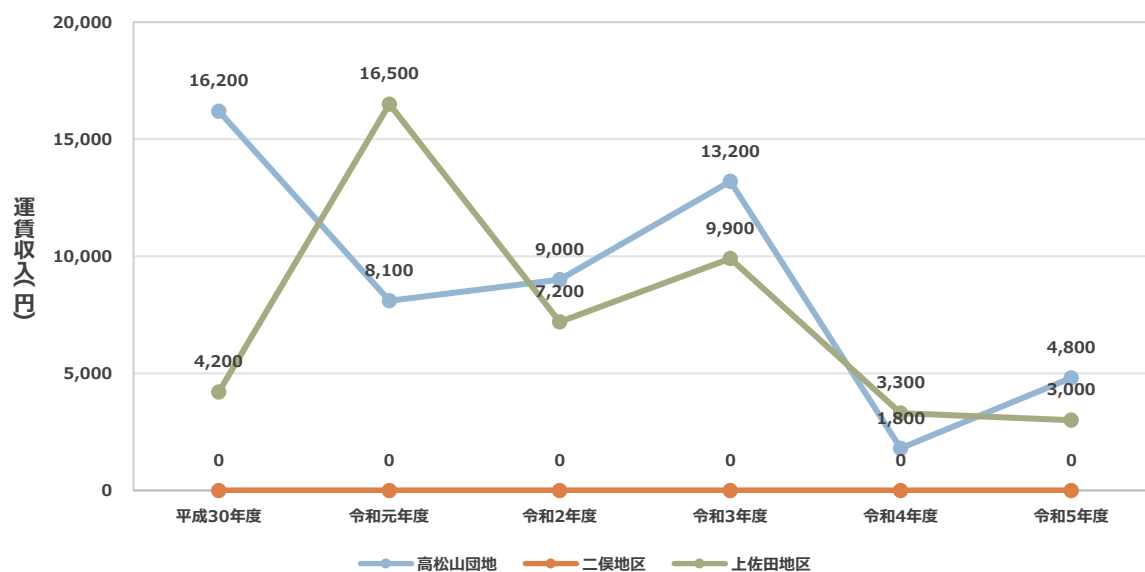


図 48 地域住民運営主体型コミュニティ交通の運賃収入

(4) タクシー

津市及び松阪市(旧嬉野町、旧三雲町)で「津交通圏」を形成しており、令和6年7月1日現在、津市内には事業者が9社あります。タクシーの稼働状況及び利用状況は、以下のとおりです。

表 22 タクシー事業者一覧

会社名	所在地	特大	大型	普通	特殊	計
三重近鉄タクシー(株)津営業所	津市岩田字丸山 1 番 8 号	1		44		45
安全タクシー三重(株)津営業所	津市津興字釜屋 3193	1		15		16
三重第一交通(株)	津市寿町 92			31		31
共和タクシー(有)中町営業所	津市中央 6-27			15		15
久居交通(株)久居営業所	津市戸木町字多度 4113-37	3		33	1	37
つタクシー(有)	津市乙部 2016			11		11
(有)中川タクシー	津市垂水 1348 番地			7		7
河芸タクシー(有)	津市河芸町東千里 132-5			14		14
(株)一志運輸	津市一志町高野 225-1	1		3		4

((一社)三重県タクシー協会提供資料)

※)令和6年7月末時点

表 23 タクシーの稼働状況及び利用状況

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
車両数	232	230	224	223	192	186	189	187	179	178
実働車両数	55,835	53,500	52,604	50,293	46,761	42,799	40,782	41,159	37,540	36,066
輸送人員	1,252,915	1,188,611	1,148,055	1,130,234	1,048,997	903,057	516,893	554,795	677,096	682,350
総実車キロ	3,325,422	3,288,153	3,189,161	3,156,182	2,999,817	2,653,608	1,517,557	1,599,383	1,936,831	1,986,018
営業収入 (千円)	1,400,163	1,378,923	1,355,882	1,354,550	1,293,790	1,087,499	684,145	739,741	891,644	948,573

((一社)三重県タクシー協会提供資料)

※) 令和6年7月末時点

輸送人員及び営業収入は、平成 26 年度から減少傾向にあり、さらに令和 2 年には新型コロナウイルス感染拡大の影響によって 51.7 万人/年に落ち込みましたが、その後は増加傾向にあります。

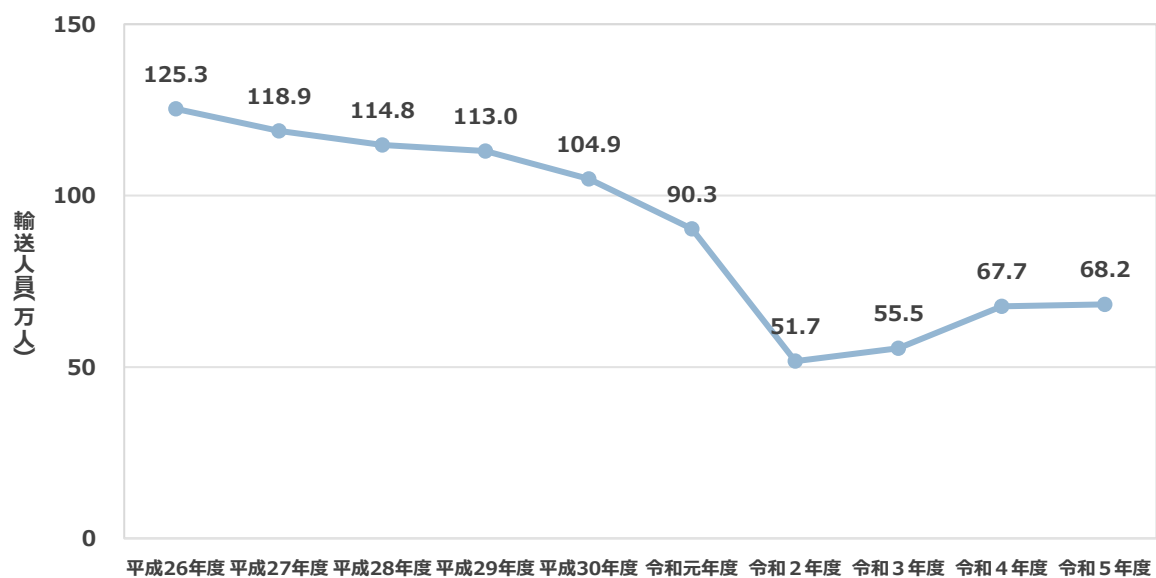


図 49 タクシーの輸送人員

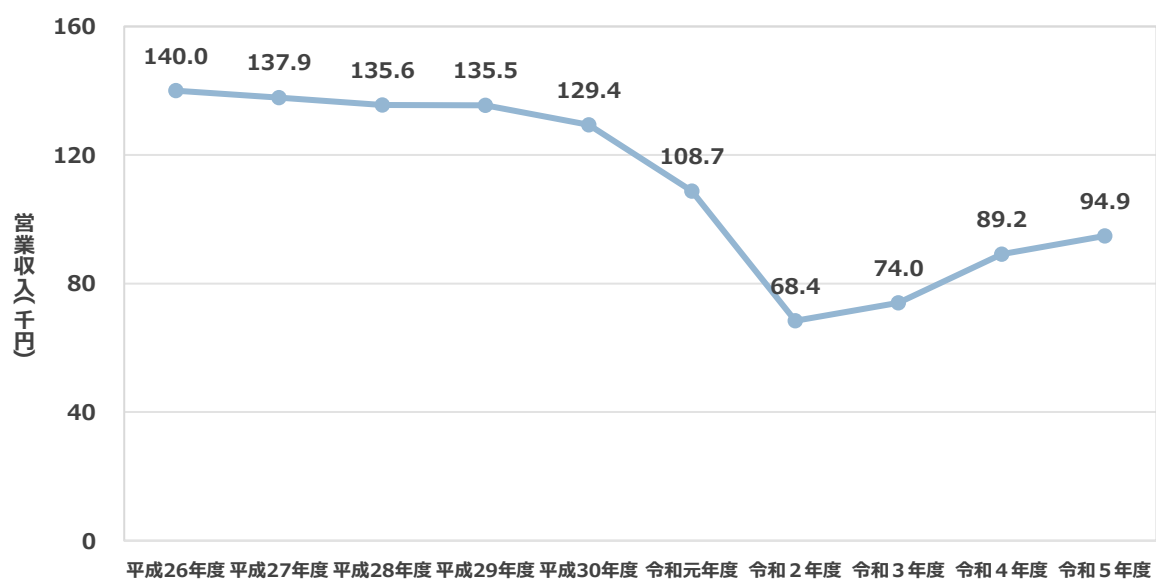


図 50 タクシーの営業収入

(5) 航路(津エアポートライン)

津エアポートラインの利用者数は、令和元年度までは、年間利用者数は約 26 万人～29 万人の間を推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中部国際空港での航空機の発着便数が減少したことに伴い、利用者が大幅に減少したことから、運休や減便を行い、令和 2 年度の乗船者数が約 2.5 万人まで落ち込みました。令和 5 年度の乗船者数は約 16.2 万人/年で、近年は増加傾向にあります。中部国際空港での航空機の発着便数が回復していないことから、運行便数は令和元年度以前の水準には戻っていない状況です。

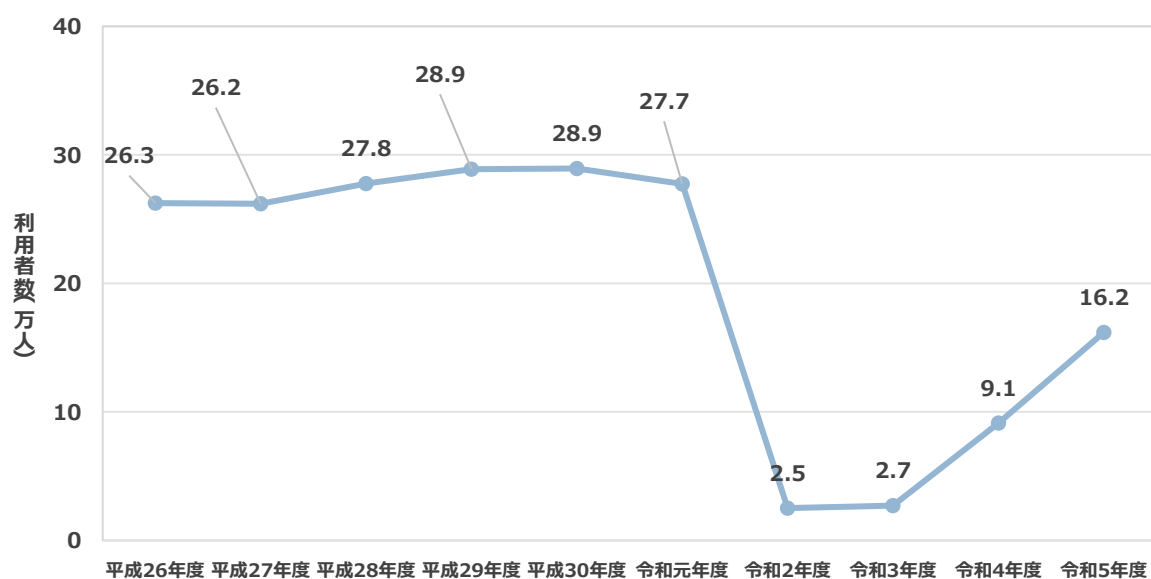


図 51 津エアポートライン 年度別乗船者数

表 24 津エアポートライン 年度別乗船者数

【単位：人】

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
262,536	261,858	277,590	288,954	289,387	277,326	25,217	27,220	91,474	161,741

(6) 福祉有償運送登録法人

現在、福祉有償運送登録法人は、13 法人登録されています。

表 25 福祉有償運送登録法人一覧

法人名	事業所名	事業所所在地
社会福祉法人あけあい会	ルミナスビレッジ曽根 訪問介護サービスセンター	安濃町
みえなか農業協同組合	あいけあセンター	白山町
社会福祉法人 洗心福祉会	津中央ヘルパーステーション シルバーケア豊寿園	本町
	白塚訪問介護ステーション シルバーケア豊寿園	白塚町
	久居訪問介護ステーション シルバーケア豊寿園	久居新町
社会福祉法人 いろどり福祉会	ホームヘルパーステーション花袖	棕本
社会福祉法人 こしば福祉会	介護老人保健施設トマト	殿村
特定非営利活動法人 おもいやり介護の会 つくしんぼ	特定非営利活動法人 おもいやり介護の会 つくしんぼ	一色町
社会福祉法人 実践	実践 津	大倉
医療法人 和	さくらケアサービス	本町
特定非営利活動法人 共同連三重	特定非営利活動法人 共同連三重	稲葉町
特定非営利活動法人 ゆずの木会	訪問介護ステーション スリースマイル	岩田
特定非営利活動法人 ホワイトライフ	居宅・訪問介護ステーション そら	木造町
特定非営利活動法人 スマイルハート	スマイルハート	垂水
社会福祉法人 サザンコート	訪問介護事業所 サザンコート	鳥居町

(7) その他の移動サービス

1) スクールバス

小学校の統廃合に伴う通学距離増大への対応として、一部地域で津市教育委員会によるスクールバスを運行しています。

表 26 津市におけるスクールバス運行状況

地域名	学校名	車両数 (台)	利用者数 (人)	利用対象
芸濃	芸濃小学校	4	64	旧雲林院小学校、旧安西小学校 の校区の児童が乗車対象
美里	みさとの丘学園	5	139	旧辰水小学校、旧長野小学校及 び旧高宮小学校の一部が対象
一志	一志西小学校	3	42	旧波瀬小学校及び旧大井小学校 の一部が対象
美杉	美杉小学校	3	31	通学距離が 4km 以上
	美杉中学校	4	29	通学距離が 6km 以上

※) 利用者数は令和 6 年 4 月現在

2) 送迎バス

学校、企業、施設等において、独自に送迎バスを運行していることがあります。

道路運送法適用対象外の送迎バスの内、津駅周辺発着のものは、以下のとおりです。

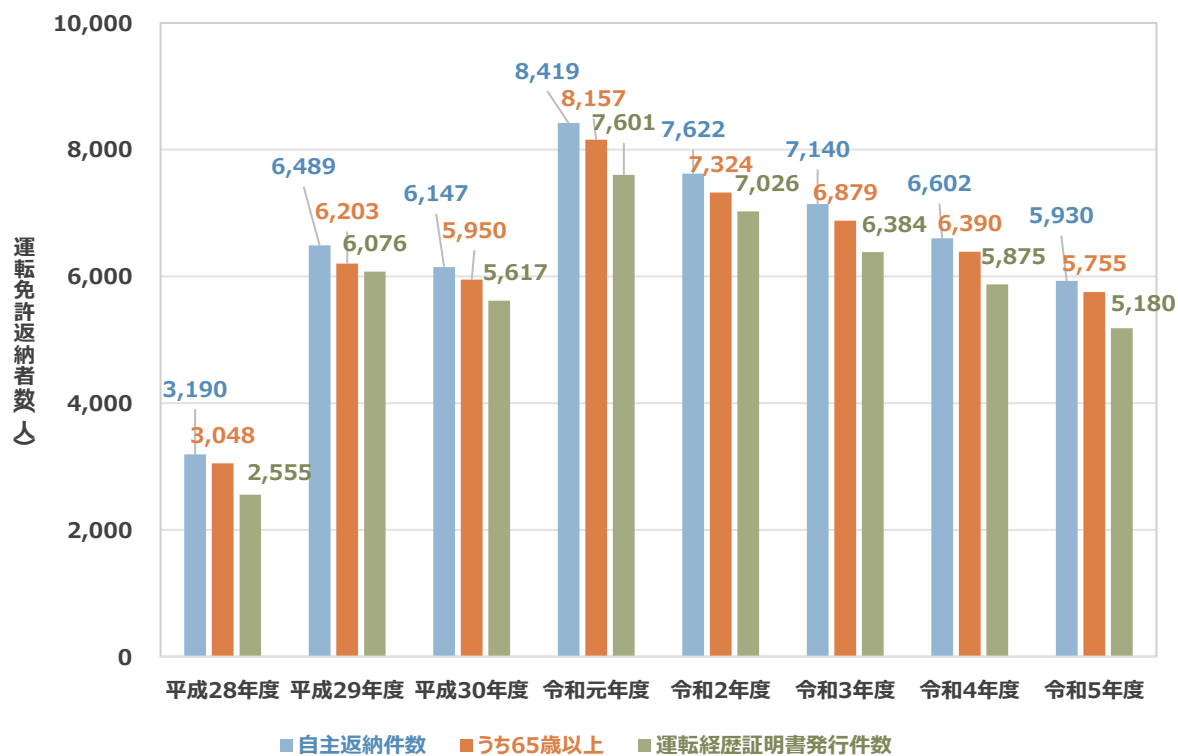
表 27 津駅周辺発着の送迎バス

分類	施設名称	発着場所	運行頻度
学校	高田短期大学	三重県護国神社境内	1 日 4 便(乗車のみ)
		津駅西口ロータリー	1 日 6 便(降車のみ)
	セントヨゼフ女子学園	津駅東口ロータリー	1 日 1 便(降車のみ)
	三重大附属 特別支援学校	津駅西口ロータリー	1 日 2 便(乗降とも)
企業	パナソニック	県道津停車場線上	1 日 4 便(乗降とも)
施設	フェニックスビル	県道津停車場線上	1 日 10 便(乗降とも)
	日本赤十字社	津駅西口北側市道上	1 日 5 便(乗降とも)
	津トップスイミング	津駅西口ロータリー	1 日 4 便(乗降とも)
	ラウンドワン	県道津停車場線上	1 日 15 便(乗降とも)
	三重高等自動車学校	アスト津前	1 日 12 便(乗降合計)
	津ポート	県道津停車場線上	1 日 8 便(乗降合計)

(8) 運転免許自主返納件数

三重県内における運転免許自主返納件数は、令和元年度までは増加傾向にあったものの、令和二年度以降は減少傾向にあります。

自主返納件数のうち、9割以上が65歳以上です。



(出典：運転免許証自主返納サポートみえ)

図 52 三重県内の運転免許証自主返納件数

4. 観光客入込客数

津市の観光入込客数は、以下のとおりです。

新型コロナウイルスによる影響で、令和２年度は約 251 万人/年でしたが、その後は増加傾向となっています。

表 28 観光客入込客数

地域	施設等	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
津	津の海	239,780	51,320	91,350	150,450	202,210
	高田本山専修寺	321,888	289,711	155,000	221,000	296,000
	津偕楽公園春まつり	50,000				
	津観音寺	235,000	205,000	205,000	215,000	210,000
	津花火大会	150,000			80,000	170,000
	津まつり	232,000			180,000	210,000
	結城神社	175,361	165,371	164,651	193,311	194,527
	県立美術館	83,068	37,476	119,001	97,337	54,627
	三重県総合博物館	262,754	82,911	103,282	130,021	164,116
	朝津味	467,144	402,300	598,275	373,122	380,481
久居	榊原温泉	302,534	201,837	199,567	184,561	301,474
	久居まつり(春)	5,500				
	久居まつり(秋)				11,000	5,500
	おやつタウン			119,000	194,962	254,600
	久居花火大会	60,000				55,000
河芸	道の駅「津かわげ」	812,939	763,880	729,589	752,545	751,578
安濃	あのう温泉	52,885				
一志	とことめの里一志	280,248	223,580	184,198	218,544	223,007
白山	猪の倉温泉	123,553	87,029	79,530		
美杉	美杉リゾート	68,538		18,743	26,271	62,648
	三多気桜まつり	15,000				
	みすぎ夏まつり	16,000				15,000
	道の駅「美杉」			30,588		
合計		3,954,192	2,510,415	2,797,774	3,028,124	3,550,768

(出典：三重県観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書)

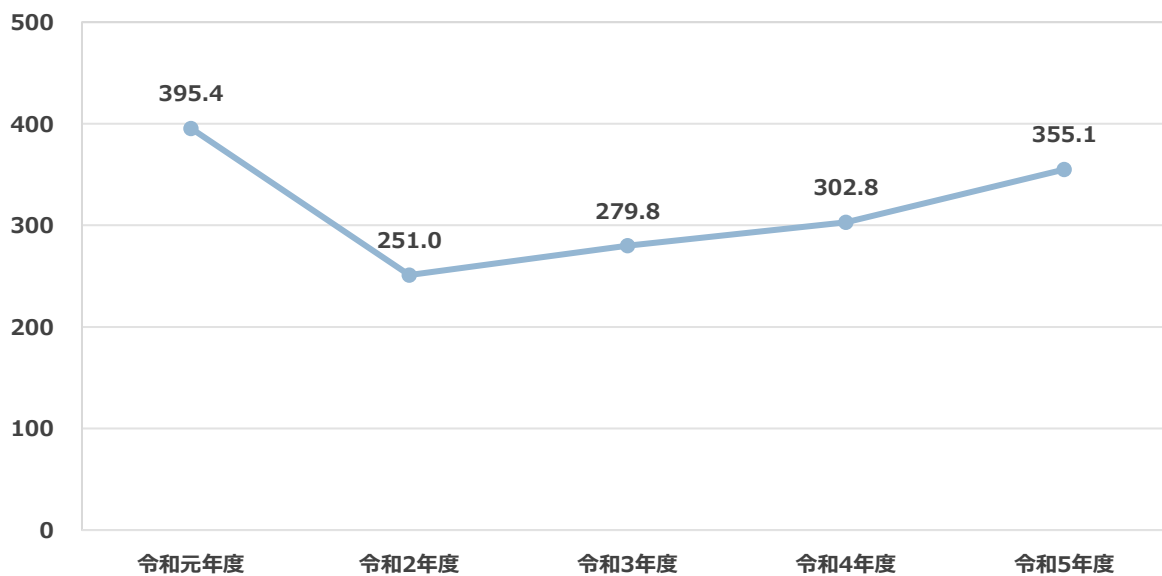


図 53 観光客入込客数

5. アンケート結果

(1) 津市総合計画のための市民意識調査

1) 概要

津市への愛着度や定住意向をはじめ、各施策に係る満足度や重要度などを把握するため実施した令和5年度津市市民意識調査の結果を取りまとめました。

2) 調査の手法・回答結果

調査対象：津市在住の15歳以上の方(令和5年6月30日時点)

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：郵送配付・郵送またはWebにより回収

調査時期：令和5年7月5日～8月31日

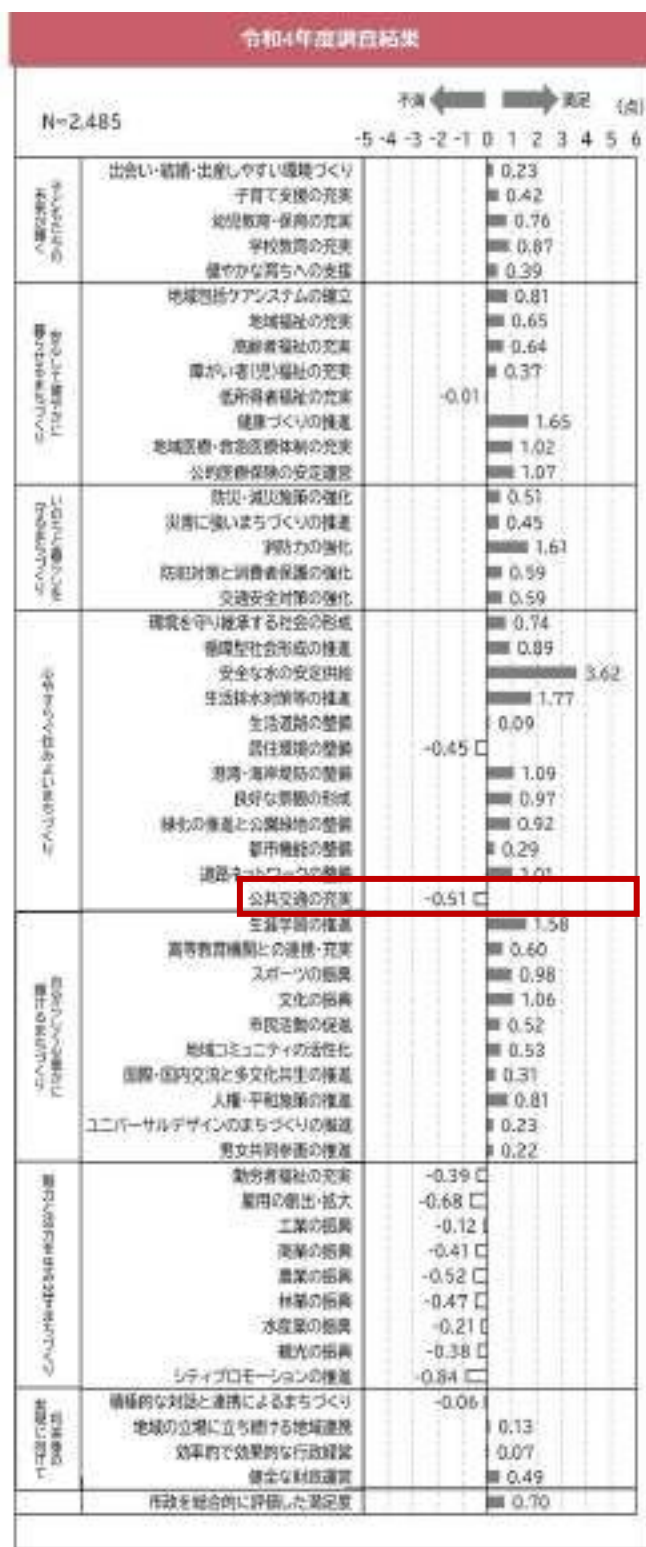
配付数：7,000票・回収数：2,492票(内Web回答621票)

※うち重複等のため未採用7票

有効回収数：2,485票・有効回収率：35.5%

3) 公共交通の充実に関する満足度について

「公共交通の充実」に関する満足度(-0.51)は、と平成28年度調査の結果(0.11)のより下回る結果となりました。前回の調査から「不満」、「やや不満」の割合が、「満足」、「やや満足」の割合を上回りました。



※調査項目は、前回の調査から一部変わっているところがあります。

※表の数値は、満足度評価の回答の選択肢を「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」の5つとし、その結果を点数化したものです。

※満足度の点数は、以下の計算により算出しています。

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 10 + \text{「やや満足」} \times 5 + \text{「やや不満」} \times (-5) + \text{「不満」} \times (-10)}{\text{「無回答」を除いた回答数}}$$

満足度 =

図 54 津市総合計画策定のための市民意識調査における市政の満足度

地域別で見ると、「白山地域」(-3.19)で最も満足度が低く、次いで美里地域(-2.71)と続いています。続いて満足度の割合を見ると、旧一志郡地域では、「やや不満」、「不満」が合わせて30%以上を占めています。

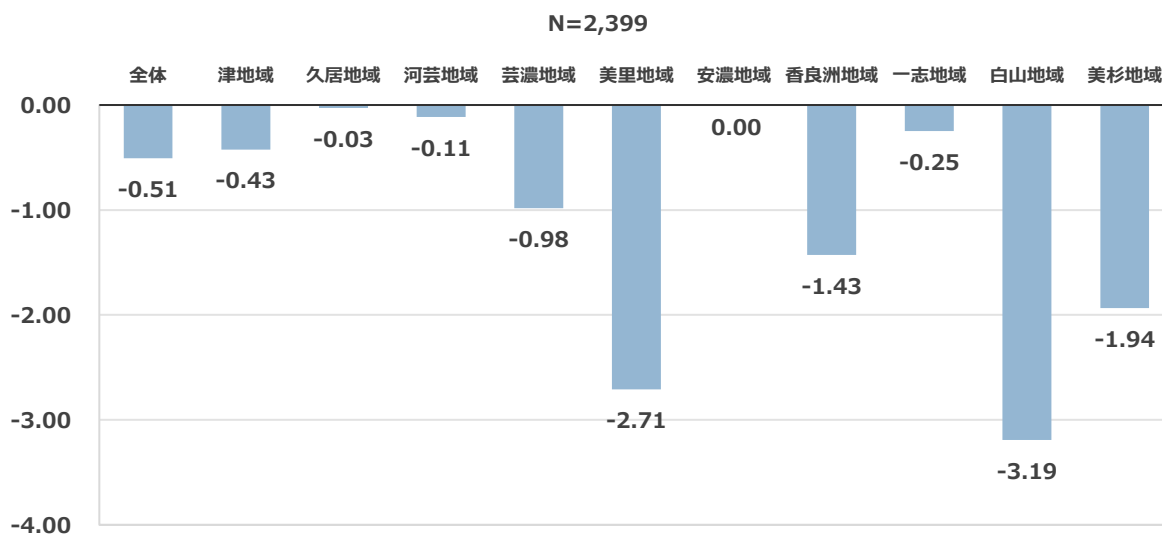


図 55 公共交通の充実に関する満足度について

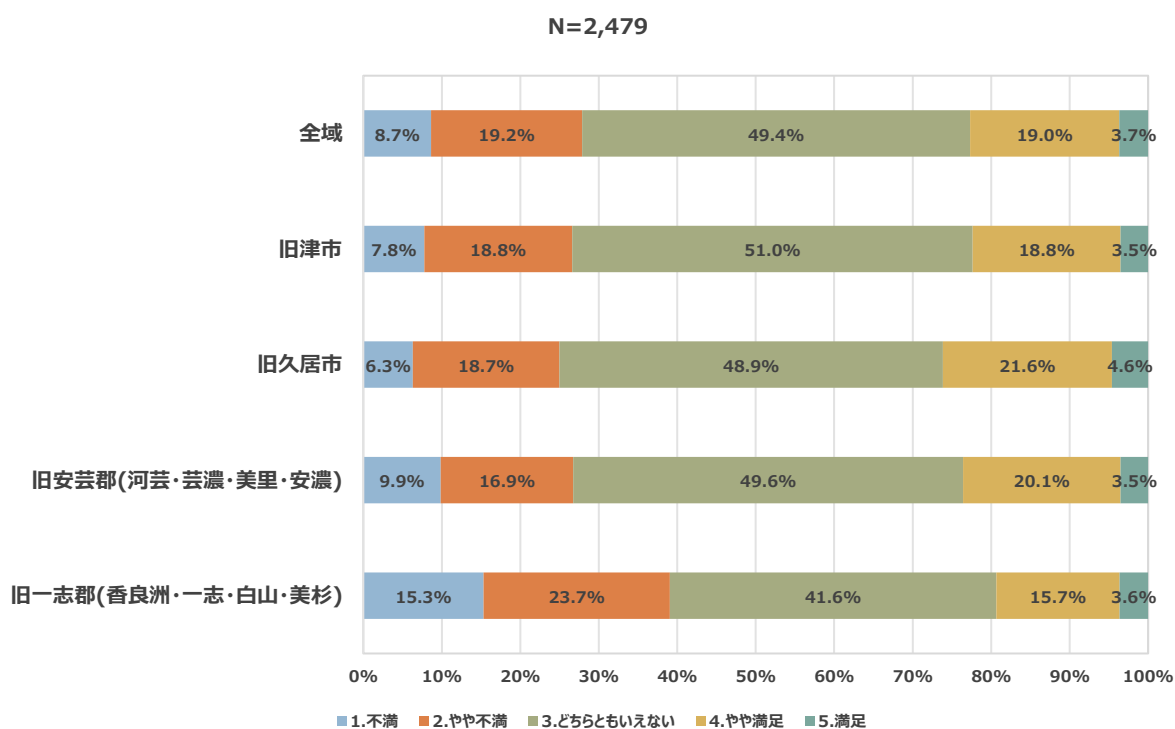


図 56 地域別公共交通の充実に関する満足度について

年代別に見ると、10代、20代、70代以上において「やや満足」が20%以上となっている一方で、30代から60代までの「やや満足」が20%を下回っている現状です。

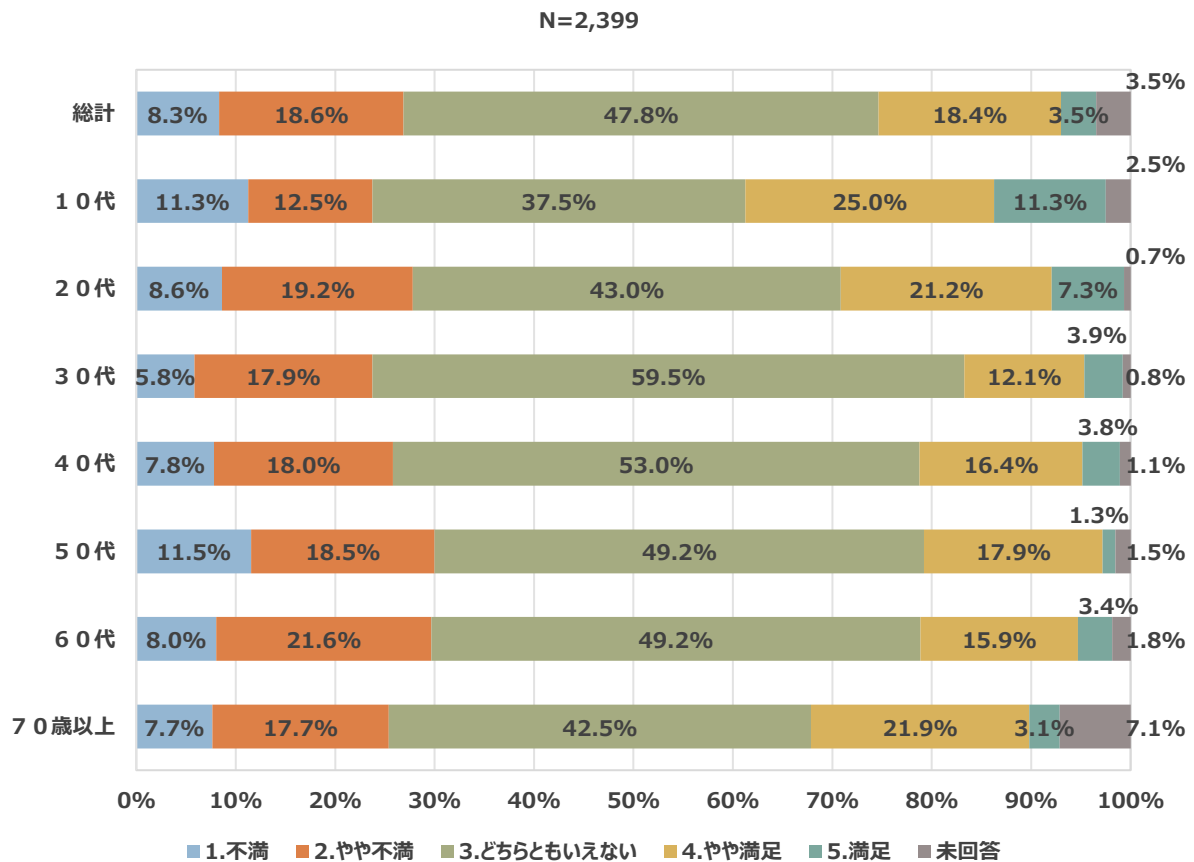


図 57 公共交通の充実に関する満足度について

(2) 市政アンケート

1) 概要

市政に対する市民の皆さんの考えや声を広くお聴きし、その結果を今後の市政運営に役立てるため、市政アンケートの回答結果を取りまとめました。その中で、公共交通(バス)に関する項目を抜粋しました。

2) 調査の手法・回答結果

実施時期：令和4年7月28日～令和4年8月20日

発送数：3,000 通

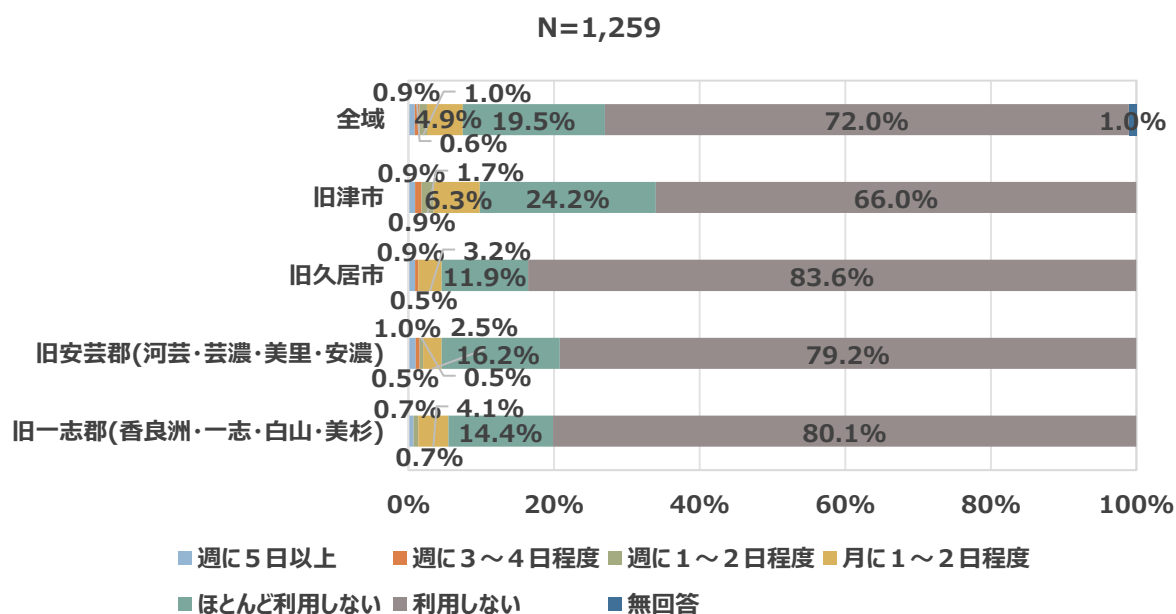
有効発送数：2,986 通(宛先不明 14 通)

有効回収数：1,259 通

回収率：42.2%(4/3))

3) バスの利用状況について

「利用しない」(72.0%)、「ほとんど利用しない」(19.5%)を除く『月に1日以上利用している人』は1割弱で、そのうち「月に1～2日程度」(4.9%)の割合が最も高くなっています。地域別でみると、旧津市において、月に1回以上利用している人が1割近くを占めています。一方で旧久居市、旧安芸郡の95%以上がほとんど利用しない現状となっています。



※)地域別の集計では、無回答を除外しています。

図 58 バス交通の利用状況

4) 利用するバス交通の種類

「利用しない」(72.0%)、「ほとんど利用しない」(19.5%)を除く『月に1日以上利用している人』は1「民間路線バス」(81.8%)が最も高く、次いで「どちらも利用」(7.1%)、「津市コミュニティバス」(4.1%)と続いています。津地域では、「民間路線バス」の割合が9割を上回っており、旧安芸郡では、「津市コミュニティバス」の割合が1割を上回っており、旧一志郡では、「どちらも利用」が1割を上回っています。

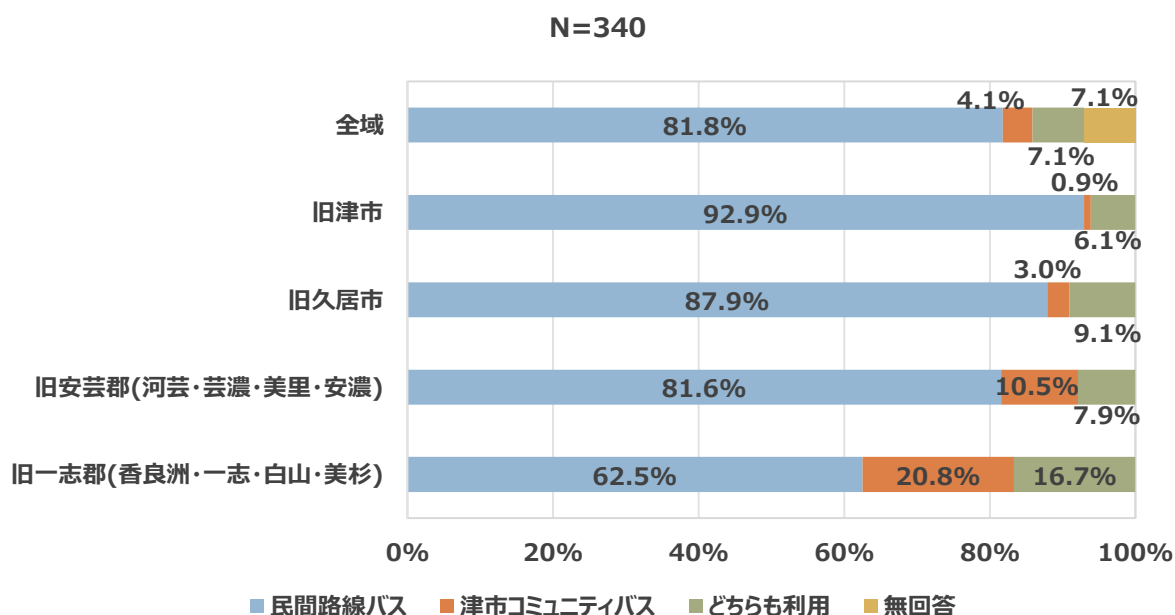


図 59 利用するバスの種類

5) バス交通を利用する際の目的地

「鉄道駅等」(47.4%)が最も高く、次いで、「医療施設」(21.5%)、「スーパー等の商業施設」(17.1%)と続いています。地域別でみると、旧津市では「鉄道駅等」が最も高く、旧一志郡では、「スーパー等の商業施設」、「医療施設」、「市役所」、「金融機関」などの日常生活に関わる目的地の移動が、他の地域と比較して高くなっています。

年代別で見ても、全年代で「鉄道駅等」が最も高く、50代では68.6%となっています。10代では「学校」への移動が、60代、70代では「医療施設」への移動が、他の年代より高くなっています。

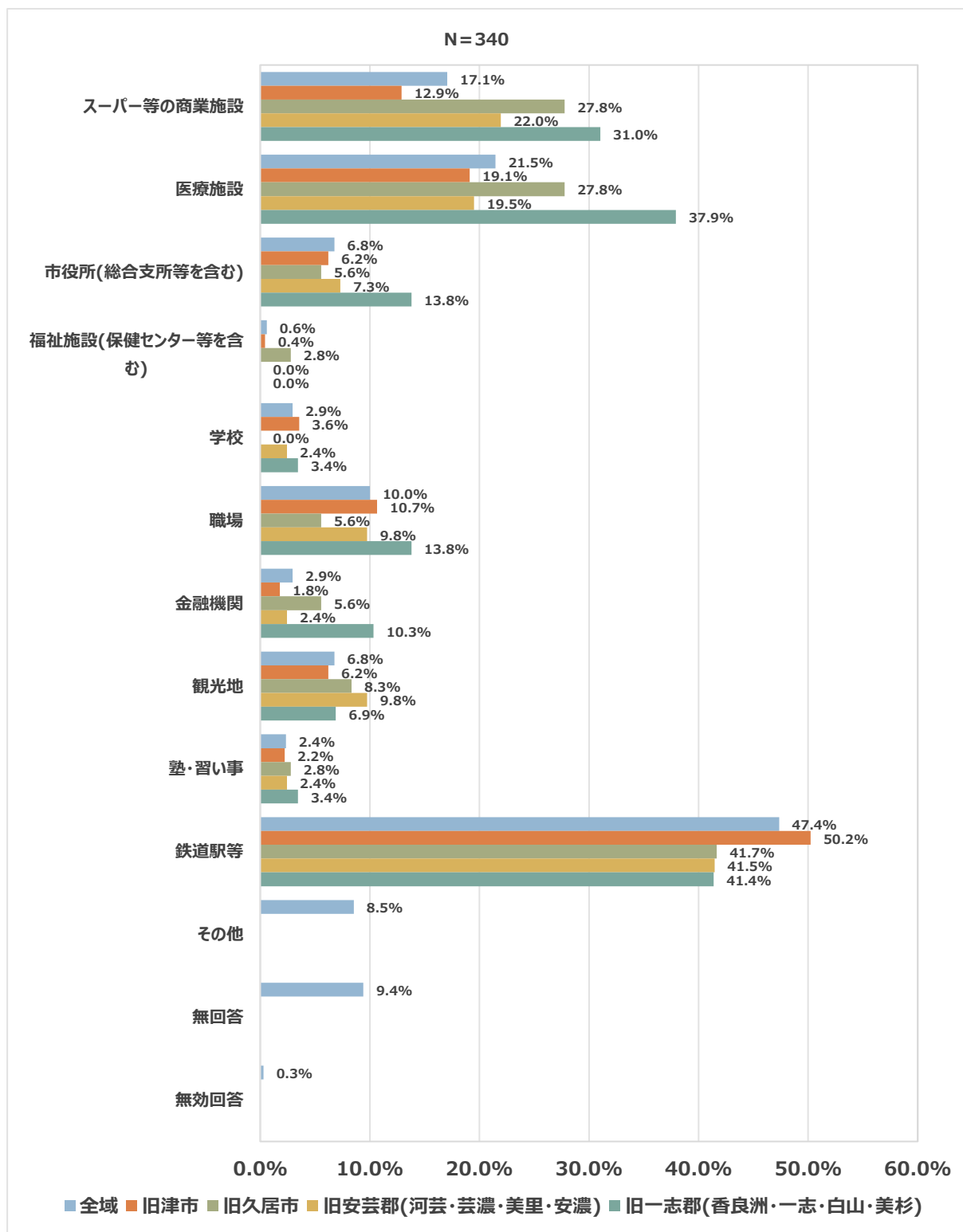


図 60 地域別バス交通を利用する際の目的地

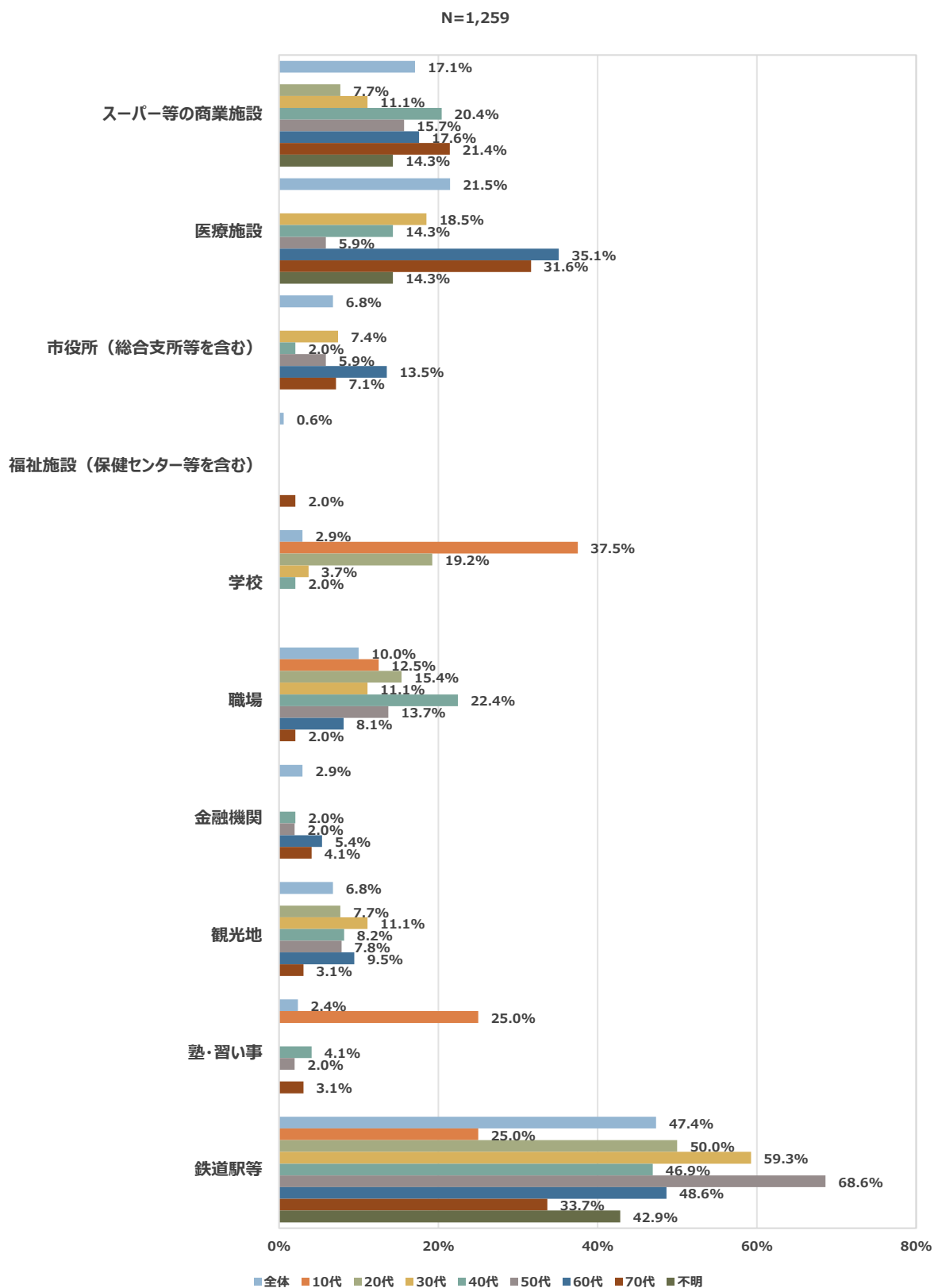


図 61 年代別バス交通を利用する際の目的地

6) バス交通について改善が必要なこと

「運行本数」(52.4%)が最も高く、次いで「自宅や目的地からバス停までの距離」(29.2%)、「運行時間」(27.1%)と続いています。また、地域別でみると、「運行本数」の割合が最も高く、旧安芸郡では、「運行時間」、「運賃」の割合が、他の地域と比べ高くなっています。

年齢別でみると、10代では「運賃」が他の年代より高くなっています。

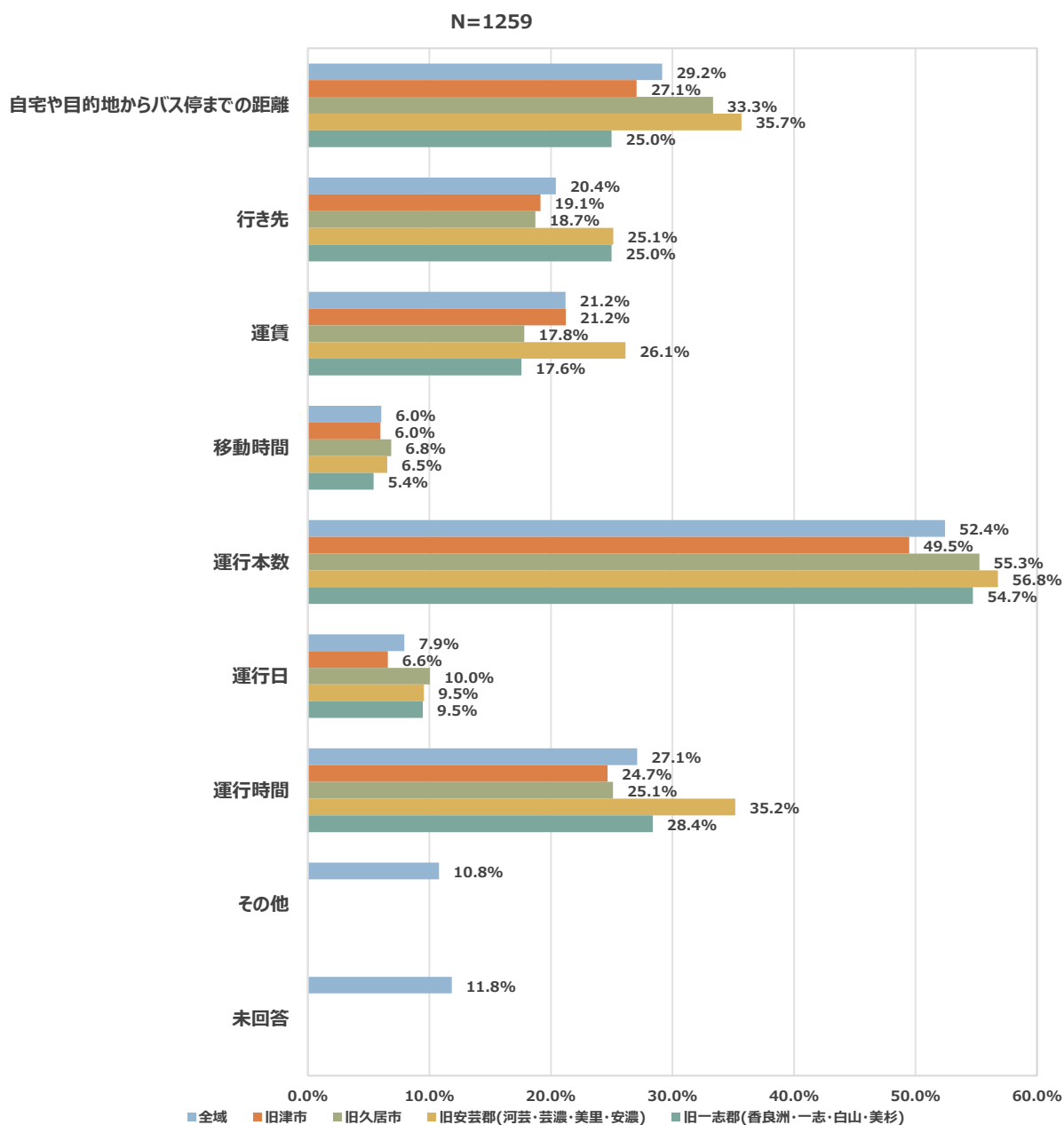


図 62 地域別バス交通について改善が必要なこと

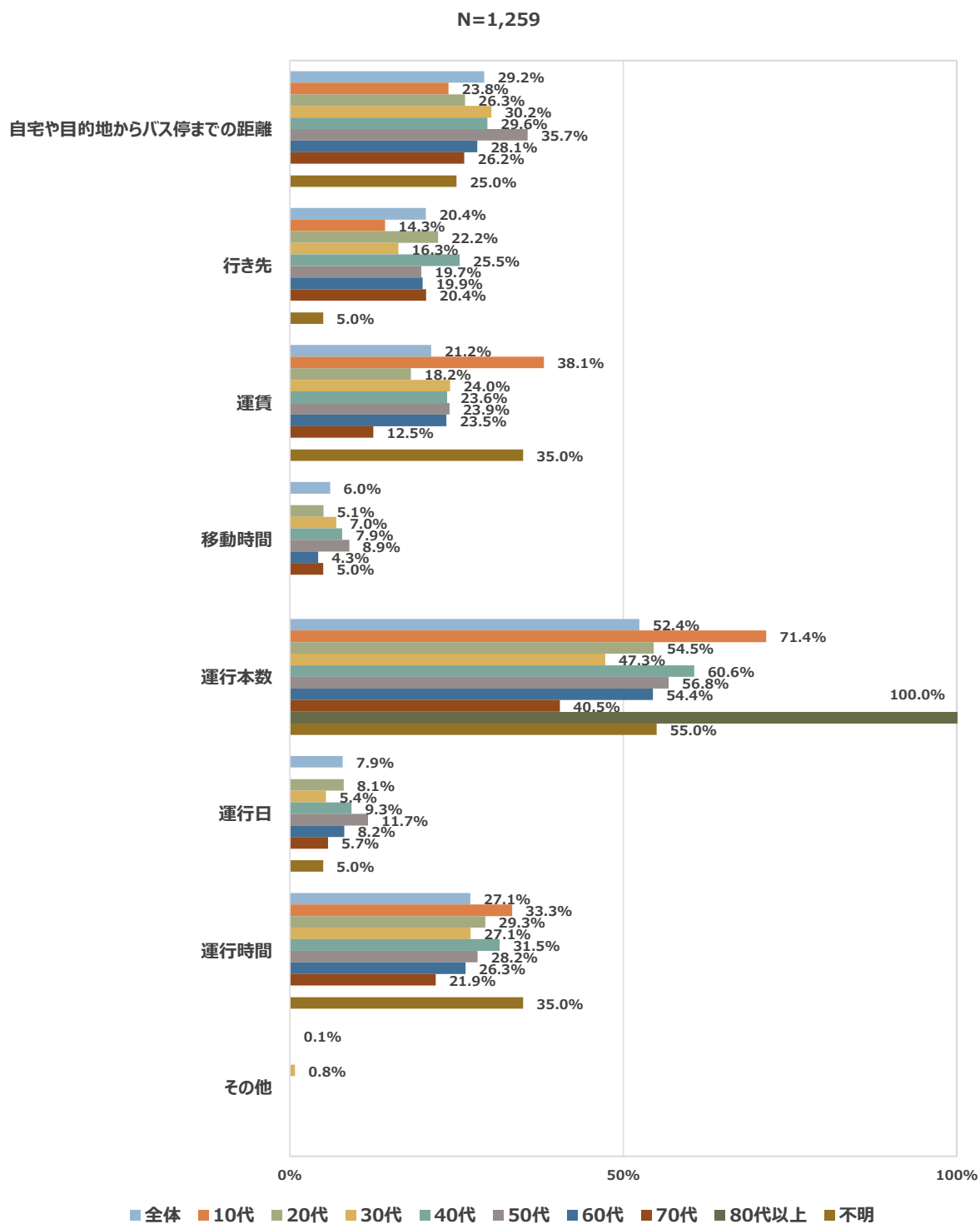


図 63 バス交通について改善が必要なこと

7) 自動車の使用状況

「自分専用の自動車があり、いつでも使用できる」(74.3%)が最も高く、次いで「家族共用の自動車があり、必要な時に使用できる」(8.2%)が続いています。地域別で見ると、旧津市の「自分専用の自動車があり、いつでも使用できる」割合がほかの地位距離も低い一方、旧安芸郡では 80%を超えています。

年代別で見ると、20 代から 70 代までの「自分専用の自動車があり、いつでも使用できる」が 60%以上となっています。10 代では、「自分専用の自動車があり、いつでも使用できる」が 23.8%と、総計に比べ低くなっているものの、「家族共用の自動車があり、他の家族が使用していない時は使用できる」が 33.3%と他の年代より高くなっています。

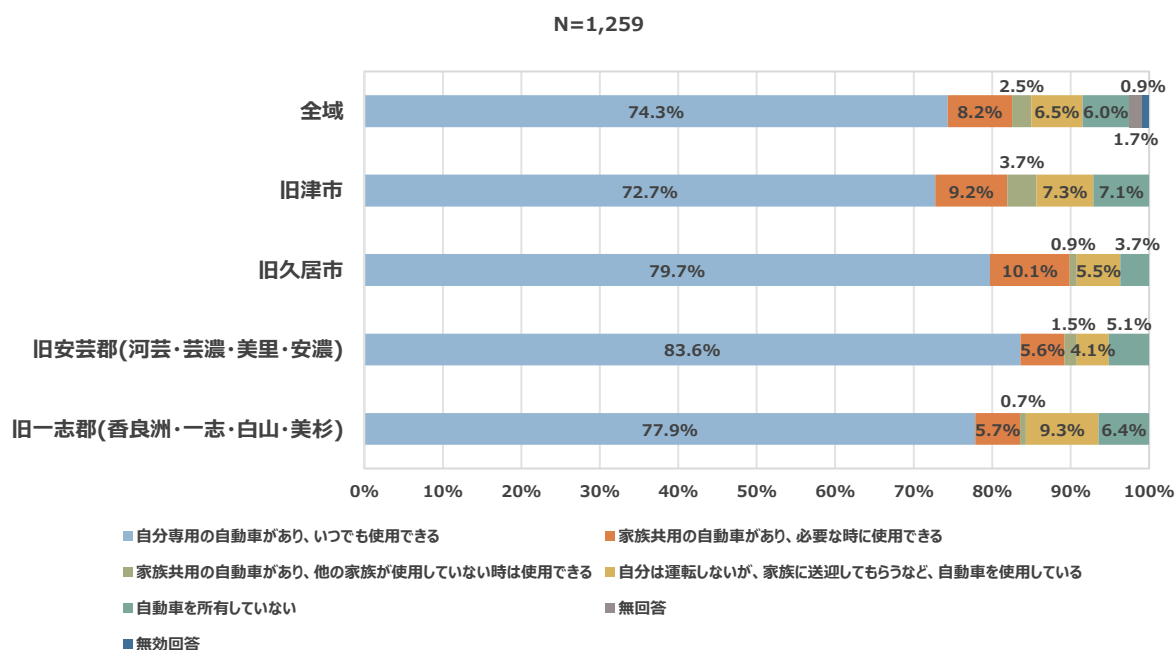


図 64 地域別自動車の使用状況

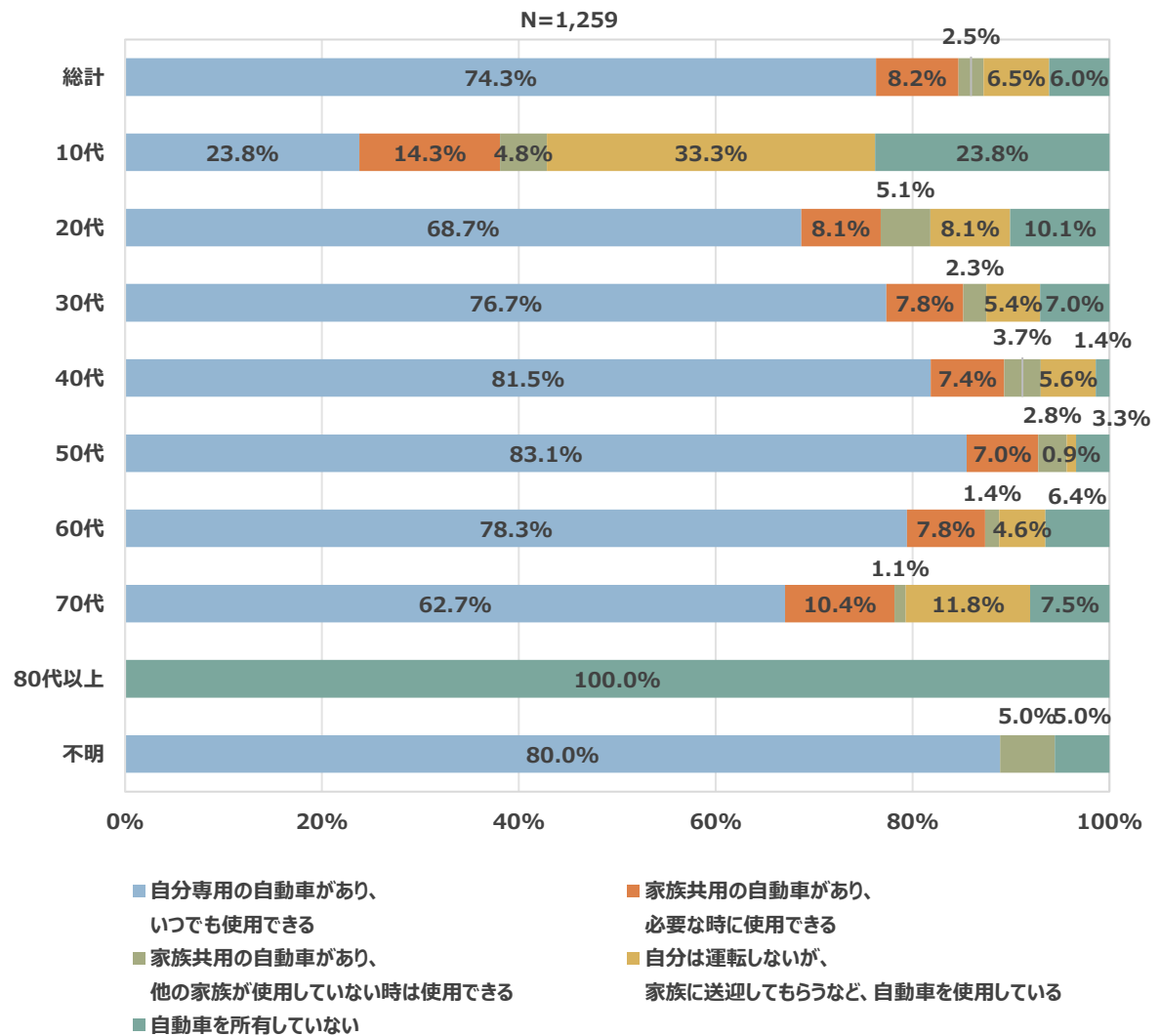


図 65 年齢別自動車の使用状況